



Kyoto University
Academic Day 2025



語りた
いは
ここ
にある

2025

京都大学
アカデミック
デー

わたしたちと
つなが
っている
研究は

We are connected to research.

Here, we can find what we want to talk about.

報告書

はじめに

2011年度から始まった「京都大学アカデミックデイ」は、今年度も2回開催しました。1回目は2025年9月27日、京都市と共催でゼスト御池(京都市役所前地下街)河原町広場・市役所前広場・寺町広場・御幸町広場、並びに京都市役所本庁舎地下2階オープンスペースにて開催。単独で大学の外での開催が3年目となった今年のイベントには、学部・大学院生含む156名(30組、うち1組は京都市との共催)の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者はアカデミックデイ始めて以来初となる1000名を突破、1002名に上りました。

2回目は2025年11月1日、本学のホームカミングデイとのコラボレーション企画として京都大学百周年時計台記念館2階国際交流ホールII・IIIにて開催。学部・大学院生含む45名(20組)の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者は478名に上りました。

「京都大学アカデミックデイ」は、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的に、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に広く多くの方の声を反映させることで、大学と社会との間で知を共有することを目指しています。

昨年度と同じく学外で開催したあと、学内で開催することで、学外・学内の二つの場を往還する対話型事業となった今年度、様々な来場者との対話を促す企画としてこれまで核としてきた「研究者と立ち話」、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「研究者の本棚」の3つの企画は2回ともに実施しました。加えて会場面積が大きなゼスト御池でのアカデミックデイでは、昨年度同様「お茶を片手にトーク◎トーク」も企画。出展ブースを紹介する出展者ピッチプレゼン動画の放映や座談会を特設ステージで実施することで、道行く人々が気軽に立ち寄れる工夫をしました。

企画のデザインや運営は総合研究推進本部(KURA)が行いました。今回の開催の経験、参加者からの意見を参考にしながら、今後の対話活動をさらに発展させていきます。

京都大学アカデミックデイ 2025

京都大学アカデミックデイ 2025@ゼスト御池

開催日時:2025年9月27日(土)11時から18時

会場:ゼスト御池(京都市役所前地下街)

河原町広場・市役所前広場・寺町広場・御幸町広場

京都市役所本庁舎地下2階オープンスペース

京都大学アカデミックデイ × ホームカミングデイ 2025

開催日時:2025年11月1日(土)11時から17時

会場:京都大学百周年時計台記念館2階国際交流ホールII・III

湊総長からの メッセージ

京都大学アカデミックデイにご参加のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。歴史的に京都大学は自由な発想による独創的な研究により知を創造し、新しい知的価値の創出によって人々の福祉と社会の発展に貢献してきた大学であり、時代を超えて継承されてきた伝統があります。



今日、私達は予想を超えるテンポで進行する地球の気候変動と大規模な自然災害や地球環境悪化、様々な国際的対立抗争の激化や格差の拡大、さらには新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大など、地球上の人々の生命と健康を脅かす多くの困難な課題に直面しています。今京都大学として、高度な多様性をもつ総合研究大学ならではの強みを最大限に生かし、これらの地球社会における多面的で困難な諸課題の解決に向けて真摯かつ果敢に挑戦し、着実にその成果を社会に発信していく必要があると思っています。

京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者が直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、実際に研究が営まれている現場の様子や、1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。この機会を利用して、是非、研究者に直接疑問やご意見を投げかけてください。みなさまとの直接対話は、研究者にとっても自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す良い機会となりますし、成果の社会還元の可能性や新たな活躍の場が広がることでしょう。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 湊 長博

目次

報告書の中盤までは二部構成となります。

第一部 京都大学アカデミックデイ 2025@ゼスト御池	p. 4
第二部 京都大学アカデミックデイ × ホームカミングデイ 2025	p. 67

それぞれの部に以下の内容が記載されています。

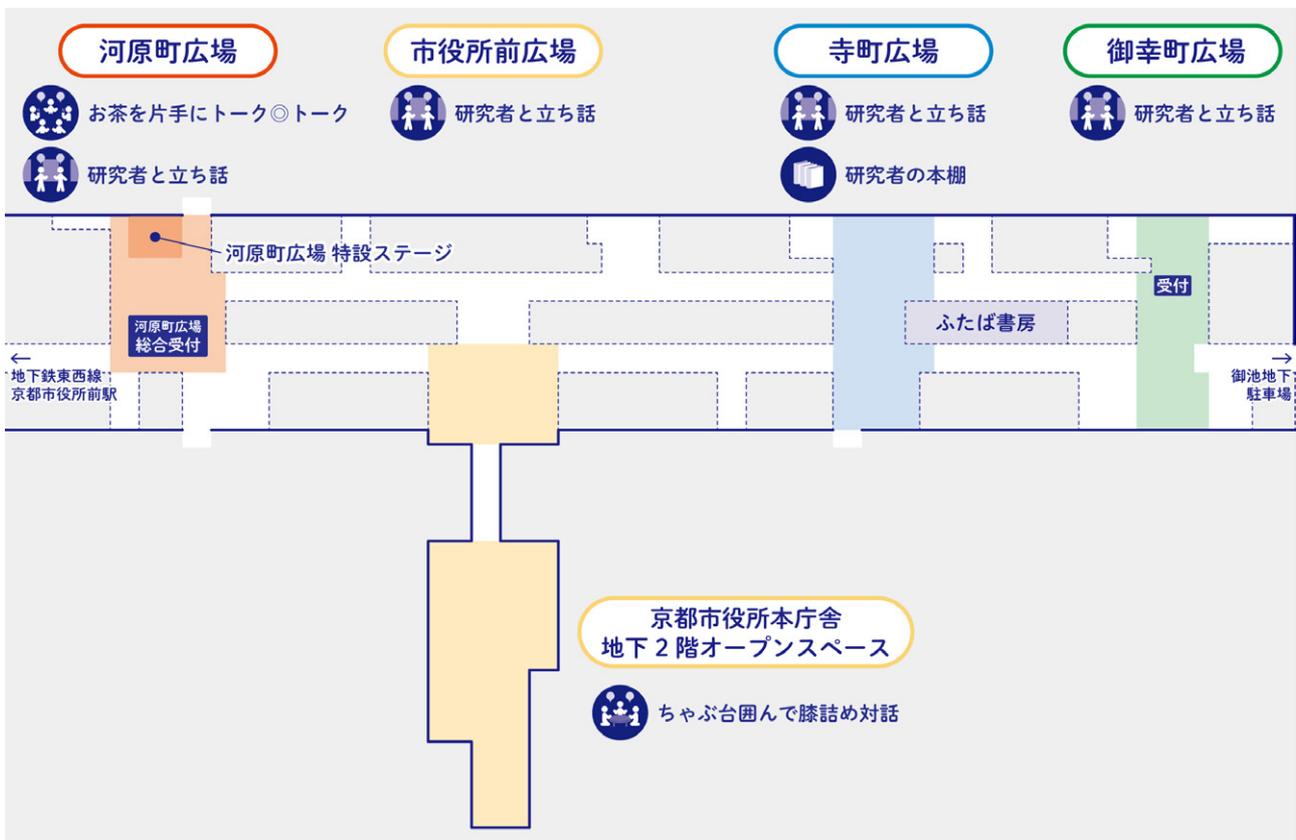
1. 概要
 - 1-1. 会場配置図
 2. プログラム
 - 2-1. 研究者と立ち話
 - 2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
 - 2-3. お茶を片手にトーク◎トーク(ゼスト御池開催のみ)
 - 2-4. 研究者の本棚
 - 2-5. 附属図書館連携企画(ゼスト御池開催のみ)
 3. アンケート
 - 3-1. 来場者アンケート
 - 3-2. 出展者アンケート
 - 3-3. 京都大学アカデミックデイ賞
 4. 出展者情報
 - 4-1. 研究者と立ち話
 - 4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
 - 4-3. 出展参加者一覧
- 以降の項目は、第一部・第二部まとめて114ページから記載されています。
5. その他
 - 5-1. 各種説明会
 - 5-2. 会場間の移動誘導企画(ゼスト御池のみ)
 - 5-3. 「京都大学」をアピールする仕掛け(ゼスト御池のみ)
 - 5-4. 広報物
 6. 支援体制・準備スケジュール
 - 6-1. 支援体制
 - 6-2. スタップリスト
 - 6-3. 準備～事後スケジュール
 7. 資料
 - 7-1. ブックリスト

第一部 京都大学アカデミックデイ 2025@ゼスト御池

1. 概要

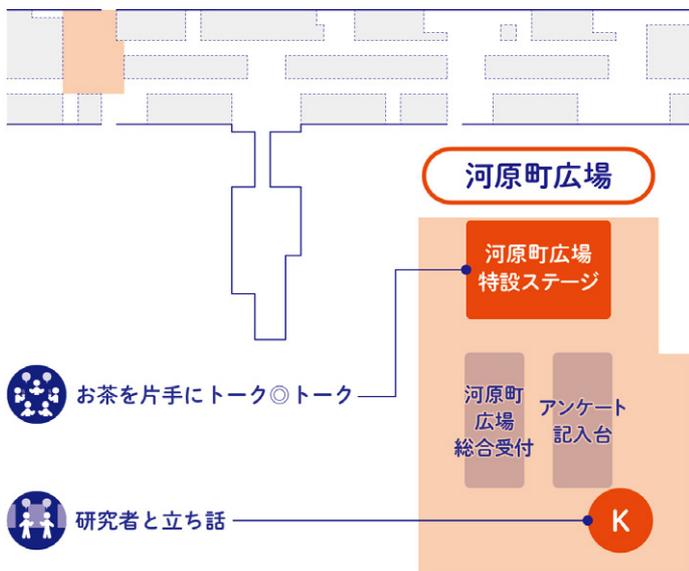
1-1. 会場配置図

1-1-1. 「京都大学アカデミックデイ 2025@ゼスト御池」配置図

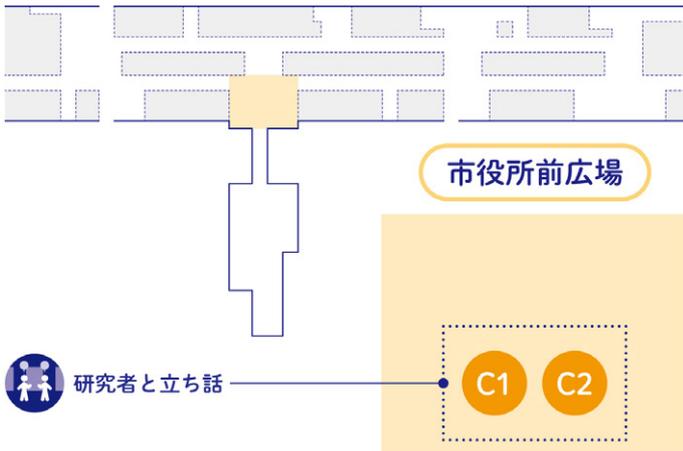


1-1-2. 各コーナーレイアウト

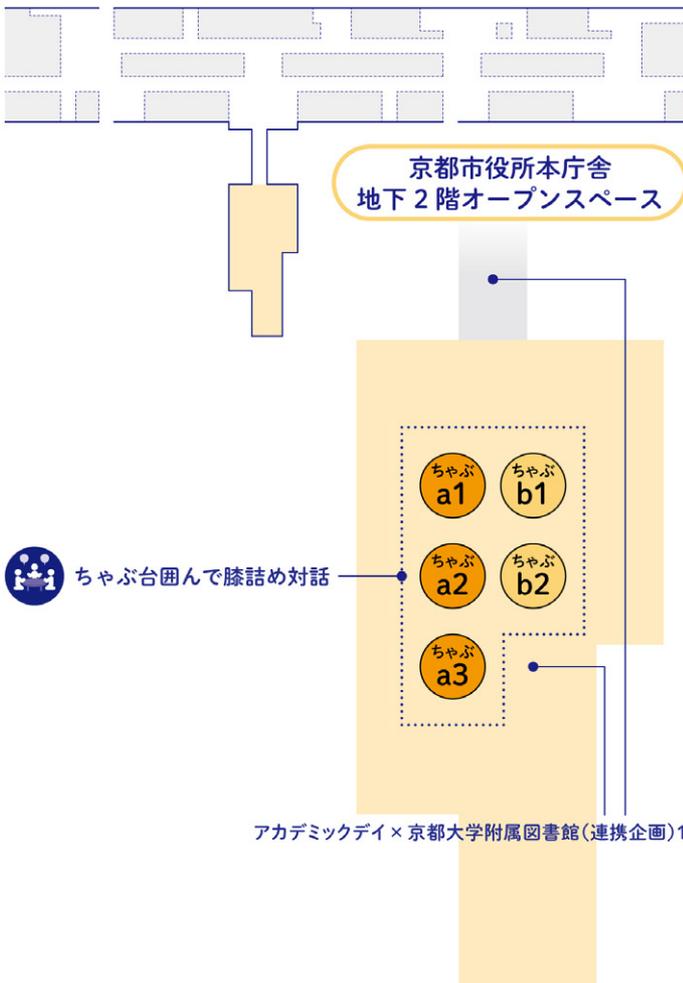
● 河原町広場: お茶を片手にトーク◎トーク・研究者と立ち話・総合受付



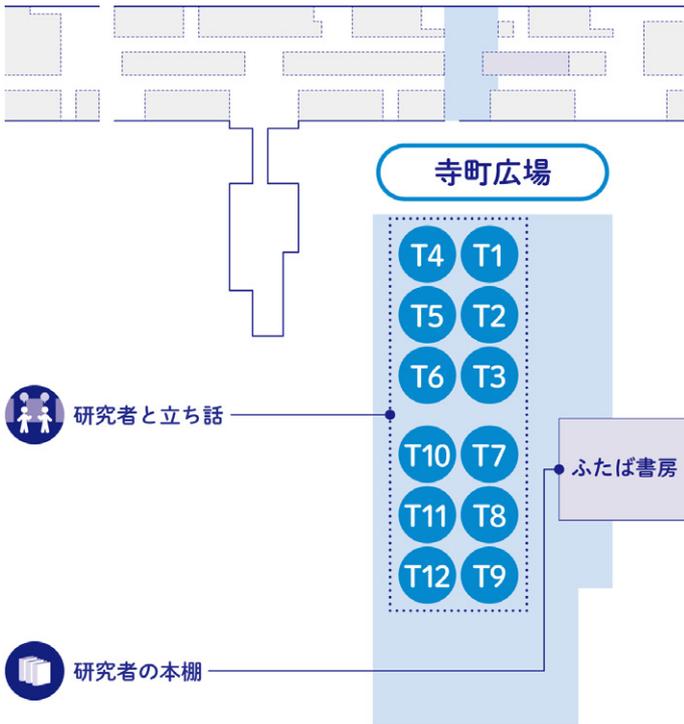
● 市役所前広場: 研究者と立ち話



● 京都市役所本庁舎地下2階オープンスペース: ちゃぶ台囲んで膝詰め対話



● 寺町広場: 研究者と立ち話・研究者の本棚



● 御幸町広場: 研究者と立ち話・受付



2. プログラム

2-1. 研究者と立ち話

■ 2-1-1. 概要

日時 9月27日(土曜日)11時～18時

会場 ゼスト御池 河原町広場、市役所前広場、寺町広場、御幸町広場

大学研究者による研究紹介のコーナー。今年度は4箇所の会場で合計25のポスター展示がずらりと並び、ポスターの前で研究者が来場者と直接語り合いました。ポスターの前にある机には模型や実験器具、モニター、資料といった個性豊かなものたちが並べられ、それらを使って研究を紹介する研究者の姿が見られました。今年度初の試みとして、一部の区画に体験型の出展を推奨するブースを設置、「話すだけでなく実際に体験できるものがあつたのもよかった」といった好評の声をいただきました。「ゼストというオープンスペースでやっていてすごく研究が身近に感じられた」という来場者からの声や、「大学でやっていることを広く一般に理解してもらうということではこちら(ゼスト御池)が本筋」という出展者からの声にあるように、まちなかで開催する効果や意義が浸透してきています。一方で、年々来場者が増えることで「話を聞きたくても人が多いとなかなか聞けない」という混雑の課題が生じつつあります。出展研究者同士の交流が困難なままとなっている課題と合わせ、対応を検討する必要があります。



■ 2-1-2. 「研究者と立ち話」出展一覧

● 河原町広場

出展代表者氏名(所属)	出展タイトル
京都市 スタートアップ・産学連携推進室 アカデミックデイ×京都市(共催企画)	京都市の取組について

● 市役所前広場

出展代表者氏名(所属)	出展タイトル
BROTHERHOOD Thomas(大学院教育学研究科)	世界市民教育に対する様々なアプローチ
金玖秀(大学院医学研究科)	女性医学研究者のキャリア開拓プロジェクト

● 寺町広場

出展代表者氏名(所属)	出展タイトル
児玉聡(大学院文学研究科)	幸せな「人生のしまい方」って？
小泉志保(大学院医学研究科)	あなたはどのタイプ？医療 AI で重視すること
上田祥行(人と社会の未来研究院)	ことばにならない気持ち、どうやって見つける？ー心情認知学の創成ー
西村勉(医学部附属病院)	孤独感スクリーニング技術の開発と居場所づくり
松山顕之(大学院エネルギー科学研究科)	宇宙の「はじまり」を次世代のエネルギーにー物理と計算で描く未来
榎戸輝揚(大学院理学研究科)	宇宙線で開拓する科学:シチズンサイエンスから月の水資源探査へ
横川隆司(大学院工学研究科)	マイクロチップで臓器を作ろう！
傅馨怡(大学院人間・環境学研究科)	ナノローブがナノチューブを選ぶ！
藪塚武史(大学院エネルギー科学研究科)	骨の主要な無機成分「アパタイト」が切り拓く先進医療
野口高明(大学院理学研究科)	太陽系のタイムカプセル:地球外物質
田中貴浩(大学院理学研究科)	重力波を用いた新しい物理学の探求
笠井優太郎(大学院理学研究科)	小さな素粒子の世界

● 御幸町広場

出展代表者氏名(所属)	出展タイトル
長谷川健(化学研究所)	有用だけどりサイクルが難しいテフロンに学術で挑む
加藤優太(大学院農学研究科)	顕微鏡で観てみよう！植物のカタチ
廣谷潤(大学院工学研究科)	京大で開発したプログラミング教材で遊んでみよう！
富谷進(ヒト行動進化研究センター)	ホネの世界と生き物の世界
村上一馬(大学院農学研究科)	似たものどうしはひつつきやすい。これ、人間だけじゃなくタンパク質でも そうなんです
高橋良輔(総合研究推進本部)	目指せ“未病”！～認知症にならない、なっても困らない社会へ～
六田泰央(大学院医学研究科)	神経発達症の“しくみ”を探る
中村克樹(ヒト行動進化研究センター)	ヒトの脳、サルの脳 どこが似てる？ どこが違う？

金水縁(高等研究院)	1 分子で診る生命のひみつ
北畠真(医生物学研究所)	負けるが勝ち？鳥インフルエンザに合成生物学で立ち向かう

2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

2-2-1. 概要

日時 9月27日(土曜日)12時30分～14時30分／15時30分～17時30分
会場 京都市役所本庁舎地下2階オープンスペース

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には4帖の畳から成る3つのちゃぶ台ブースを設置。12時30分から14時30分の間に3つ、15時30分から17時30分の間に2つ、計5つの研究者／グループが対話に臨みました。各研究者／グループは自身の研究にまつわる資料や物品、機材などを使いながら「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。座ってゆっくり対話ができる形式では、立ち話とはまた違った雰囲気醸成され、来場者は研究者の話にじっくりと耳を傾けながら様々な質問を投げかけ、研究者と対話しました。



2-2-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名(所属)	出展タイトル
9月27日(土) 12:30～14:30	宇佐美文理(総合生存学館)	中国古代の死後世界の表象
	西川星也(大学院生命科学研究所)	数式で眺める多細胞社会学
	壹岐朔巳(白眉センター/ヒト行動進化研究センター)	サル的心・遊び・笑いの世界
9月27日(土) 15:30～17:30	Justine Le Floc'h(大学院文学研究科)	Historicizing Anger (Early Modern France)
	石原諒太(大学院文学研究科)	道徳を問い直す:倫理学の最前線

2-3. お茶を片手にトーク@トーク

2-3-1. 概要

日時 9月27日(土曜日) 11時～13時 / 13時15分～14時45分 / 15時15分～16時45分
会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

今年度のアカデミックデイでは、3つの企画を用意しました。最初の企画が『出展紹介ピッチプレゼン—気になるブースを見つけてみよう!』、続いて座談会企画『京都で地震について考える—私たちが今、できること』、『フィールドノートからのぞく研究の世界』の2本を開催しました。座談会企画は2つとも立ち見の来場者が多く出る大盛況で、訪れた方は熱心に聞き入り、終了時間をオーバーするまでひっきりなしに来場者から質問が寄せられ、登壇者と来場者の垣根を超えた対話が繰り広げられていました。



■ 2-3-2. トークテーマ・参加者一覧

- テーマ: 出展ブース紹介のピッチプレゼン—気になるブースを見つけてみよう!

日時 9月27日(土曜日) 11時~13時

会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

タイムテーブル

時間	紹介動画
11:00~	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話(12:30-14:30)のご紹介
11:15~	研究者と立ち話「市役所前広場」のご紹介
11:20~	研究者と立ち話「寺町広場」のご紹介
11:50~	研究者と立ち話「御幸町広場」のご紹介
12:10~	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話(15:30-17:30)のご紹介

来場者に興味のあるブースを見つけてもらい、会場間の行き来を促進することを目的とした、参加研究者によるピッチプレゼン。過去2年間は出展研究者がステージに登壇し、2分間程度のショートプレゼンを行ってもらう方式でしたが、好評の声があった一方で、「ブース対応している中でステージに立つ時間を作るのが大変」といった改善の要望が複数あったことを受け、今年度は事前に撮影した紹介動画を放映する形式に変更しました。

各研究者に2分間を目安に作成いただいた動画は、小道具を用いた解説や趣向を凝らした変種など、それぞれの個性が光る仕上がりとなりました。一方で、ステージ企画の都合上、放映が一度のみとなった点については、「他の場所でも流してほしい」「一度きりではもったいない」といった声も上がっています。これらは次年度に向けた課題となりそうです。



● テーマ: 京都で地震について考えるー私たちが今、できること

日時 9月27日(土曜日) 13時15分~14時45分

会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

登壇者 飯尾能久(阿武山地震・防災サイエンスミュージアム)

山田真澄(京都大学防災研究所)

児玉聡(京都大学大学院文学研究科)

モデレーター 大牟田智佐子(毎日放送 報道情報局)

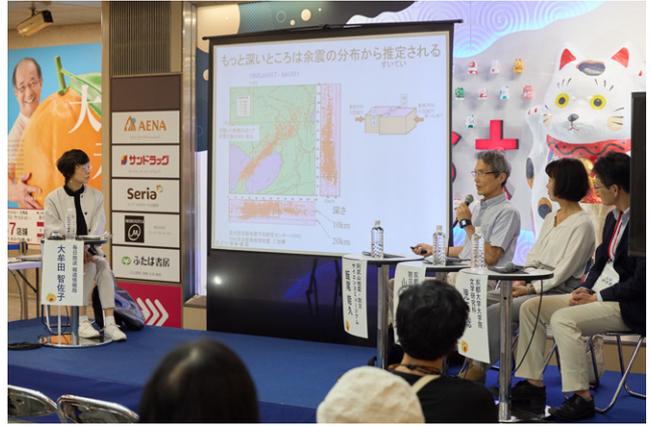
一ツ目のトークセッションは、地震についての科学的な知見やその限界を紹介すると同時に、このような知識をどのように受け止め、個人の防災意識につなげていくかという観点から『京都で地震について考える』というテーマで開催しました。

前半の40分間ではまず「地震学の現状を知る」という視点から、飯尾さんに地震のメカニズムや京都の活断層の現状について、山田さんには緊急地震速報のメカニズムについて、それぞれの専門領域からお話いただきました。続いて児玉さんより、これらの科学的知見を防災に活かすための視点として、情報を受け止めた後の行動や社会構築のあり方についてお話いただきました。

その後の25分間の総合ディスカッションの時間では、モデレーターの大牟田さんによる進行のもと、話題提供の中で気になった点を中心に、登壇者同士で専門の見地からの活発な議論が交わされました。また終盤の20分間は、会場の参加者も交えた対話の時間を設けました。「緊急地震速報の数が年によって大きく違うのはなぜか」「防災倫理の観点から、私たちはどのように意識して生活していけば良いのか」など質問は多岐に渡り、これらに対しそれぞれの登壇者が丁寧に答えていました。

事前に用意した席は満席で、立ち見の方も多くいる中、みなさん真剣に登壇者の話に耳を傾けられていました。





● テーマ: フィールドノートからのぞく研究の世界

日時 9月27日(土曜日) 15時15分～16時45分

会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

登壇者 堀口大樹(京都大学大学院人間・環境学研究科)

木村里子(京都大学東南アジア地域研究研究所)

清山陽平(京都大学大学院工学研究科)

ファシリテーター 梶丸岳(京都大学大学院人間・環境学研究科)

二つ目のトークセッションは、京都大学の伝統的な研究の一つである「フィールド研究」に焦点を当て、異なる分野の先生方がフィールドで得た情報をどのように記録するか、という観点を軸に『フィールドノートでのぞく研究の世界』をテーマに開催しました。

前半の20分間は、「フィールドで何をどのように記録しているのか」といった問いに対し、3人の登壇者がそれぞれの調査媒体(フィールドノート、写真、記録紙など)をもとに話題提供を行いました。海棲哺乳類を研究する木村さんは、実際に研究で使用している野帳(フィールドノート)や水中音響レコーダーを手に、臨場感溢れる調査の様子を解説。建築計画学を専門とする清山さんは、建物の構造を隅々まで実測しノートに記録するプロセスを、現地の写真とともに紹介されました。また、社会言語学の立場から海外でインタビュー調査を行う堀口さんは、多言語表記の看板写真や、Excelを用いた膨大な文字起こしデータなど、言語研究ならではの記録の裏側を披露されました。

後半の40分間は、民族音楽学が専門の梶丸さんのファシリテーションのもと、パネルディスカッションを実施しました。「五感を通じて得た情報がどのようにノートに反映されるのか」「現場の記録をどう研究データに起こすのか」といった観点から、分野を超えた活発な議論が盛り上がりました。

最後の20分間は会場との対話の時間でした。「フィールドワークで大変だったことは何か」「研究者になろうとしたきっかけは何か」など、多岐にわたる質問が寄せられ、登壇者によるディスカッションが盛り上がりました。





2-4. 研究者の本棚

2-4-1. 概要

日時 9月27日(土曜日) 10時~21時
会場 ふたば書房 御池ゼスト店

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」を企画。会場では、多くの来場者が本を介して研究者と対話しました。本企画は、ふたば書房 御池ゼスト店協力のもと、店舗そばの一角にて展示され、気に入った書籍は書店内で購入できるようにしました。書籍のラインナップとして、本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。



2-4-2. 研究者おすすめの書籍

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は幅広いジャンルが並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

2-5. 附属図書館連携企画

■ 2-5-1. [連携企画 1] 人智の宝庫を、あなたのお手元に。京都大学貴重資料デジタルアーカイブ！

日時 9月27日(土曜日) 11時～18時／15時30分～17時30分

会場 京都市役所連絡通路、京都市役所本庁舎地下2階オープンスペース

企画担当 附属図書館研究支援課

京都大学附属図書館にて行われている、貴重資料デジタル化プロジェクトとのコラボレーション企画で、昨年度に引き続き2回目の開催となりました。ゼスト御池と京都市役所をつなぐ連絡通路床面が京都市の古地図で、壁面が「都名所画譜 初編」で描かれた江戸時代の京都の風景で、それぞれ装飾されました。道ゆく人々はかつての京都がどんな姿だったのか、自分が今立つ場所を地図に当てはめながら興味津々で装飾に見入っていました。

また、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」15:30からの部では、ちゃぶ台に特設ブースが設けられ、図書館職員らによるデジタルアーカイブ資料の紹介が行われました。

当日の様子はこちらからもご覧いただけます。

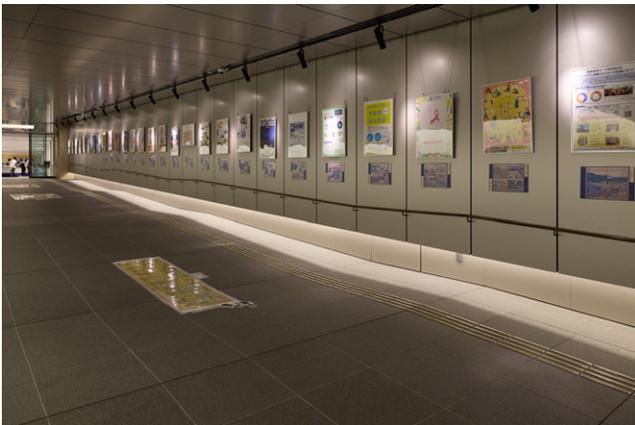
<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/news/2025-10-07>



● 展示企画

日時 9月27日(土曜日) 11時～18時

会場 京都市役所連絡通路



● ブース企画

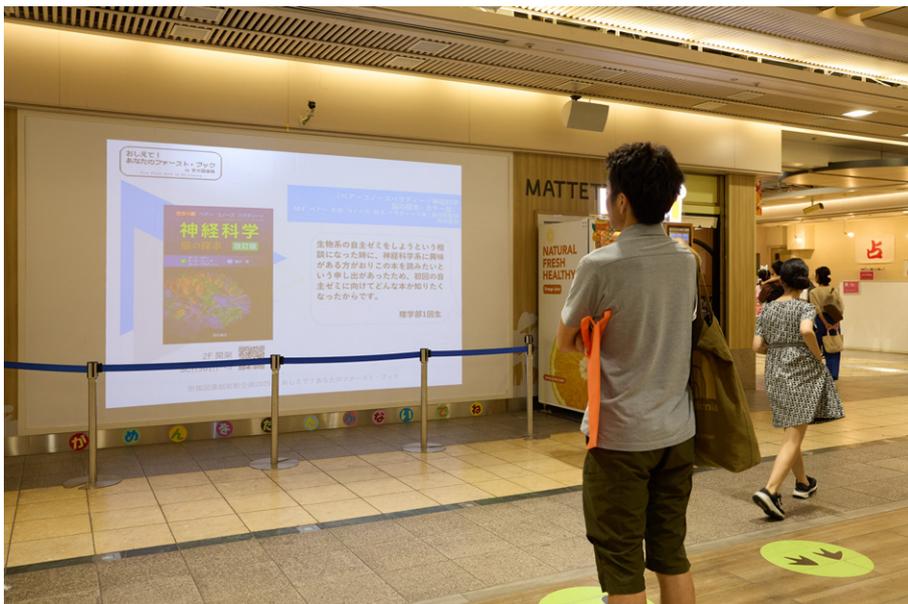
日時 9月27日(土曜日) 15時30分～17時30分
会場 京都市役所本庁舎地下2階オープンスペース



■ 2-5-2. [連携企画2] 新歓企画「おしえて！あなたのファースト・ブック」のご紹介

日時 9月27日(土曜日) 11時～18時
会場 ゼスト御池 御幸町広場スクリーン MATTE TE
企画担当 附属図書館利用支援課

京都大学附属図書館にて、2025年4月1日 - 6月30日の間、京都大学の新生・在校生ならびに教職員を対象に実施された、「おしえて！あなたのファースト・ブック」企画 (<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1403715>) とのコラボレーション企画で、3回目の実施となりました。2025年度に入り最初に京都大学の図書館で借りた書籍のタイトルとひとことコメントを募集した附属図書館のこの企画、寄せられた26の書籍とコメントを映像として一挙公開しました。



3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場された方へアンケートにご協力いただきました。昨年度に引き続き、1) 来場された方の属性(知ったところや年齢職業など)、2) 滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどを回答いただきました。昨年度同様、商業施設が多数近接する場所での開催であることを鑑み、お水との交換は廃止し、1) 2) 両方に回答いただくこととおかえりの際に記念品と交換できるようにしました。また、アンケートシステムを用いてインターネット上で、どの場所からでも回答ができるようにしました。



● 記念品と交換アンケート(A5 サイズ:210×148mm)



京都大学アカデミックデイ2025
記念品と交換アンケート

※品切れの場合はご容赦ください。

本日はご来場ありがとうございました。
今後の企画のためにご協力をお願いします。
ご記入の上、受付までお持ちいただくと、
京都大学アカデミックデイオリジナルグッズを差し上げます。

WEB版でも回答いただけます。
受付にて終了画面をご提示ください。



Q 1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催をどこで知りましたか？(複数回答可)

ポスター・チラシを見て ① 京都大学 ② その他大学(大学名: _____) ③ 高校(高校名: _____) ④ 地下鉄東西線 ⑤ 同窓会
⑥ ホームカミングデイ ⑦ その他(見た場所 _____)

ホームページを見て ⑧ 京都大学 ⑨ 京都大学総合研究推進本部 ⑩ K.U.RESEARCH ⑪ サイエンス ポータル ⑫ 京都市など公共機関 ⑬ その他(_____)

その他を見て ⑭ 京都市役所前デジタルサインージ ⑮ X(旧Twitter) ⑯ Facebook ⑰ メール案内 ⑱ 同窓会メールKUON

その他 ⑲ 知人からの紹介 ⑳ 会場に来て初めて知った ㉑ その他(_____)

Q 2. 京都のその他のイベントに参加されたことはありますか？(複数回答可)

① 春秋講義 ② 京大ウィークス ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ ⑤ 京都大学アカデミックデイ(過去 回 参加) ⑥ その他(_____)

Q 3. 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない

Q 4. 科学・技術に関心がありますか？

① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない ④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q 5. 普段、研究者が発表する研究成果を信頼していますか？

① とても信頼している ② ある程度信頼している ③ どちらとも言えない ④ やや信頼していない ⑤ 全く信頼していない

Q 6. 研究者はいつも自分の研究のよい面も悪い面も率直に伝えてくれると思いますか？

① とてもそう思う ② ややそう思う ③ どちらとも言えない ④ あまりそう思わない ⑤ 全くそう思わない

Q 7. アカデミックデイを通じて、研究者に対する信頼度はどう変わりましたか？

① 大きく上がった ② やや上がった ③ 変わらない ④ やや下がった ⑤ 大きく下がった

Q 8. ご自身について教えてください。(※年齢は年代をご記入ください)

① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校生 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生 ⑦ 京大教員・研究者(年代 _____) ⑧ 京大職員(年代 _____) ⑨ その他(職業 _____ 年代 _____)

Q 9. お住まいはどちらですか。

① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他(都・道・府・県 _____) ④ 海外(国名: _____)

Q10. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか？最も近いものを1つだけお答えください。

① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間 ④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q11. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

Q12. 本日の「ちゃぶ台回って膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにが「賞」をプレゼントするのなら、どんな名前の賞にしますか？

例:「ワクワクしたで賞」、「ぼくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤塚様に話してくれたで賞」、「これからは研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号(例:G1、C4-2a1、など、出展番号はパンフレットを参照)	賞の名前
<input type="text"/>	賞
<input type="text"/>	賞
<input type="text"/>	賞

Q13. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点	悪かった点
-------	-------



ご協力、ありがとうございました。 Dialog with the Public

● 記念品(うちわ)



3-1-2. 年度ごとの参加者層の違い

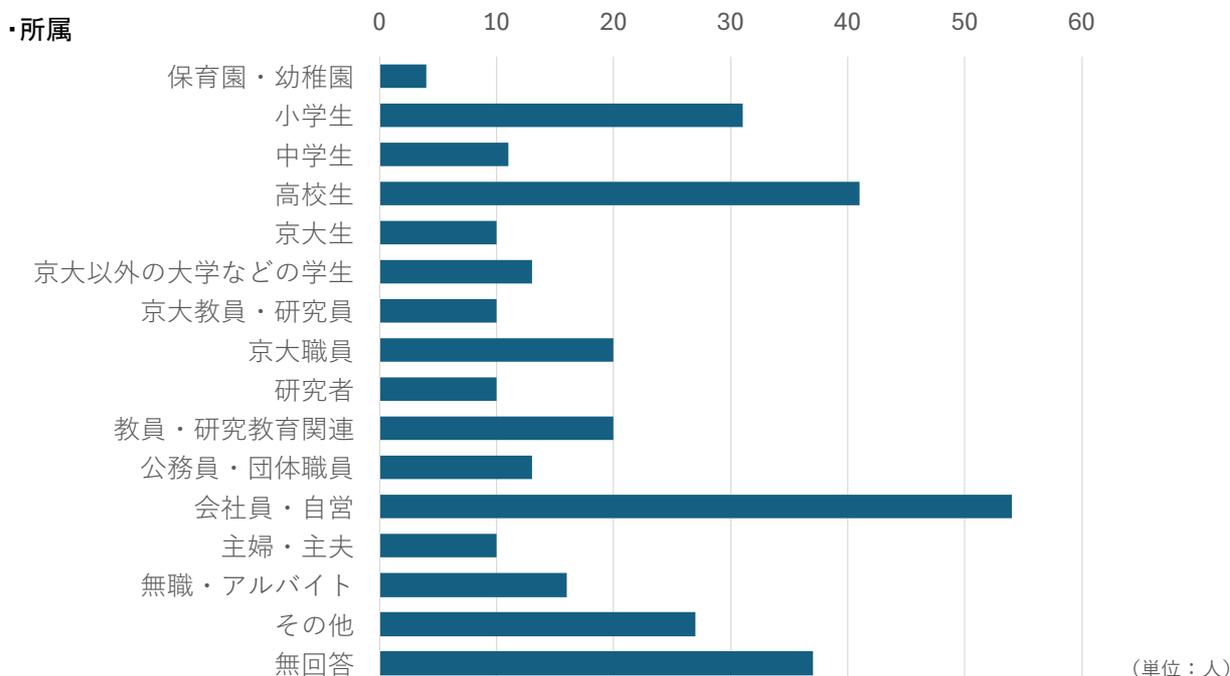
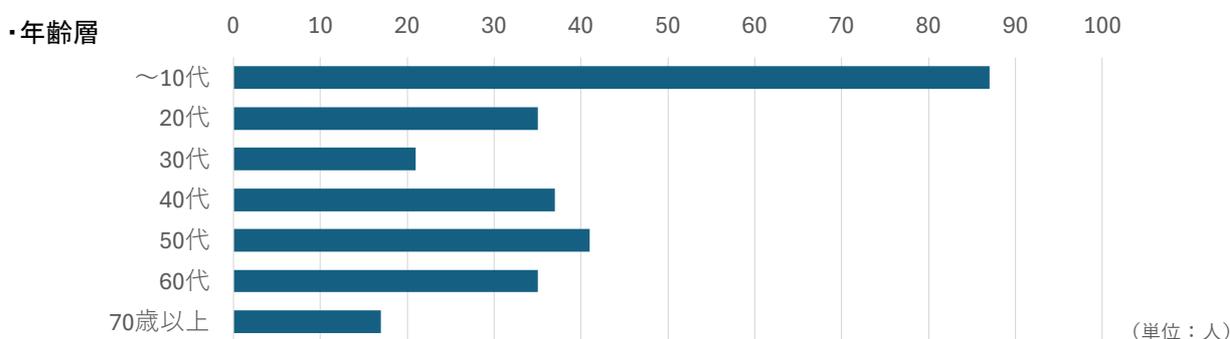
今年度から、科学・技術に関する情報の検索や理解度に基づいた質問項目2つを廃止し、研究者に対する信頼に関する質問項目を3つ、設けました。以前の開催の際の傾向との違いに留意しつつアンケート結果を集計しました。

● 参加者数／アンケート回答者数

- ・来場者 1002 人のうち回答者数 344 人(回収率 34%)
- ※入口が複数あり、正確な来場者数は不明
- ※インターネットからの回答者数は 22 人

複数の出入り口があるゼスト御池では、学内で開催されていた頃から比べて低い回収率が続いています。受付の方法、アンケート回答取得の方法にまだまだ工夫が必要です。

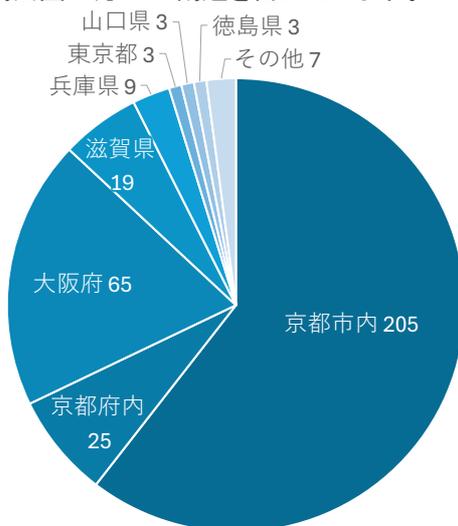
● 参加した人はどのような方だったのか？



例年同様、10代が最も多い結果となりました。親子連れで来場したと思われる小学生が多い傾向が見られます。それ以外は昨年と同様の参加者層でした。

・住まい

京都市内の方が6割を超え、関西圏の方が9割超を占めています。

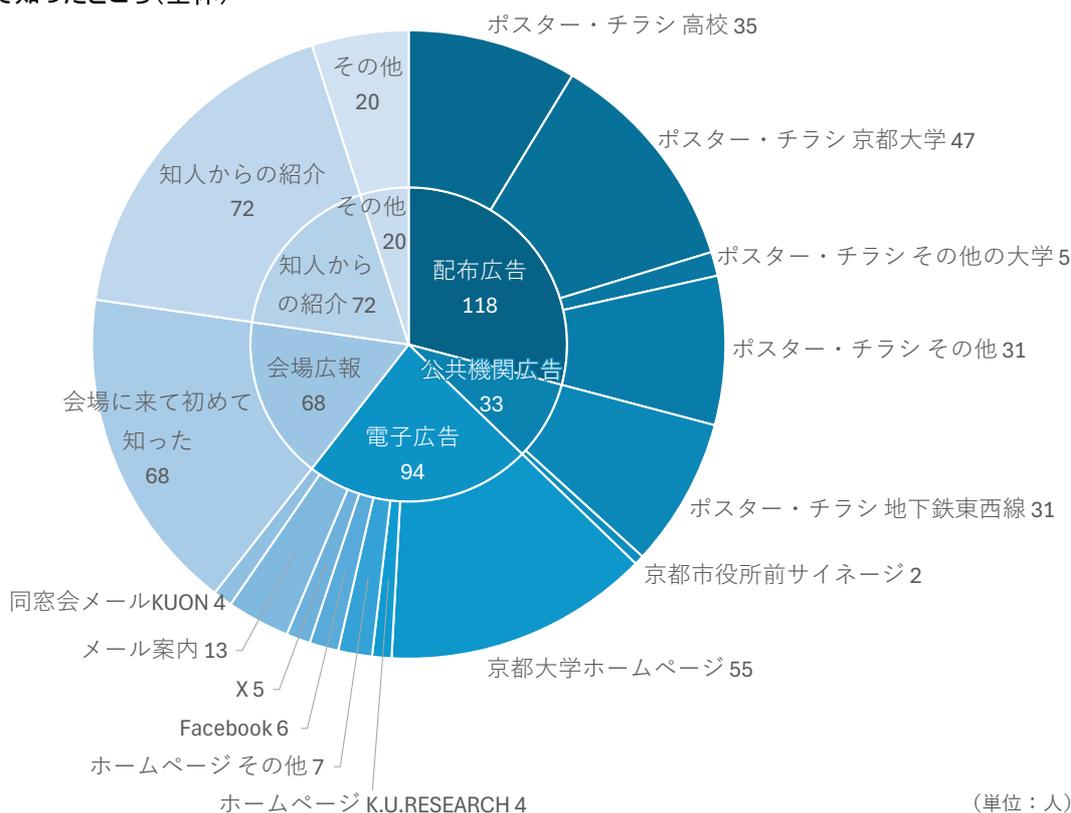


(単位：人)

※ その他内訳：三重県 2、和歌山県 2、奈良県 1、石川県 1、静岡県 1

● 参加者 / 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

・開催を初めて知ったところ(全体)

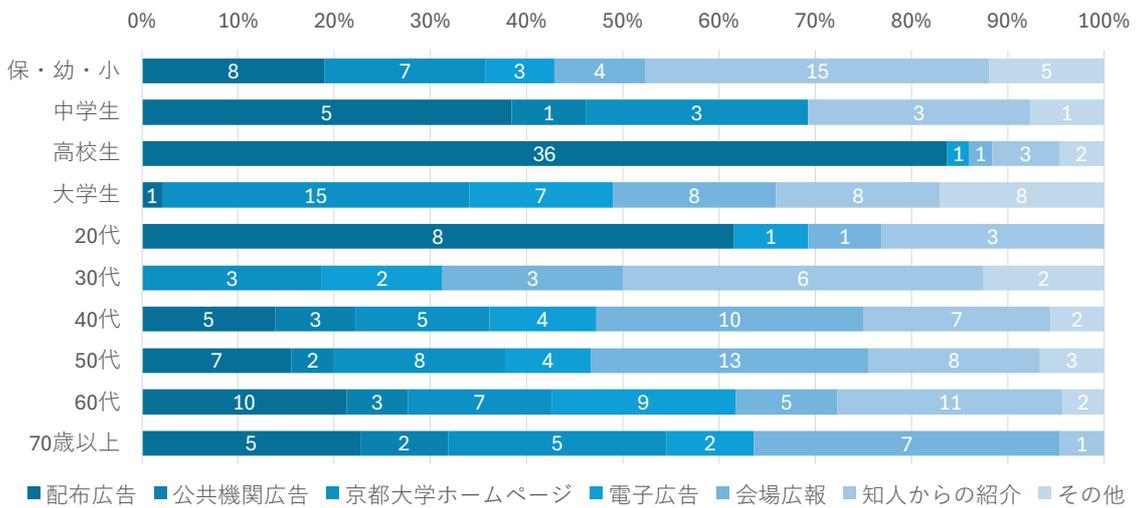


(単位：人)

昨年はポスター・チラシを見てこられた方が約半分でしたが、今年は4割を切っています。会場に来て初めて知った人、電子媒体を見てこられた方が増えています。

高校生はチラシで知った人の割合が70%に達しており、京都市教育委員会を通じて京都市内のいくつかの高校にチラシを配布した効果が見えています。中学生についてもチラシで知った人の割合が高くなっており中高一貫校へのチラシ配布の効果があるようです。

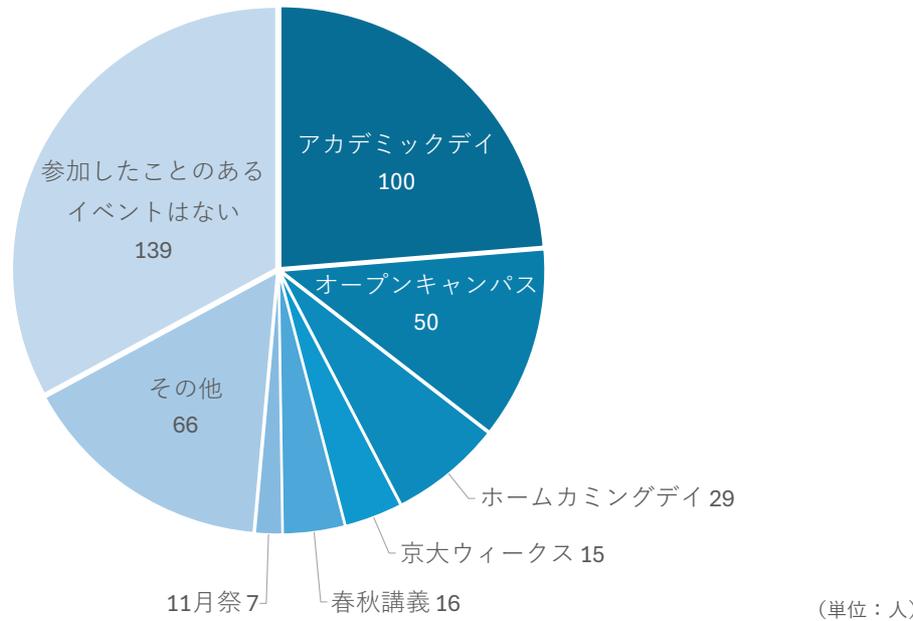
・開催を初めて知ったところ(年代別 ※いずれも複数回答を含む)



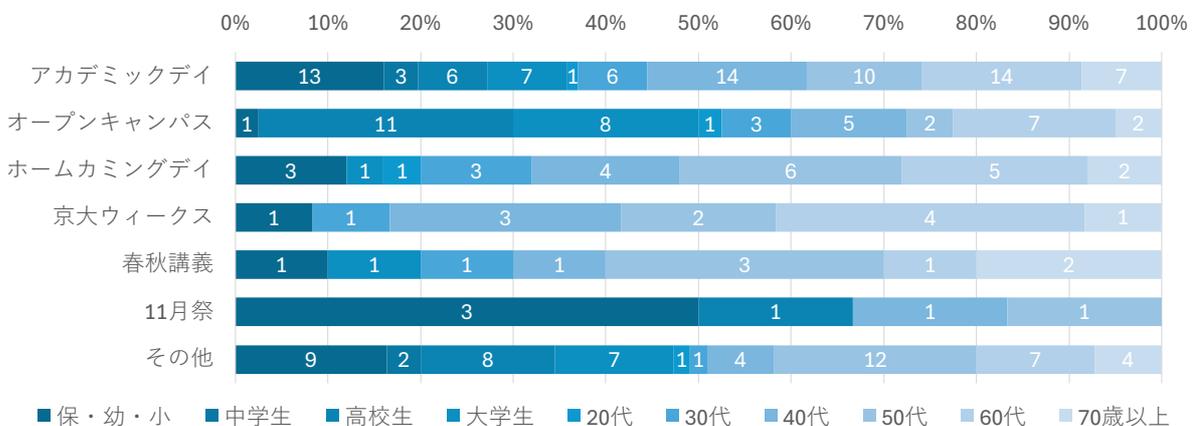
(単位：人 / 年齢不明の人は除く、保・幼・小：保育園・幼稚園・小学校の合計、以下同じ)

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

・本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？(複数回答可)



(単位：人)

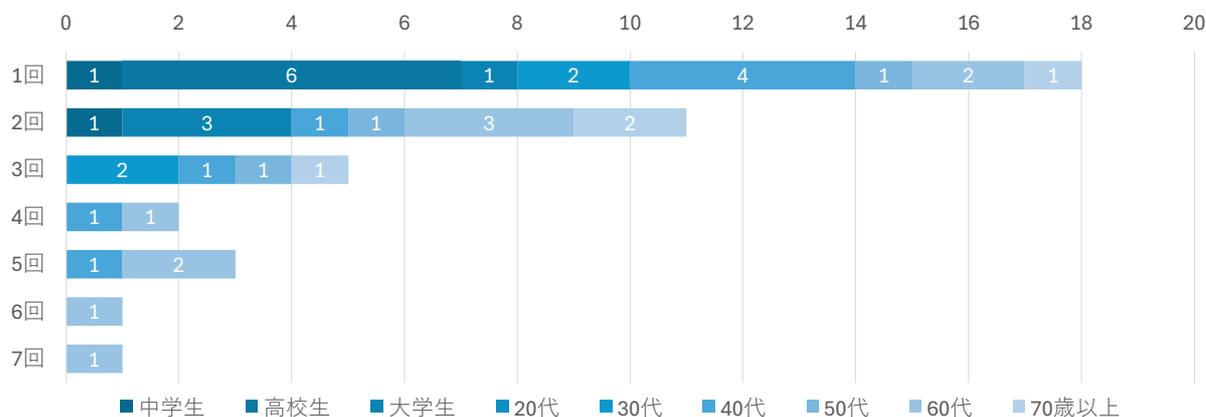


(単位：人 / 年齢不明の人は除く)

アカデミックデイに参加したことのある人の割合が昨年より増えて1/4 近くになり、「その他」のイベントに参加したことがあると答えた人の割合が、増えた分に合わせるような形で減っています。「その他」と答えた人の中には、京大博物館の各種イベント、本学の研究科主催の講演会などが含まれていました。参加したことのあるイベントはない、と答えた人の割合は昨年とほぼ同様の結果だったことから、初めて京大のイベントに来た人の割合は変わらず、リピーターが増えた形です。

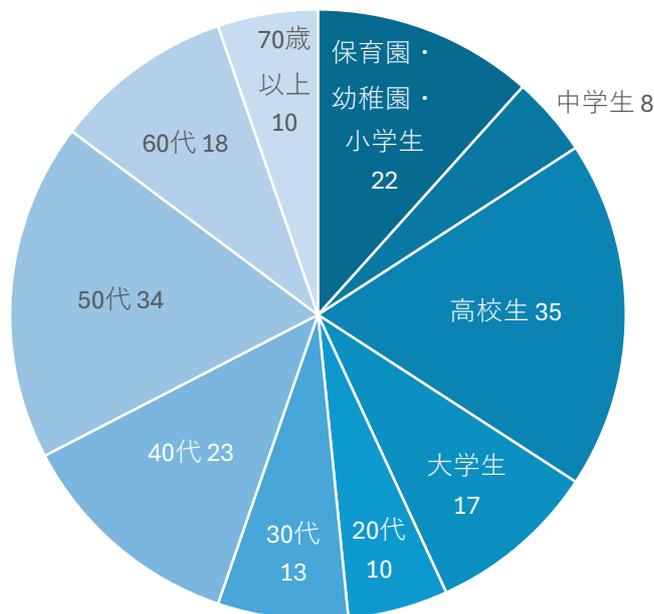
・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？

初めて参加した人の年代別人数と合わせて見ると、高校生のリピーター率が高いことがわかります。



(単位：人 / 年齢不明の人、今回が初参加でカウントを1とした人は除く)

・京都大学アカデミックデイに初めて参加した人の内訳

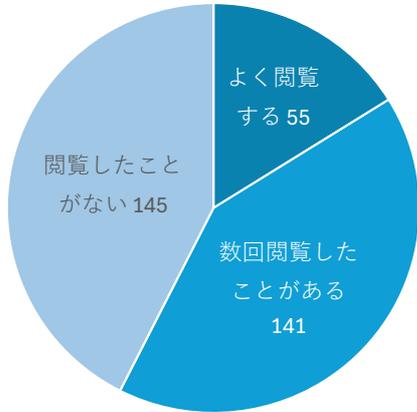


(単位：人)

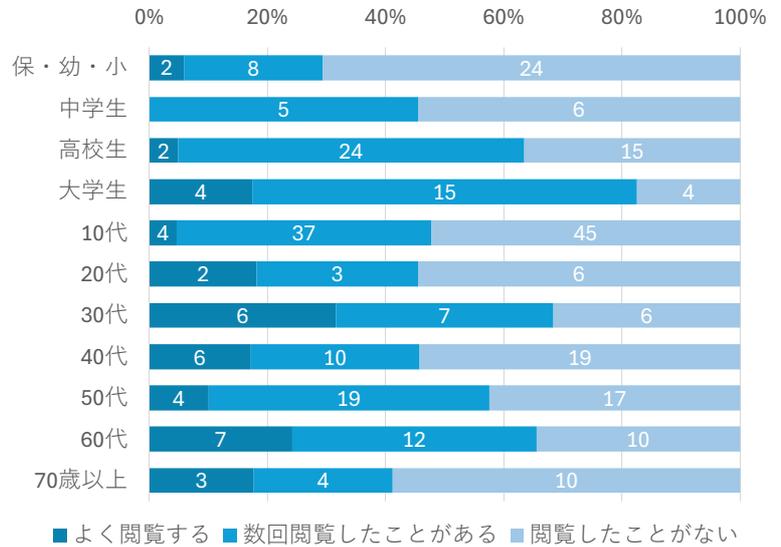
● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

ゼスト御池で開催するようになってから今年で3年目ですが、京都大学が持つweb媒体を「閲覧したことがない」方が最も多い傾向が続いています。街中で開催することで、京都大学への関心が必ずしも高くない人に参加してもらっていることを示していると考えています。

・全体



・年代別



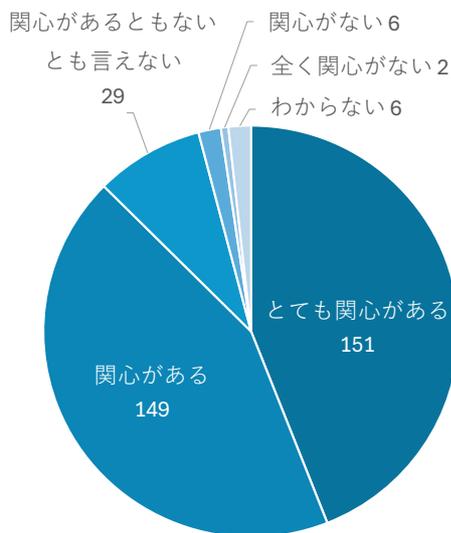
■ よく閲覧する ■ 数回閲覧したことがある ■ 閲覧したことがない

(単位：人)

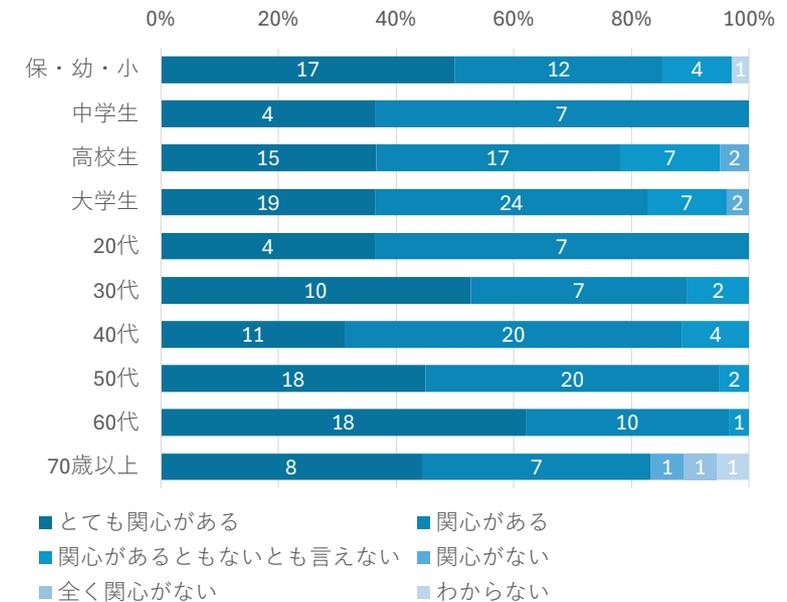
● 科学・技術に関心がありますか？

例年と同様に、「関心がある」と答えた人が最も多い結果となりました。アカデミックデイに参加してアンケートに答えるという積極的行動を取る人の多くが、科学・技術に関心があるのは予想通りの結果といえます。

・全体



・年代別



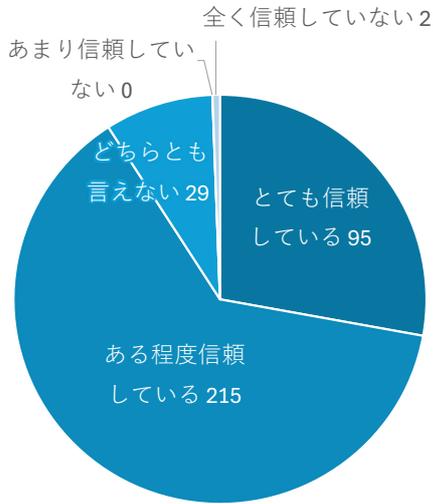
■ とても関心がある ■ 関心がある
 ■ 関心があるとも言えない ■ 関心がない
 ■ 全く関心がない ■ わからない

(単位：人)

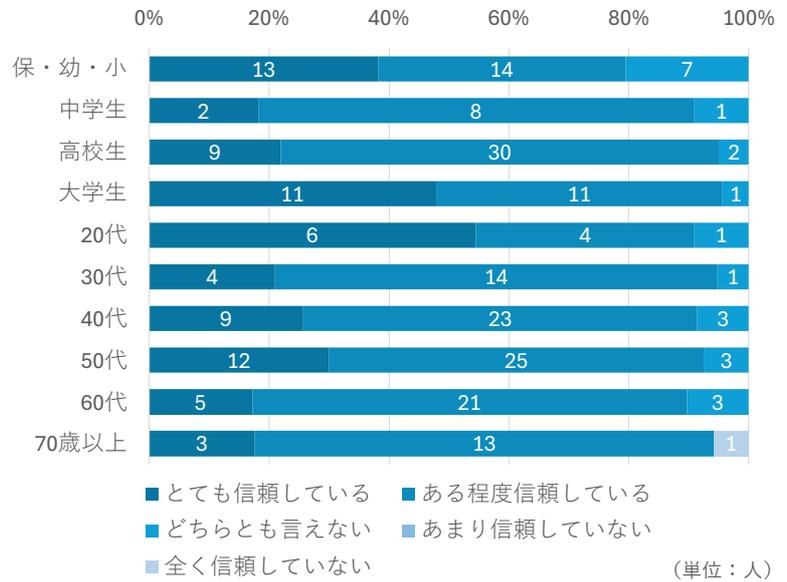
● 普段、研究者が発表する研究成果を信頼していますか？

これ以降3つの質問は今年から新たに加えたものです。あまり信頼していないと答えた人はなく、全く信頼していないと答えた人は2名という結果となりました。これは社会全体の傾向とは異なることも予想されますが、アカデミックデイに来られる方が研究に対してどう考えているかの一端を知ることができます。

・全体



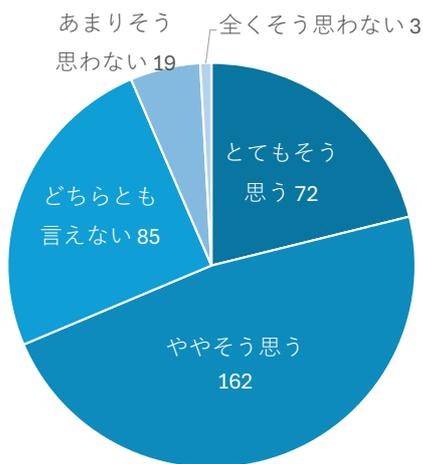
・年代別



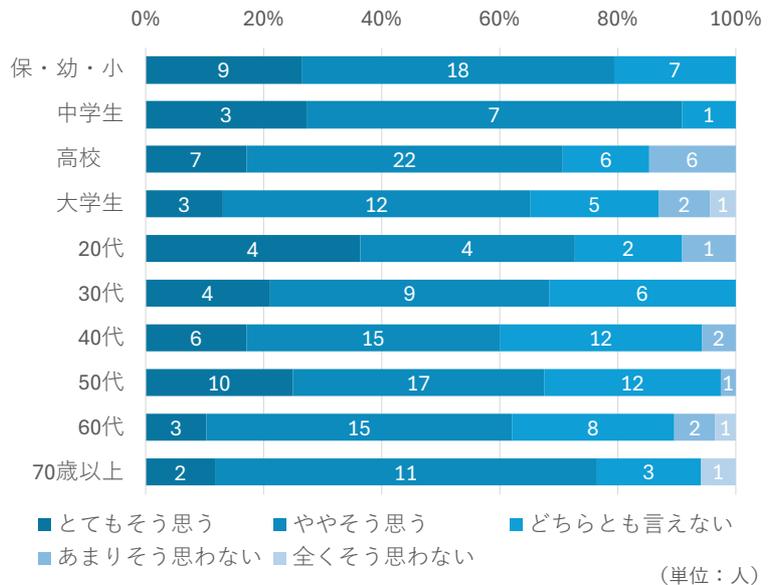
● 研究者はいつも自分の研究のよい面も悪い面も率直に伝えていると思いますか？

研究成果への信頼に比べると、この質問に対する答えでは「どちらともいえない」「あまりそう思わない」という答えが増えました。発表される成果自体は信頼している、しかし成果の悪い面について隠しているのではないかと考えている人がいるということかもしれません。

・全体



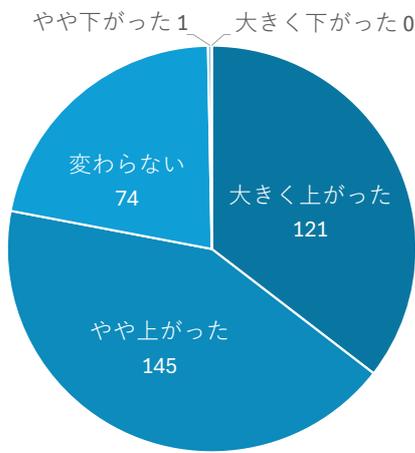
・年代別



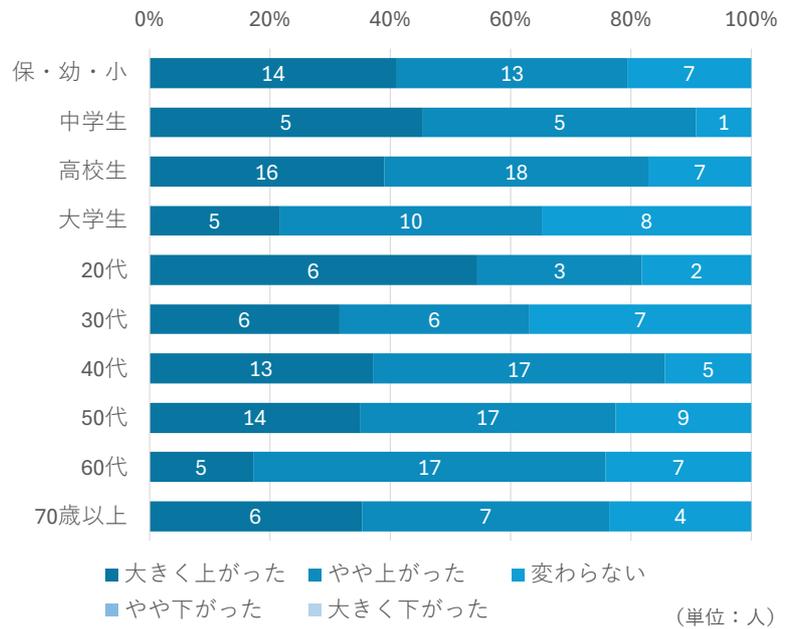
● アカデミックデイを通じて、研究者に対する信頼度はどう変わりましたか？

研究者と対話することで、多くの人が研究者への信頼度を一定程度高めたようです。やや下がったと答えた人が1名、大きく下がったと答えた人はいませんでした。

・全体

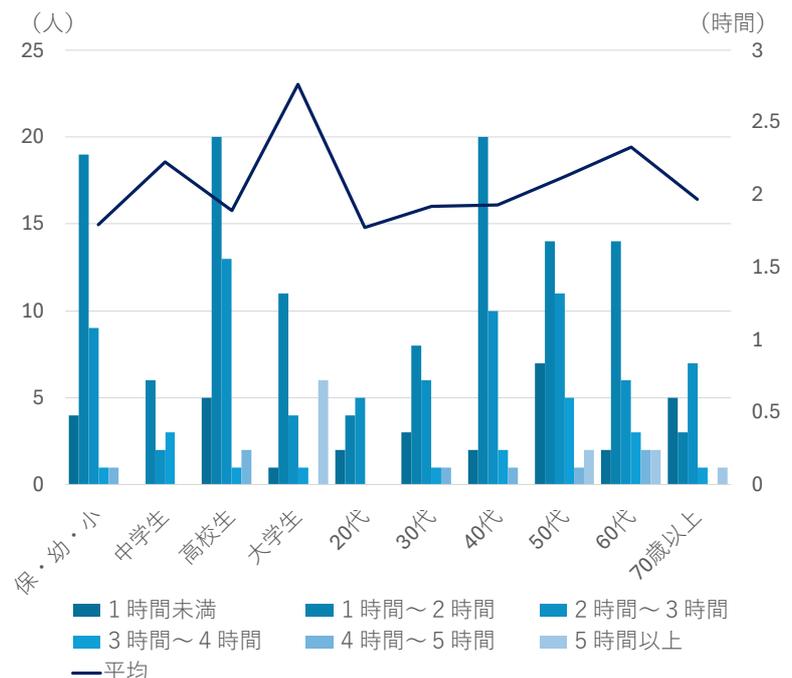
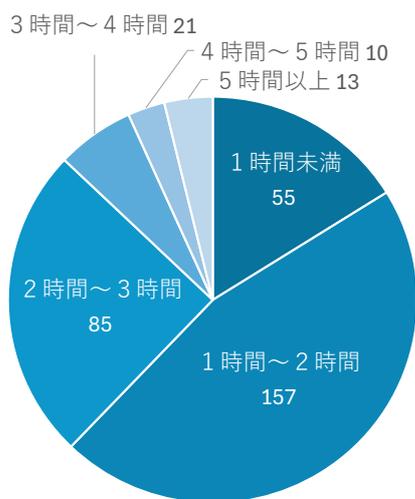


・年代別

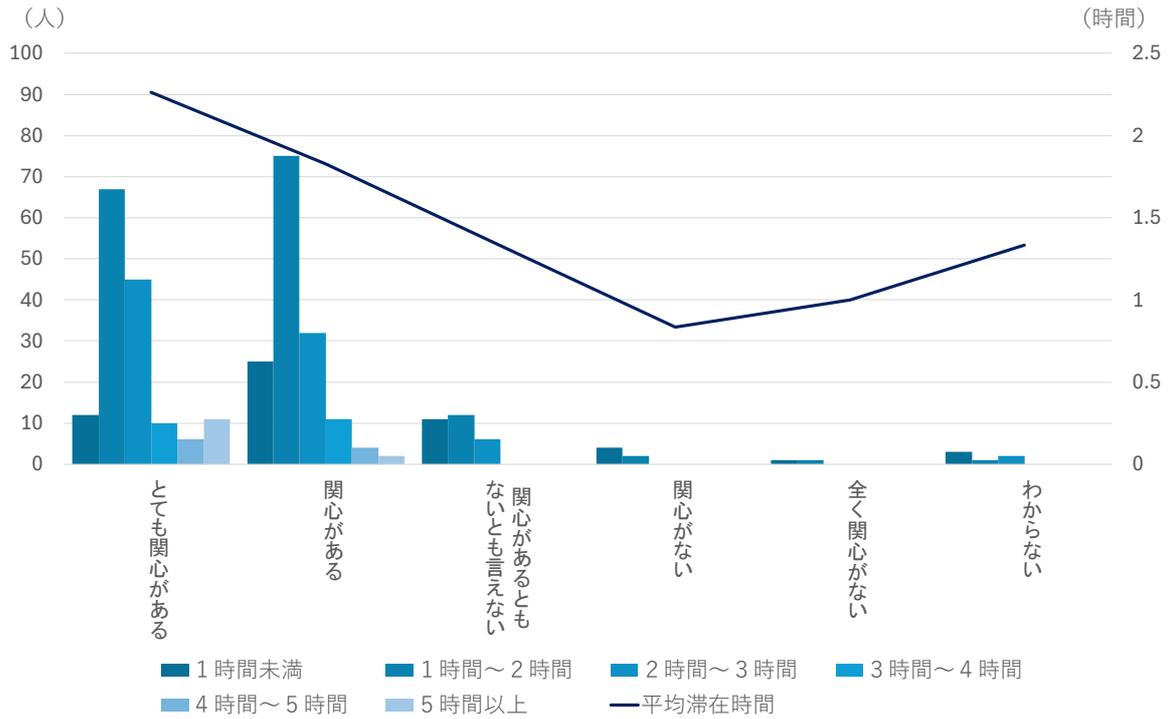


● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？

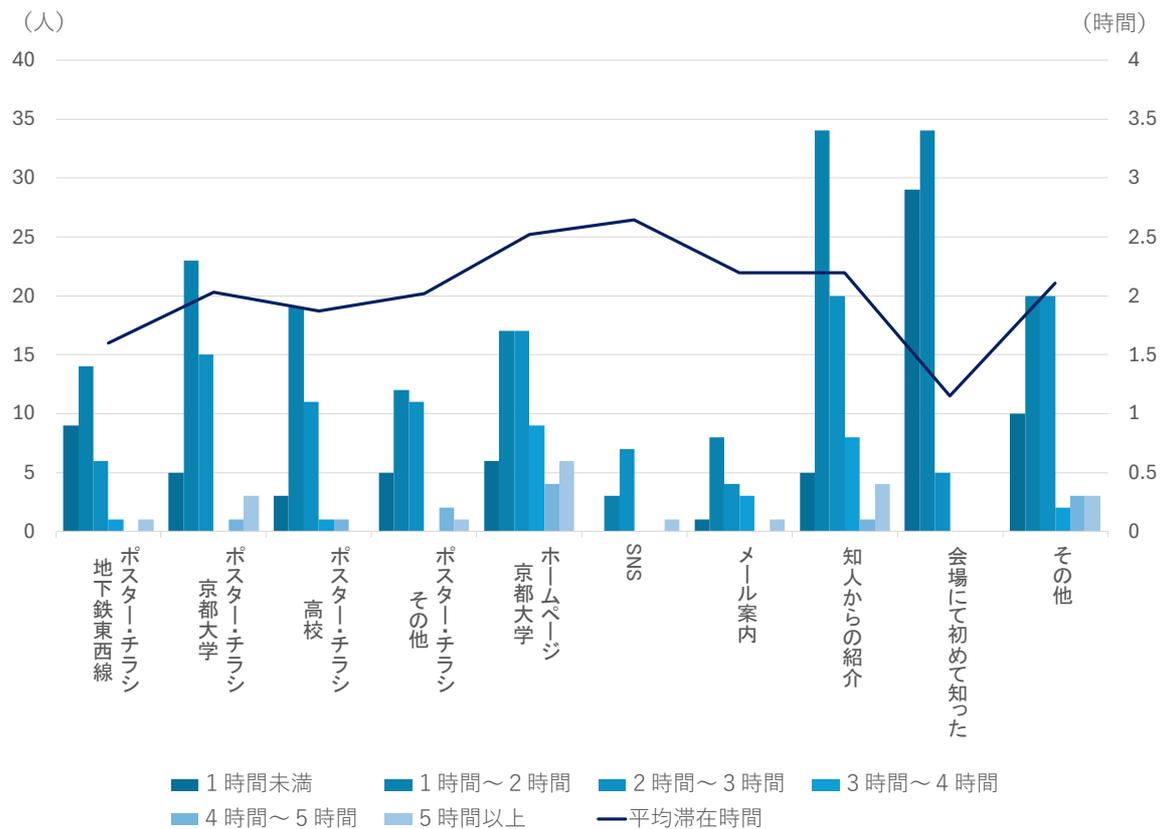
全体の平均滞在時間は 2.0 時間で昨年とほぼ同じです。年代別に見ると、平均値と比較して滞在時間が長い方に最も離れているのは大学生、という結果になりました。科学技術への関心度と滞在時間の関係を見ると、今年も関心が高いほど滞在時間が長い傾向にあることがわかります。「アカデミックデイをどこで知ったか」という質問と滞在時間の関係では、ホームページや SNS で知った人は滞在時間が長く、会場に来て初めて知った人は短い傾向にあり、これは昨年と同様です。会場に来て初めて知った人は、アカデミックデイのターゲット層の一つであるこれまで京都大学に興味がなかった人であり、こうした人の滞在時間を伸ばすための工夫を考えていく必要があります。



・滞在時間と科学・技術への関心度合いの関係

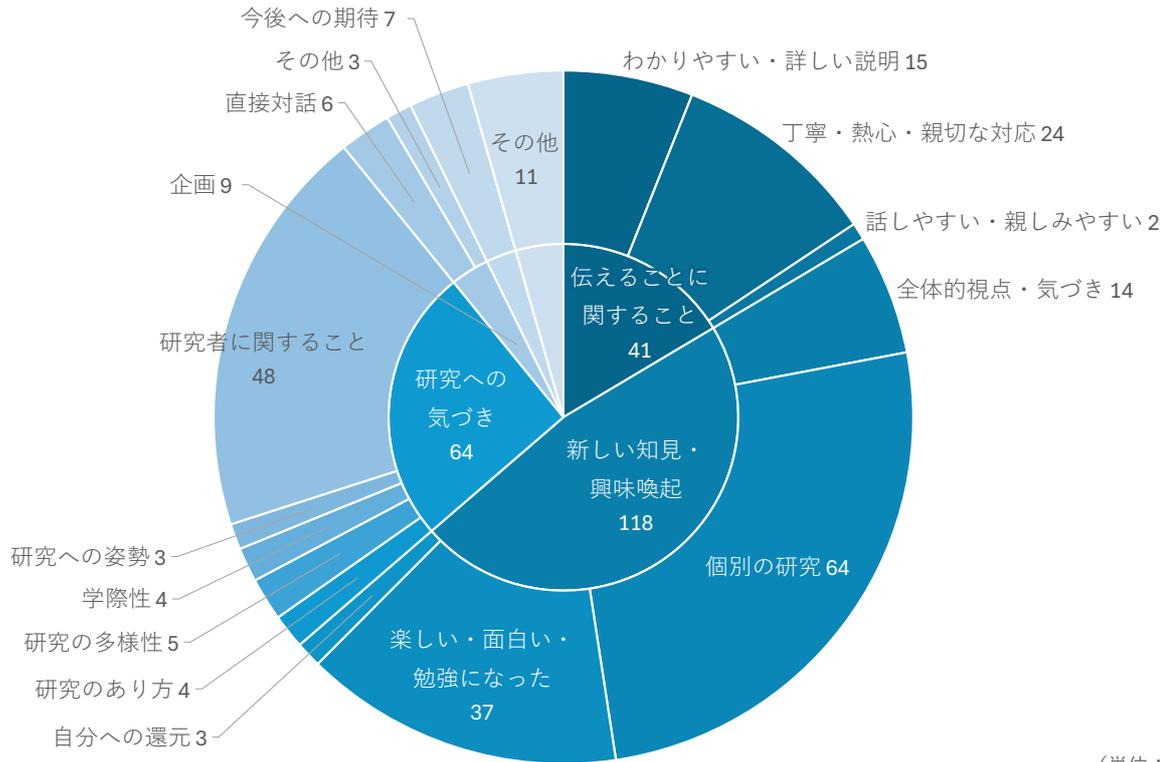


・滞在時間と開催を知ったところとの関係



※平均滞在時間は、「1時間未満」を30分、「1時間～2時間」を1.5時間、「5時間以上」を5.5時間などとして算出。全体の平均滞在時間は、2.0時間。無回答を除く。

● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？



(単位：件)

・主な意見(抜粋)

〈「伝える」ことに関すること(41 件)〉

わかりやすい・詳しい説明(15 件)

- 未来に向けて熱心であった。リスクもきちんと説明してもらえた。(70 歳以上・無職)
- わかりにくかった所を丁寧に解説してくださり理解できたということ。(高校生)
- わからない！！(40 代)

丁寧・熱心・親切な対応(24 件)

- 研究していることについて、熱心に説明していただき、内容は難しかったですがわかりやすく、おもしろかったです。(20 代)
- 自分の限られた知識では知らないことがまだまだあり、そうした技術などで社会の課題解決のために様々な研究がなされていることを知れてとても勉強になりました。また、皆さん子供の質問にも丁寧に答えていただき、子供の興味も育てられ、大変ありがたかったです。(40 代)

話しやすい・親しみやすい(2 件)

- 感じが良い、お話が上手、笑顔。(50 代)

〈新しい知見・興味喚起(118 件)〉

全体的視点・気づき(14 件)

- 同じ学科内でも人によって研究していることが色々あったことが驚きました。(高校生)
- 素人にも分かるよう噛みくだいてくださって、自分の生活の周りにも“研究者”につながるものがあるのだと気付いた。(会社員)
- 「分からないこと」が分かることも研究になること。(中学生)

楽しい・勉強になった・面白い(37件)

- 研究は楽しいと思った。(パート/アルバイト)
- 研究すればするほど未知の部分が見えて底がないと聞いたこと。(高校生)
- 発見には、案外、身近なもので、分かることがあるということを教えてくれた。(高校生)
- 診断が難しい分野に画像や動画データを用いて科学や数学で切り拓こうとされていることに感動しました。(50代・公務員)
- 色々な研究があっっておもしろかったです！(10歳未満・保育園/幼稚園)
- 自分の限られた知識では知らないことがまだまだあり、そうした技術などで社会の課題解決のために様々な研究がなされていることを知れてとても勉強になりました。(40代)

自分への還元(3件)

- みなさんがその研究について話されているのを見て、自分も熱中できるものを見つけたいと思った。(高校生)

〈研究一般への気づき(64件)〉

研究のあり方(4件)

- 日頃のちょっとしたことでも研究している人がいるんだと思った。(40代・会社員)

研究の多様性(5件)

- 研究分野が思っているよりも幅広かったこと。(高校生)

学際性(4件)

- 1つの研究発表の中に、必ず複数の研究分野が合わさっていることに驚きました。(京大生)

研究者に関すること(48件)

[生き生き・楽しそう(15件)]

- 研究している学生や先生が楽しそうに話してくれること。1つ聞くともっと質問したくなる答えをくれる。(40代・会社員)
- 自分の研究を楽しそうにお話しされている姿がとても素敵でした。(30代)

[真剣・夢中・熱意(14件)]

- 一人一人の研究者が目的を持って研究に熱中していた。研究を応援したいと思った。(高校生)
- どの研究者も自分の研究に誇りをもってその内容を他の人に伝えようと熱心に思っていることを感じた。(70歳以上・無職)
- 研究者が持っている自分の研究への愛が伝わった。(高校生)

[考え方・思い・モチベーション(11件)]

- 目標を明確にもって研究を続けておられることに感銘を受けました(どんなに遠く思えても)。(60代)
- 発想が面白い。(70歳以上・会社員)
- みなさん研究の先に社会とどうつながっているのかを考えられながら日々過ごされているのだと知りました。(30代・公務員)

[その他の研究者の印象(8件)]

- やはりいろいろな悩みがあるな、ということ。(70歳以上・京大教員/研究者)
- 「近よりがたい」というイメージが強かったのですが、研究内容を話して下さる姿勢も、一般人に寄りそって下さっている事が分かり「研究者」のイメージが変わりました。ありがとうございました。(40代・京大職員)
- 研究していてまだわからないこと、知らないことについては素直に「わからない」と答えを濁したり曖昧な答えを言わないでいてくれたことが嬉しくて、印象に残りました。(高校生)

〈企画(9件)〉

直接対話(6件)

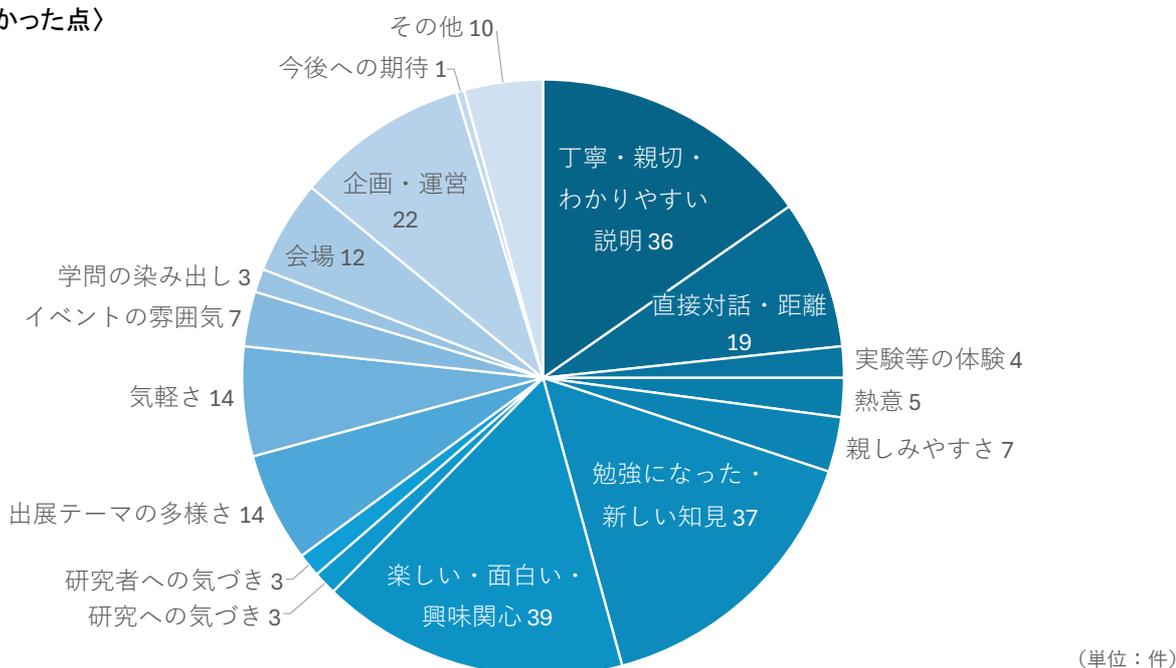
- 実際に対面で話して質問出来た事、発見した事。(70歳以上・パート/アルバイト)
- 教授と対話できることにおどろいた。(中学生)
- 子供も大人もいっしょに話を聞いたことが良かったです。(50代)

〈今後への期待(7件)〉

- 今後未来に向けて希望が出来た。(50代・主婦/主夫)
- 有用な、発展してほしい研究が多くて応援したいと思う。(60代・会社員)
- ご自身の研究について、いきいきと楽しそうに話して下さることがとても素敵で、こちらもさらなる研究成果への期待を持ちました。(40代・会社員)

- 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉



・主な意見(抜粋)

〈丁寧・親切・わかりやすい説明(36件)〉

- 1人1人にていねいに答えてくれる。(40代・サービス業)
- 説明して下さる方がみなさんとても良く、分かりやすく説明して下さいました。もっと興味を持ちました。(70代以上)
- 子どもにもわかるように優しく説明して下さってありがとうございました！子どももとても楽しんでいました。(10歳未満・保育園/幼稚園)
- 話がわかりやすかったです。もけいや、がめん、プリントでのせつめい、わかりやすかったです。(小学生)

〈研究者との直接対話・距離感(19件)〉

- 研究者と対面で言葉を交わすことでより鮮明に研究内容を知ることができた。(高校生)
- 研究者の方と1対1でじっくりお話することができて研究に対する心意気みたいなものを感じられたのがよかったです。(40代・パート/アルバイト)

〈実験等の体験(4件)〉

- 話すだけでなく実際に体験できるものがあったのもよかった。(30代)

〈熱意(5件)〉

- 研究の活気が感じられた。(60代)
- どのブースの方も積極的に説明して下さい、興味深い話をたくさん聞けた。(京大以外の大学などの学生)

〈親しみやすさ(7件)〉

- 研究を身近に感じた。
- 「研究者」という職業の方を身近に感じる事ができた。(20代)

〈勉強になった・新しい知見(37件)〉

- 丁寧に教えて下さり、理解が深まって、宇宙分野、医療分野など普段ニュースでしか見ないことを深掘りできた。(会社員)
- 知らない京大を知れた。(50代・主婦/主夫)
- 様々な研究に一度にふれることができ、自分の将来のビジョンを明確にするのにとっても役立ちました。(京大以外の大学などの学生)
- 京都大学が面白い研究をしている事がわかったこと。(50代・会社員)
- 生活に埋もれている世界の広さと学問のおもしろさを気づかせてくれる。研究者の方々の苦勞があり私たちの生活も支えられているんだな。(40代)

〈楽しい・面白い・興味関心(39件)〉

- 研究の楽しさを知った。(パート/アルバイト)
- 毎年楽しい研究に出会える点(40代・会社員)
- みなさんが熱をもって話し、聞いている光景がとても素晴らしいと思いました。ふだん、全然接していない世界ですが、面白かったです。(20代)
- 普段、なじみない技術、分野が多く、知的好奇心が満たされた。(30代・会社員)
- 様々な分野について知ることができ、自分の興味領域が広がったと思う。(高校生)

〈研究への気づき(3件)〉

- その先に、全ての学問はつながっているのだと、改めて知ることができました。(30代・会社員)

〈研究者への気づき(3件)〉

- 若い研究者が未来を見すえて、努力している真摯な様子を接することができた。(50代)

〈出展テーマの多様さ(14件)〉

- 多種多様な研究があり、飽きなかった。(高校生)

〈気軽さ(14件)〉

- こんなにかんたんに、話を聞けること。(40代・サービス業)
- よい意味で気楽にまわられたので、変なストレスを感じずにすみました。(50代)
- 気軽に専門的な話をきける場所。アクセスが良かった。(高校生)

〈イベントの雰囲気(7件)〉

- 和気藹々と出展者の方々と来場者の人がお互いにコミュニケーションをとっていたところ。(30代)

〈学問の染み出し(3件)〉

- 多様の取組を一般市民に知らされたこと。(70歳以上・無職)

〈会場(12件)〉

- まわりに飲食店や衣服店が多くあって、ちょっとした祭りみたいで楽しかった。(京大生)
- ゼストというオープンスペースでやっていてすごく研究が身近に感じられたこと。(50代・会社員)

〈企画・運営(22件)〉

- 色々な分野の人の話を、まとめてきけるのがとても良かった。(京大生)
- シールがかわいかった。(40代・会社員)
- 自分の興味のある展示を好きに見ることができた。(高校生)
- 今年は、ゆったりめにスペースがとられていてまわりやすかったです。(京大以外の大学などの学生)
- 子供も楽しめる工夫がたくさんあった事。(30代)
- 冊子が親切。人員が多めに配置されていて話しかけるスキがちゃんとある。(20代)
- 資料パネルが見やすい。本の紹介があり、よみたいと感じた。(50代)
- このような催しがある、継続しているのがよい。(30代・京大職員)
- 出入り自由な点。(50代)
- ブースが多い。似たようなブースがいっしょに並んでいる。(小学生)

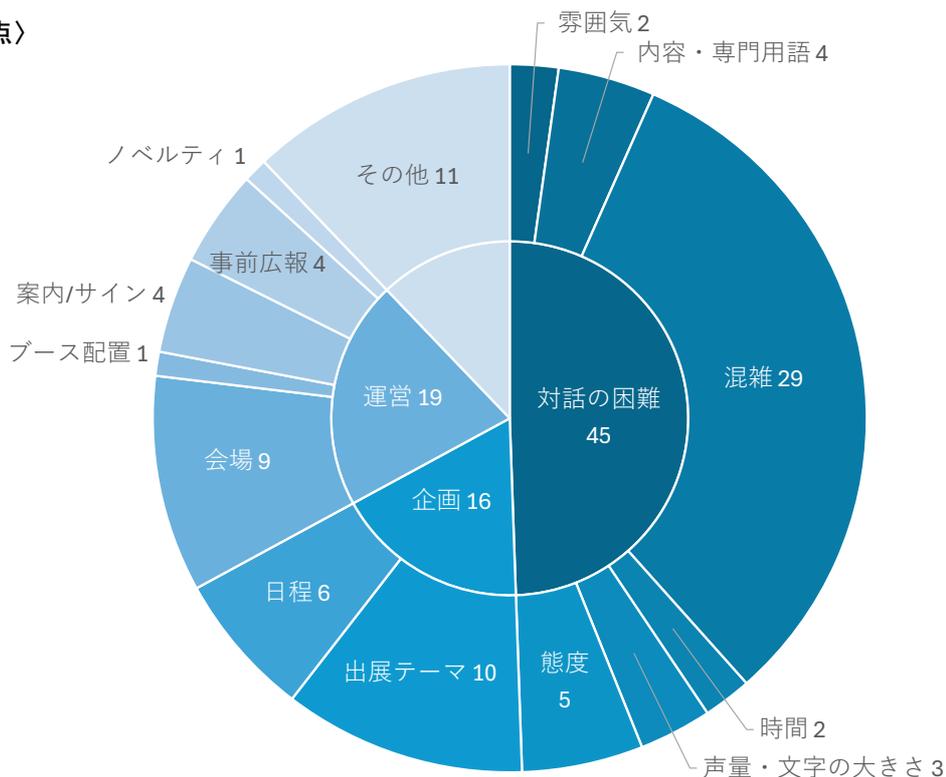
〈今後への期待(1件)〉

- 地震についてまた開催してほしいです。

〈その他(10件)〉

- 出会えてよかった。(70歳以上)

〈改善点〉



(単位：件)

・主な意見(抜粋)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと:霧囲気(2件)〉

- 話しかけるのに緊張する。(京大以外の大学などの学生)
- ちゃぶ台は少し敷居が高かったので入りづらかったです。(60代・無職)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと: 内容・専門用語(4 件)〉

- 一般の方には少し話しや説明が、むずかしいかなと感じた。(50 代・公務員)
- 聞いても曖昧なところがあったところ。(高校生)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと: 混雑(29 件)〉

- 皆さん楽しくて、1 人 1 人のお話がじっくりめで、なかなか順番がまわってこなかったです。(40 代)
- 人気のあるブースでは、スタッフと話をするのが難しい。(でも横で聞いて勉強になった)。(40 代・会社員)
- 昼過ぎ以降は混み合っていてゆっくり説明を受けられない。(京大以外の大学などの学生)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと: 声量・文字の小ささ(3 件)〉

- ポスターの字が小さい。(60 代・主婦/主婦)
- ザワザワしていて、研究者の方のお話しがききとりにくいと感じました。(高校生)

〈企画に関すること: 出展テーマ(10 件)〉

- 今回なかった分野の研究も知りたい。(50 代・会社員)
- 自分の専門が機械というものもあるが、工学の機械関係が少なかったように思う。(30 代・会社員)

〈企画に関すること: 日程(6 件)〉

- 日曜の開催なども考えてみてほしい。(30 代)
- もっとやってほしい。

〈運営に関すること: 会場(9 件)〉

会場の構造(6 件)

- ブースごとにキヨリが離れていたこと。(京大生)
- 歩く範囲が意外と広がった。(50 代)

休憩スペース(2 件)

- すわる場所が少ない。(高校生)

〈運営に関すること: ブース配置(1 件)〉

- ブースが分散し過ぎていて全ぼうが分かり難かった。(70 歳以上)

〈運営に関すること: 案内/サイン(4 件)〉

- 「研究者の本棚」の場所がわからなくて探しまわった。
- 場所が分かりにくい。看板、案内板が少ない。(京大生)
- 誰に聞いたらいいか分かりにくかった。(50 代・会社員)

〈運営に関すること: 事前広報(4 件)〉

- 初めて参加したが、前もって知っていたら、もっと時間がとれたと思う。(40 代・無職)
- 事前のホームページ情報で各ブース内容についてもう少し情報があるとありがたいかなと思いました。(40 代)

〈その他(11 件)〉

- スタッフ・出展研究者の名札のため、名前が分からないため、責任感がないように見える。(会社員)
- たまに、自分が研究者の方と話し過ぎている気がする。他の参加者に気を使ってしまう。(高校生)
- 研究者の負担。同じ話を何回もされるのは負担か？

3-2. 出展者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答
- ・連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
- ・アンケート受付期間：13日間

〈設問〉

・問1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。

(回答必須)

[選択肢: 大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]

- (a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた
- (b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
- (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
- (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
- (e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
- (f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
- (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
- (h) 機会があったらまた参加したい
- (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
- (j) 他の研究者との交流の機会になった

・問2. 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った(or 必要だと感じた)工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

・問3. 来場者と対話をする際に、どのようなことが特に印象に残りましたか。差し支えなければ、その理由とともにお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・問4. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見(良かった点・改善点)や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

4-1【良かった点】

4-2【改善点/課題】

4-3【今後に向けた提案】

・問 5. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・問 7. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・役職(回答必須)

[選択肢: 教授、特定(特任)教授、准教授、特定(特任)准教授、講師、特定(特任)講師、助教/助手、特定(特任)助教/助手、研究員、博士課程(博士課程後期)大学院生、修士課程(博士課程前期)大学院生、その他]

・研究分野(回答必須)

[選択肢: 社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系]

・お名前(回答必須)

・ご所属(回答必須)

・ご連絡先(E-mail)(回答必須)

・出展代表者並びにメンバーの氏名、ご所属、職名(または学年)については、出展申込書の情報をもとに報告書に記載する予定です。出展申込書に記入いただいた時点からいずれかの情報に変更がある場合は、変更点をご記入ください。

※ 出展申込書に記載がないメンバーで、報告書に記載したい方がいらっしゃる場合、氏名/ご所属/職名または学年をご記入ください。

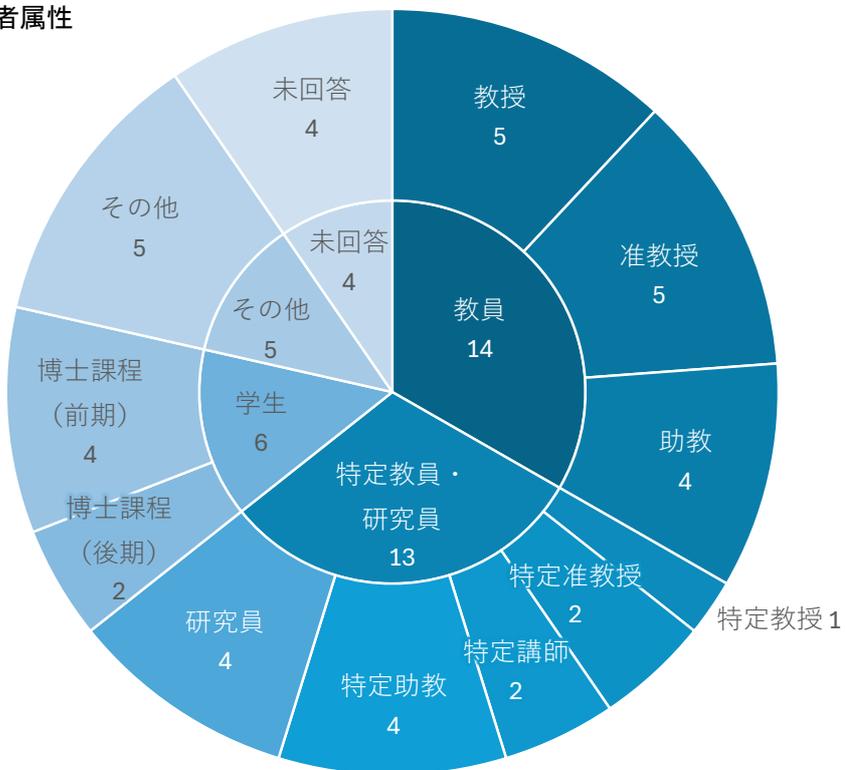
3-2-2. 「出展者アンケート」の結果

出展者数 156 人(のべ数)

回答者数 42 人(回収率 26.9%)

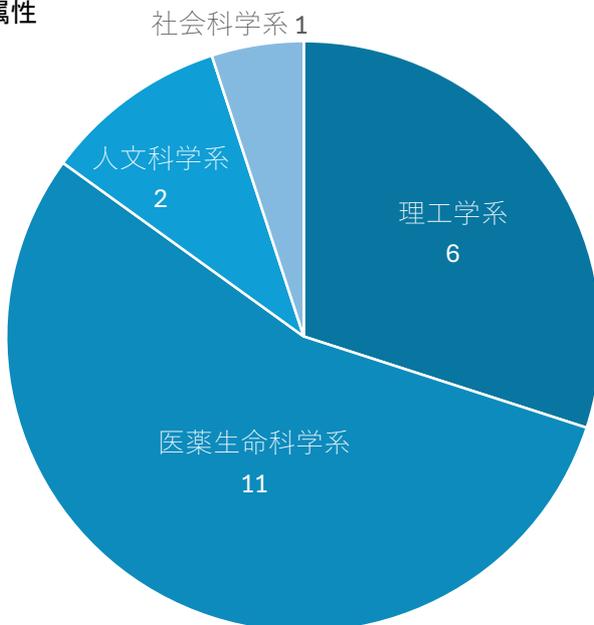
● 回答者の属性

・職業による回答者属性



(単位：人)

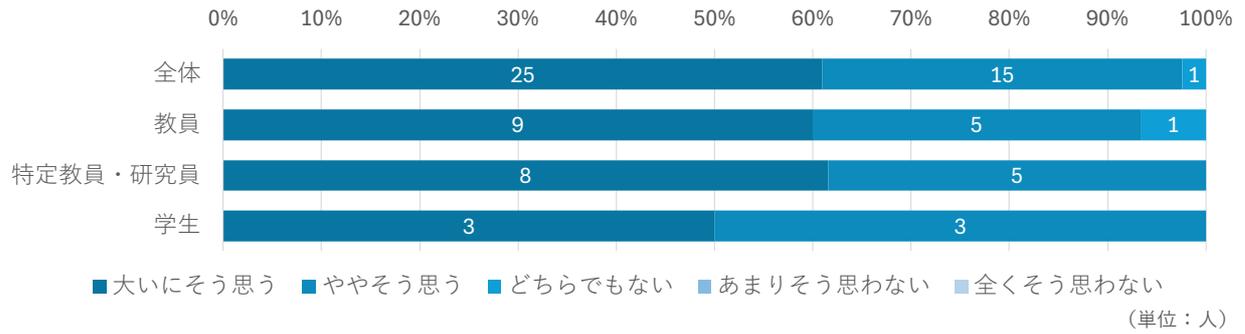
・専門分野による回答者属性



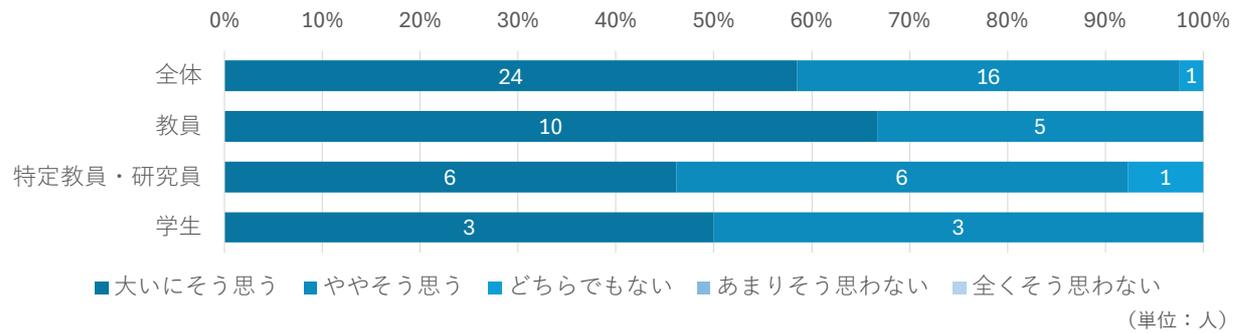
(単位：人)

●「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

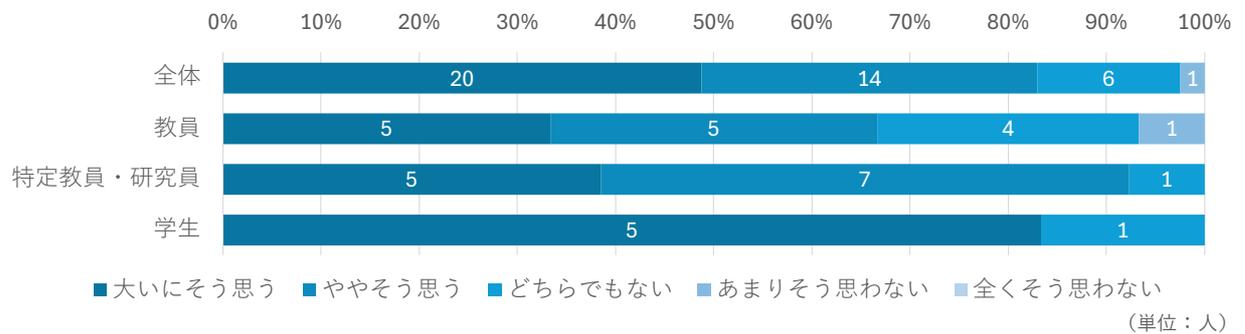
(a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた



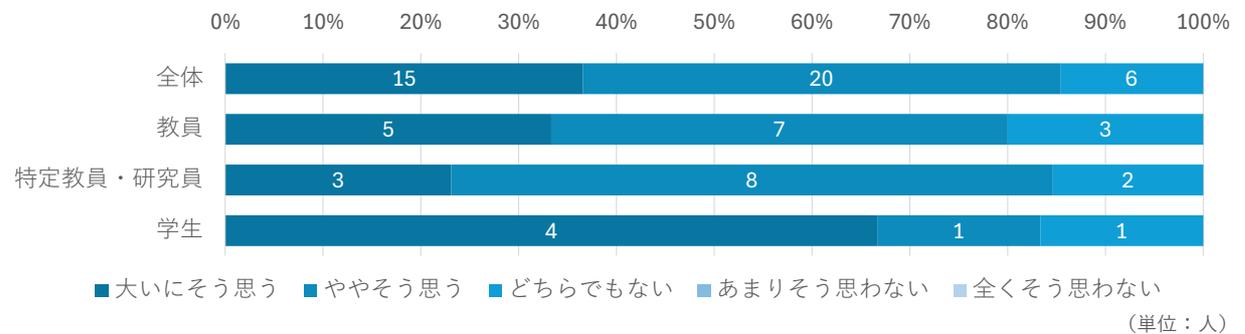
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



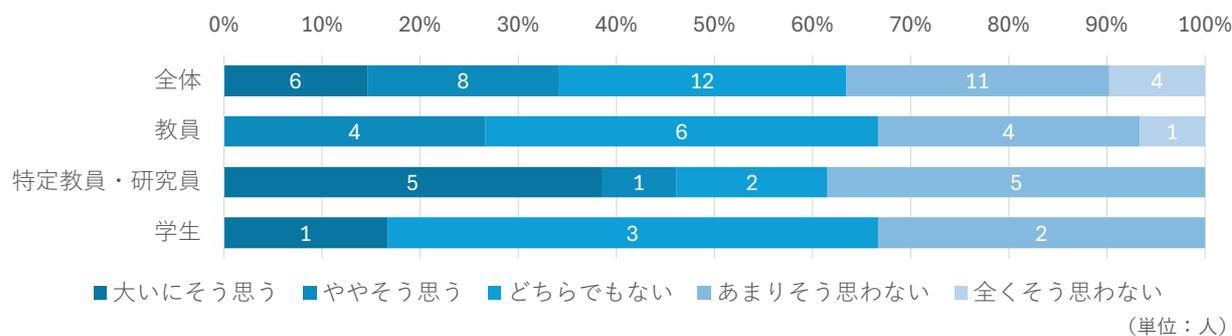
(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



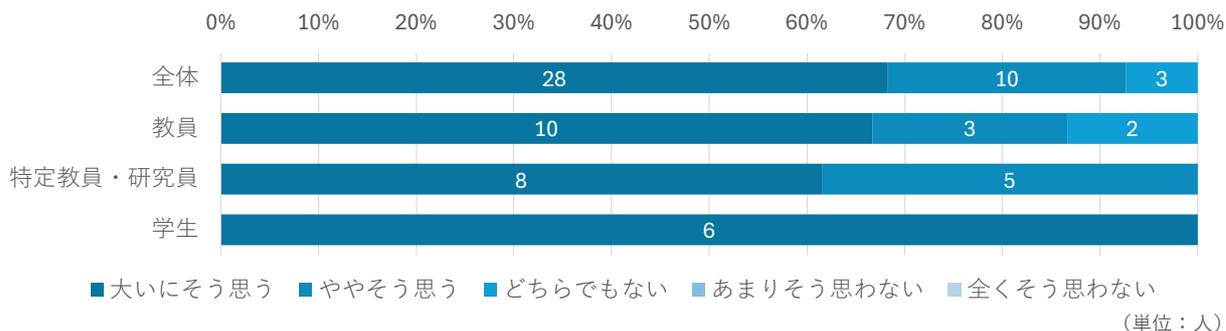
(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



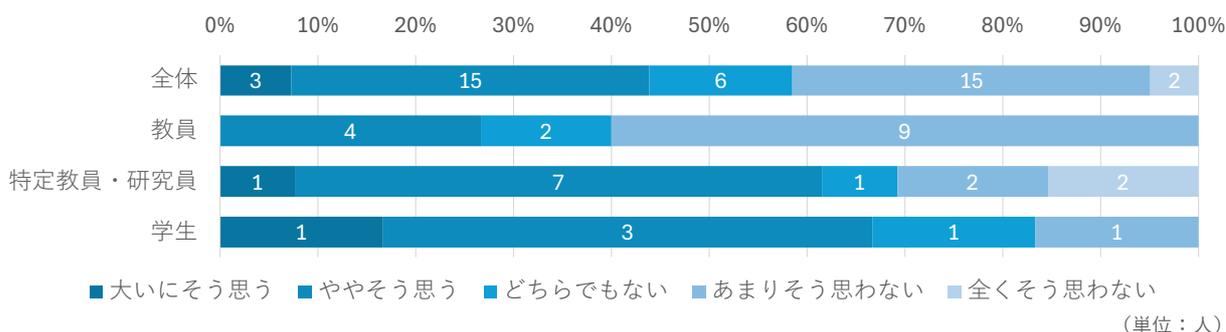
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



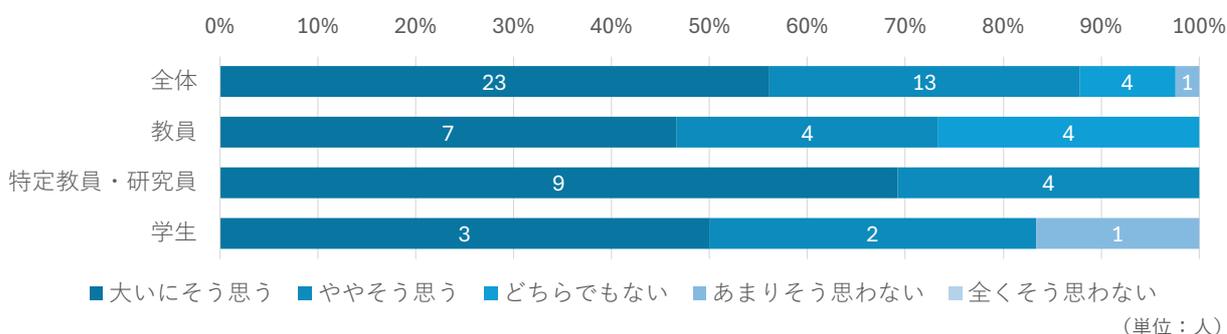
(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



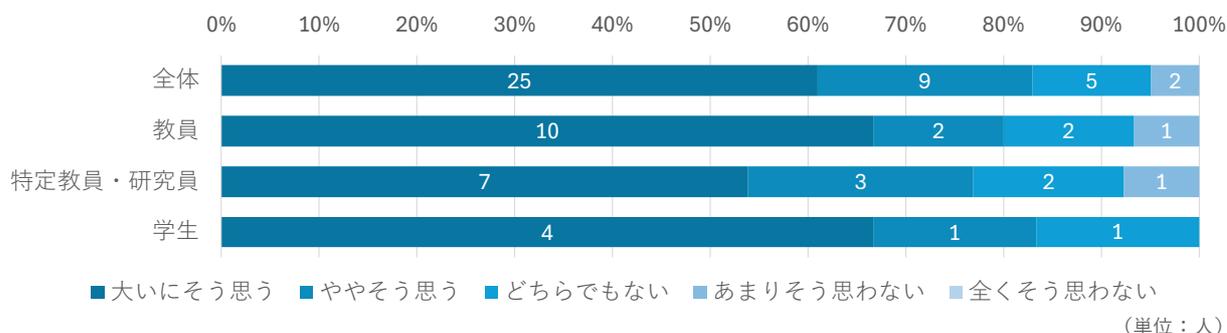
(g) 参加は日々の研究活動の負担となった



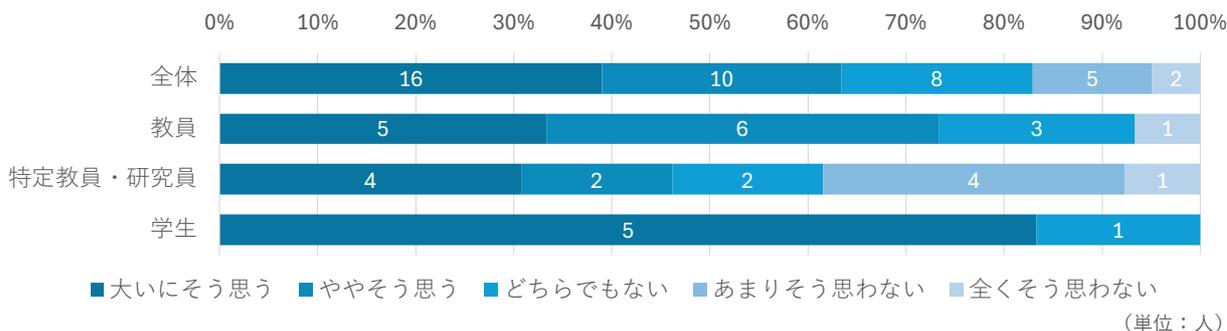
(h) 機会があったらまた参加したい



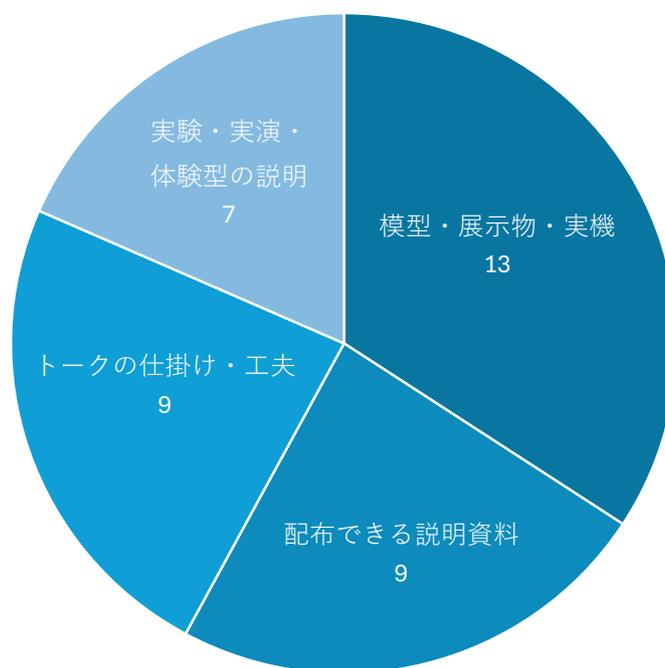
(i)このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



(j)他の研究者との交流の機会になった



- 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った(or 必要だと感じた)工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。



・主な意見(抜粋)

〈模型・展示物・実機(13件)〉

- 実際に来場者の方に体験してもらえるコンテンツや、手に取ってもらえる器具など。(医薬生命科学系)
- 犬山キャンパスから骨格標本を持ち込みました。昨年度も参加し、長机が白い布で覆われていたので、骨格標本の(とくに小さい骨の)細部がパッと見てわかりづらかったため、今回は濃いオレンジ色の紙を持ち込んで骨格標本の下に敷いたことで、骨の様子をよりはっきりと見せることができました。(理工学系)

- QRコードなどで追加資料の明示。(人文科学系)
- 研究の内容の中核ではないのだが賑やかに分子模型を置いていたところそれに興味を持ってくれた人もいた。自分の研究の根幹とはずれていても、机の上に置く小物は色々な種類を用意するといろいろな人にアプローチできるかもしれない。(医薬生命科学系)
- (現地で展示が難しい) 研究室での測定装置を撮影した動画や、実際に撮影した顕微鏡動画などをパワーポイントでまとめ、ノートパソコンを使って来場者に見てもらいました。ポスターだけでは伝えきれない動画などの資料を用意したことで、理解の助けになったと思います。また、より大きな画面で見せられるように、大型モニターを持参してもよかったと感じました。(医薬生命科学系)
- 小さなホワイトボード(昨年はもっておらず、必須だと感じました)。(人文科学系)
- 実際に研究で使っているものが一つでもあると、説得力が増したり、興味をもってもらったりできると感じた。(理工学系)
- 写真中心のポスターと展示物。チームでの出展であったため、メンバー間での事前打ち合わせ。(理工学系)
- 化学のボールモデルを用意しておいたところ、子どもたちがとても興味を持ち、自分で組み立ててみたいと言ってくれました。カーボンナノチューブの構造を説明する際にも、とても分かりやすいツールになりました。また、定規を使って「1cmをナノに換算するとどのくらい小さいか」を示したことで、来場者にもナノという単位の大きさをイメージしてもらいやすくなりました。(理工学系)

〈実験・実演・体験型の説明(9件)〉

- 記念品として、キーホルダーをプレゼントしたのがよかった。(医薬生命科学系)
- ポスターをA4の紙に刷ったものは良かった。見づらいところをじっくり眺められる + 一応持って帰ろうかなという人がいて役立った。30部で足りなかったので増刷が必要でしたが。(医薬生命科学系)
- パンフレットを3種類用意したこと。(医薬生命科学系)
- ポスターのハンドアウトを準備しておいたらよかった。また、次の類似した機会に関する情報(ポスターでは11月のイベントについての情報がありました)のリーフレットがあったらよかった。(社会科学系)
- ポスターの他に、国が作成しているエンディングノートや多様な葬送のパンフレットなど、参考資料をたくさん用意していたため、それらを利用しながら来場者の関心に合わせて話題を広げることができました。(人文科学系)

〈企画の仕掛け・工夫(9件)〉

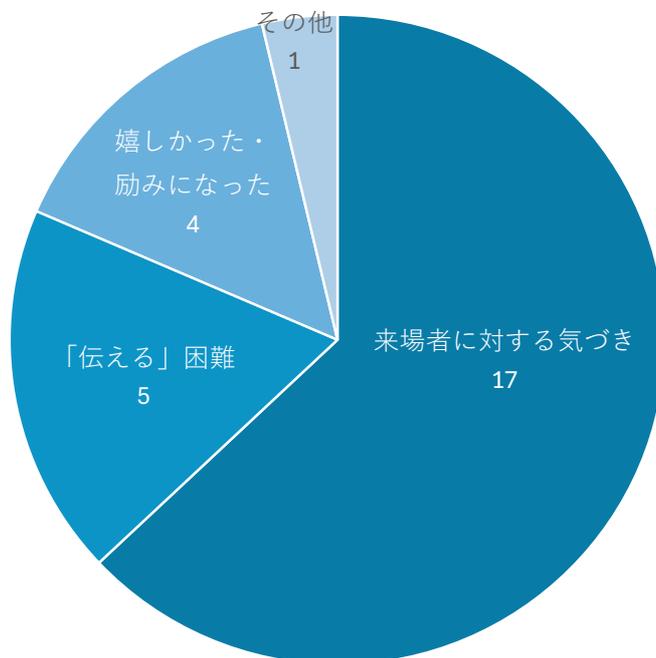
- ブースから少し離れて見ている人には、パンフレットを渡すと近づいてきてもらいやすく、対話のきっかけになるので良いと思った。(医薬生命科学系)
- ポスターにシールを貼ってもらう形でのアンケート。(人文科学系)
- 紙の資料(みなさんびっしり書き込んでおられました)。(人文科学系)
- ポスター以外に、より詳しいスライドを印刷しておいた。また、名札にデコレーションを付けるなどを行った。理論の研究で展示物がポスターだけだったが、多くの人が足を止めてくださった。もう少し、動きのある展示もあった方がよいと思った。また、2名での参加だったが、やはり、ちょっと体力的にきつかった。(理工学系)
- まずは、立ち止まってもらえるような工夫があると良い。(今回はサルのバルーンを用意してもらったことがよかった) (理工学系)
- 子供向けのクイズやお絵かきなどを準備しておいてよかったと感じました。仮に子供には難しい話であってもお子さんが遊んでいる間に親御さんはポスターを眺めたり、話を聞いていただいたりできるなど、想定よりメリットは大きかったと思います。(理工学系)
- 今回はとにかく分かりやすさを重視して資料を作成しましたが、「どのような研究手法をとっているのか」「どのような論文が書けるのか」といったコメントもいただき、来場者の関心の広さを感じました。人文系の発表は難しいですが、少しアカデミックな要素も残しておく方がよかったなと思います。(人文科学系)

〈実験・実演・体験型の説明(7件)〉

- 来場者の方の目に留まりやすいものをポスターの周りに置いておいたり、体験できるようなものがあったのがよかった。(医薬生命科学系)
- 実験器具を触ってもらうコーナーを作ったのですが、中学生以上の子供にはこれが好評でした。(小学生は手が小さくて難しかったようです) (医薬生命科学系)
- 実際に体験してもらえるものがあると良い(今回は実験の課題をタッチパネルで用意した) (理工学系)

- 研究者にとっては当たり前だったり、つまらないように感じられる出展でも、体験型の枠組みを用意することが有効であった。私たちの場合、宇宙線キャッチャーというのを用意して、宇宙線が来ると光る装置で、数を数えた。この数をプロットするのを途中から始めたが、有効だった。(理工学系)

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



(単位：件)

・主な意見(抜粋)

〈来場者に関して、気づいたこと(17件)〉

- 研究発表というものに意外にも多くの一般の方が興味を持っていることに驚いた。大学関係者しか来ないかもしれないと思っていたが、多くの子供やご年配の方にも来ていただきお話できてよかった。話すことで、より自分たちの研究内容が重要なものだと思えるようになった。(医薬生命科学系)
- 修士卒で働いている方々が想像以上に多く来てくださり、どのような研究をしていたのかなどのお話で非常に盛り上がった。(医薬生命科学系)
- 大学で何をするか決めかねている高校生や専門選びを迷っている大学生が来たのが興味深かったです。また、すでに研究を始めている近い分野の大学生・大学院生が勉強のためと言ってブースに来たのも印象的でした。(医薬生命科学系)
- 案外、ごくあっさりした内容とか、自分のグループが特別…というわけでもないことでも興味を持ってくださる人が多かった(医薬生命科学系)
- こんな多くの方にご来場いただけるのか!というのが最も強い印象だった。大学での研究に寄せられている興味や期待を感じることができ、さまざまな角度からの意見が聞くことができよかった。(社会科学系)
- 研究者以外の方とのお話が新鮮で、新たな視点を得られて刺激的でした。(人文科学系)
- 一般市民と話していると思っていたら、学内の関係者(職員)であることがわかって挨拶することが度々あったことなど。(人文科学系)
- 身じまいをテーマに発表しましたが、来場される方の「大事だけど面倒くさい」「大変すぎて無理だと思う」「死んだ後の骨は海にでも撒いてもらえればよい」など、生の声が印象に残りました。身じまいをしない方の本音について仮説はありましたが、実際のところを確認でき参考になりました。(人文科学系)
- 話を聞きたいと思ってきてくれた人は、基本、とてもよく話を聞いてくれてかなり伝わりました。大先生から中学生まで、いずれもよい対話ことができました。(理工学系)
- 厳しいこと言われる方も、約1名ほどあったが、非常によい刺激になった。今の時代、能動的に情報にアクセスしようと思えば、割にいろんなことを簡単に知ることができるが、やはり、日ごろ疑問に思っていてそれが解決しないというような内容に対して、理解の手助けができるをやった意味があったと思える。(理工学系)

- 自分たちの想定以上に研究をポジティブに受け取って頂いたことが新鮮でした。来場者に科学に関心のある方が多いのだらうと想像しますが実用化に10年、20年、それ以上かかる研究を実用化は「すぐ」とおっしゃる方が多かったです。研究者側が予算獲得や国の政策に沿って研究の良しあしを考えすぎているのかもしれませんが。(理工学系)
- 相手の様子を見て対話すること。(理工学系)
- 幼いお子さんの参加者の方がかなり核心をついた質問をしてくださったことが印象に残りました。(理工学系)
- 幅広い年齢層：子供に加えて、予想以上に若者や年配の方々にも立ち寄っていただけました。(理工学系)

〈「伝える」にあたり、困難を感じたこと(5件)〉

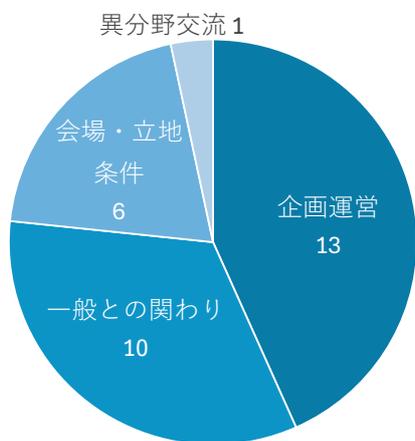
- 専門的な内容を分かりやすく説明することは予想以上に難しく、もどかしさを感じる場面もあった。(医薬生命科学系)
- 子供に伝えることの難しさ。どうしても興味を持たずに、聞き流しているような形になっている子が多かったため。(理工学系)

〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと(4件)〉

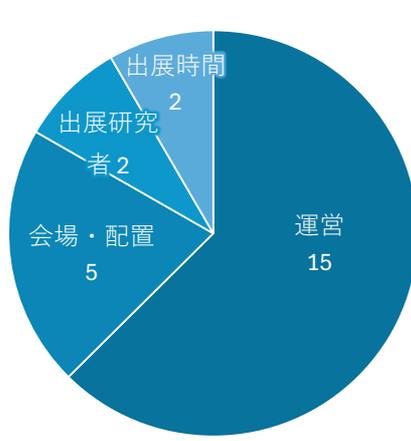
- 研究について説明した時に「すごい！」「面白いですね」といったリアクションをもらえたことで、見失いかけていた自分の研究の意義や面白みを再確認することができた。(医薬生命科学系)
- 学会と違って相手のバックグラウンドが全く読めないので緊張感がある。詳しいなと思ったら隣の専門領域だったり鋭いなと思ったら理学の先生だったり、逆に専門家の可能性もあるなと思ったら高校生だったり、相手の感触を探りながら話し方を切り替えるのは面白くて難しかった(医薬生命科学系)
- こちらが主題として想定していたテーマより、自分の専門の研究をちらっと話した時に「そっちの方が面白そう。話聞きたいです。」と言われたこと。自分のテーマに対する一般の方のニーズが高いとわかることは、学者として今後もより自覚を持って社会の必要に応じていきたいと思うきっかけになりました。(人文科学系)
- 多くの来場者は研究の応用に関心を持っていました。特に、高校の生物の先生が研究内容に強い興味を示し、多くの質問をされたうえで「授業で生徒にも紹介したい」と言ってくださったことが印象に残りました。(理工学系)

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見

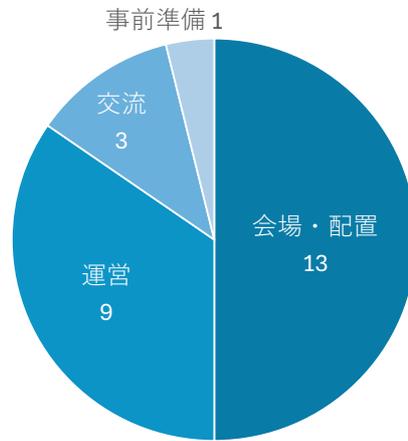
〈良かった点〉



〈改善点〉



〈今後に向けた提案〉



(単位：件)

・主な意見(抜粋)

〈①良かった点〉

企画運営に関すること(13件)

- 受付がスムーズだった。うちわや水の配布など、細かいところまで配慮行き届いていた。(医薬生命科学系)
- 開始当初に比べて、盛大になってきて見事な成長を遂げていると思います。(医薬生命科学系)
- 託児所をご提供いただき、心より感謝いたします。おかげさまで、本イベントへの参加にあたり、家族への負担を大きく軽減することができました。(医薬生命科学系)
- 運営の丁寧さ(人文社会系)

- 随所に見られた来場者が楽しめる工夫と研究者への配慮(お水など)。ステッカーを集めるシステムは面白いと思いました。適度に来場者の回転を促す効果もあると思うので。(人文社会系)
- 昨年度、来場者として参加した際も感じましたが会場が大変良いと思います。毎年、楽しみにしているとおっしゃっていた親子の方もいらっしゃいました。日時も1週間？ずらされて暑さの面でもよくなったように思います。(理工学系)
- 参加者の負担をなるべく軽減するように、事務局側が丁寧に準備されていたこと。当日までに大きな負担なく、対応できた。物品の送付やポスターの展示などの指示もやりやすかった。開始・終了時間もこれでよい。(理工学系)
- 運営スタッフの配慮や見回りがしっかりして目が行き届いていた点(理工学系)

一般の方との関わり(10件)

- 国内の関連企業に勤務されている方、高校の理科教員の方、他大学のURAの方から、小中高生、実際に難病の治療を受けている一般市民の方に至るまで、さまざまな背景を持つ方々とお話することができました。(医薬生命科学系)
- 京大で行われている最新の研究成果を発信でき、大きなやりがいを感じました。また、学生出展者にとっても、一般の方に向けたポスター作成や研究内容のわかりやすい説明を練習する良い機会となりました。(医薬生命科学系)
- 市民の方とコミュニケーションを取りながら改めて自分の研究について振り返ることができる。(人文社会系)
- 興味のある人が来てくれたので話がしやすかった。(理工学系)
- ゼスト御池での参加ははじめてだったが、非常にたくさんの方が来場してくださったのはよかった。特に小さなお子さんづれの家族の来場が多数あったのが印象的だった。(理工学系)
- 熱心な高校生がたくさん来た点(理工学系)
- 多様な年代・属性の方々とお話する機会を持てた。(理工学系)
- 幅広い世代の来場者と直接対話でき、自分の研究をわかりやすく伝える良い機会になったことです。特に子どもたちや高校の先生方が興味を持ってくださり、研究を身近に感じてもらえたのが嬉しかったです。(理工学系)

会場・立地条件(6件)

- 天候に左右されず、多くの方に立ち寄っていただけるような場所で開催したこと。(医薬生命科学系)
- 御幸町広場にも受付ブースがあったこと。(医薬生命科学系)
- 一般人が通るゼストでの開催は京大の研究成果を知らせるのはとてもよい。市民に見て、感じてもらう試みはいいと思います。(医薬生命科学系)
- ブースは十分な広さがあり、対応しやすかった。パンフレットや案内等もとても見やすかった。(社会科学系)
- 割と通路に近いところだったので、歩きながら立ち寄り人がいた(理工学系)

異分野交流について(1件)

- たまたま通りかかった一般の方に発表を見ていただけた点。また、研究者同士の交流も大変役に立ちました。(医薬生命科学系)

〈②改善点、今後に向けた提案〉

会場・配置について(改善点:12件/提案:5件)

- 昼食場所をもう少し近くにも設置していただけるとありがたいです。暇を見つけられず、7時間立ち続けることになってしまいましたので。(医薬生命科学系)
- もう少しだけテーブルが広ければ、さらに充実した展示ができたと思います。(医薬生命科学系)
- 追加シールをもらいに行ったり、パンフレットをもらっていない来場者さんに案内するとき、本部の受付までの距離が遠く感じた。(社会科学系)
- 通路から離れたところだとなかなか人が来にくい(理工学系)
- 真上の照明がついてなくて暗かった(理工学系)
- 会場が少々暑かった。場所の制約上仕方ないとは思っています。(理工学系)
- 出展ブースの間に空間があり、そこに椅子や小さな机があると便利だと感じた。(理工学系)
- 各ブースの題名の文字はもう少し大きくても良さそう。(理工学系)
- 同じ研究分野をまとめるのではなくて、いろいろ混ぜてほしい。(医薬生命科学系)
- 各通りにサテライト的な本部受付があると助かりました。(社会科学系)

- 途中から蚊に悩まされました。虫よけは持ち物に入れておいた方がよいかもしれません。(人文科学系)
- 思い切って受付の西側でやってみたらどうでしょう(人文科学系)
- 立ち話の方で参加させて頂きましたが家族がちゃぶ台の方に行き大変面白かったと言っていました。場所が分かりにくいと言っていました。ちゃぶ台は来場者が多すぎても成り立たないと思いますので悩ましいところですが。(理工学系)

運営について(改善点:9件/提案:15件)

- もう少したくさんの方が参加できるように宣伝してほしい。京大生の参加率も上げてほしい。(医薬生命科学系)
- ブースの前が混雑して、後ろからなかなか入ってこれない方をどう解消するかが課題だと思いました。(医薬生命科学系)
- 当日本当に忙しく、事前にいろいろな場面で警告してくださっていた意味を理解しました。改善点とか課題ではなく、また周知も十二分にしてくださっていたと思いますが、来年度以降参加する場合は気をつけようと思います。他のグループのポスターも10-11時の間に見に行かないと、でした。(医薬生命科学系)
- 思ったより来場者が多く、お待たせしてしまいました。主に3名で対応していたが、もう少し人手が必要だったので、次年度参加される方には参考にしていただきたい。(人文科学系)
- 出展者側のインセンティブがあがるような仕組みを他にも作れるか?(理工学系)
- ちゃぶ台での発表だったのですが、参加者の入れ替えのタイミング等を運営の方々とも前もって相談できれば良かったと思いました。(理工学系)
- 出展者の休憩場所を増やしていただきたいです。(医薬生命科学系)
- もう少し出展者を集めて、土日連続で開催にすれば、盛り上がりそうです。クイズとか、パズルとかで来場者を競わせる企画などもできたらいいですね。(医薬生命科学系)
- 出展の半分ずつなど、休憩時間を30分ほど取ってはどうか。そうすれば他の出展を見に行く時間にも使えるのではないかな。(人文科学系)
- ちゃぶ台ブースの時間は各3時間あっても良い気がしました。今回は各ちゃぶ台2時間でしたが、盛り上がり過ぎて延長している方が多かったので。(人文科学系)
- 可能であれば、アカデミックデイ実施に対する予算を少しで良いのでつけて貰いたい。既に物品の搬入に関する費用等を一部負担して頂いてはいるものの、どうしても何かを用意するには費用が掛かってしまい、それは実施者の持ち出しになってしまっている。(理工学系)
- 2分間動画はどこかで繰り返し見れるとよいのではないかな?一瞬だけの放映だと勿体無い。(理工学系)
- 中高への宣伝をどの程度実施しているか把握していないが、たくさん宣伝して続けていくのが良いと思う。チラシをパッと見ただけでは、なにをしているのか(ただの記念日なのか、内輪イベントなのか等も含め)不明瞭な気もするので、もっと実際の研究者と直接話せて、研究に対する疑問をぶつけられる、などという点を一目でわかるようにするのが良さそうに思う。(理工学系)
- 撮影した写真、動画で簡単な報告動画3分くらいを作って公開してはどうか?(理工学系)
- 動画提出を任意にする、学生が参加する場合は大学がTAとして雇用する、などして労力と経済的負担の両面で参加のハードルを下げられないでしょうか?京都大学の宣伝と社会貢献に大きく貢献していると思うので、大学本部にさらに投資していただきたいところです。(理工学系)

研究者同士の交流について(改善点:3件)

- 他のブースの研究者の方の展示を見たり交流をもったりする時間がほとんどとれなかったのが残念だった。(社会科学系)

事前準備について(改善点:1件)

- イベント自体がほぼ丸一日であることに加え、私のチームの場合は事前準備に少なくとも20人時(作業人数x作業時間)程度かかりました。大変意義深い取り組みだと思うのですが、多くの教職員にとって参加のハードルが高いかもしれません。(理工学系)

出展研究者について(提案:2件)

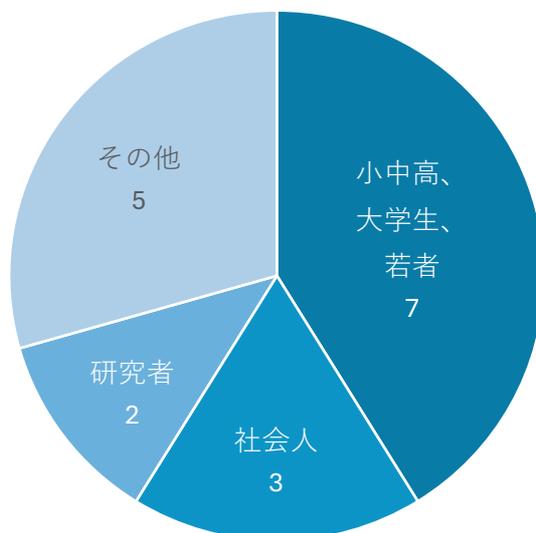
- 日本語以外を母語とする研究者の参加が少ないと思います(必然的に日本人向けのイベントになっている?)。日本語以外を母語とする研究者のセッションが増えると、日本語以外を母語とする一般参加者も増えると思います。(医薬生命科学系)

- 理系だけでなく、文系分野の研究も知りたいとの来場者からの意見がありました。(医薬生命科学系)

出展時間について(提案:2件)

- ゼスト御池の開店の時刻を考えると11時スタートは良いが、ずっと対応するなら16時くらいまでにするのが良い。18時は長すぎる。特に、帰る場所が京都市内でない場合には、翌日まで疲れが残る。(理工学系)
- 18時まで人はたくさん来て下さっていましたが、さすがに長丁場過ぎるので17時終了でよいのではないか。(理工学系)

〈③このような来場者ともっと話したい〉



(単位：件)

・主な意見(抜粋)

小中高、大学生、若者(7件)

- スーパーサイエンスハイスクール指定校からの学生および教員対象の展示？興味あれば、夏休みや冬休みに研究室でインターンの機会を提供しても良いかもしれません。(医薬生命科学系)
- 今後、大学に入ろう、研究をしてみよう、という高校生(中学生も)が多いと嬉しい。(理工学系)
- どちらかというに進路を探している学生に来てもらう方がやりがいがある。(理工学系)

社会人(3件)

- 自分たちの研究(生物学)を支援して下さるような企業の方々。(医薬生命科学系)
- エンジェル投資家を探していることもあり、富裕層の方と話す機会があれば、嬉しいです。(医薬生命科学系)
- 企業の方(人文科学系)

研究者(2件)

- 高額の研究費を稼いでいる人とは違う、次代の優れた研究の萌芽を感じさせる研究が多く見られた。文系の研究者とも話をしてみたかった。やはり、余裕のなさがちょっと残念。(理工学系)
- 文系・社会科学の大学生や研究者など。(理工学系)

その他(5件)

- 京都の秋は日本語以外を母語とする人口(観光客)が多いので、そのような来場者と話せるような場を作って欲しいです。学生は一見シャイですが、そういう場になったらきちんと英語をしゃべっていますし、心配は無用と思っています。(医薬生命科学系)
- 多様な来場者がありましたが、この多様性を維持したまま多くの方に来ていただく、というのが大切ではないかと思います。交流が難しい方との対話も、貴重な経験と感じました。(医薬生命科学系)
- 京都の人たちだけでなく話をする機会を持つという点ではオンラインでの、似たような催しもきっと面白いと思います。(理工学系)

- 車椅子の方が立ち寄ってくださったので思ったのですが、様々な障害(視聴覚を含む)を抱える一般の方々が参加しやすい環境での開催も実現できるとよいと思いました(出展者側にもそれなりの準備が求められるとは思いますが)。(理工学系)

●「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

・主な意見(抜粋)

新企画に関する意見(5件)※割愛

現状改善案(5件)

- 学部生も発表できる場があるといいかな。研究室単位ではなくて、学部での活動。(医薬生命科学系)
- 思ったより中高生や大学生の来場が多かったので、そういった学生向けのブースを各ブースの研究者で共同運営してもいいと思いました。(医薬生命科学系)
- 「対話と議論」のブースをもう少し拡大してほしいかも?うまく言えないが、いろんなクロスオーバーのシーンを見たい。(理工学系)
- 「アカデミックデイ」や「学問のやどりぎ」に類似したイベントを京都大学の遠隔地キャンパスの近郊(京都市以外)でも企画できないでしょうか?(理工学系)

● 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

・主な意見(抜粋)

URA への意見(8件)

- 重要な側面だが研究者をほったらかしておく進むというわけでもない領域なので、企画・運営本当にありがたい頭も下がると思いました(医薬生命科学系)
- 随所に来場者が楽しめるような工夫と研究者への配慮を両方感じました。個人的には一般の来場者にも研究者にも双方に大変意義のあるイベントだと思いました。(人文科学系)
- 今回の取り組みはアウトリーチとしては極めて優れた企画だと思います。(理工学系)

アカデミックデイ全般に関する意見(8件)

- 科学は難しく思われるので、もっと市民に生活に関連しているものであることを説明する場がたくさんある方がいいと思います。サイエンスとアートを組み合わせると少し飛び込みやすいかもしれません。(医薬生命科学系)
- 新たな受験生の開拓にもつながる可能性があるので、名古屋開催など検討いただけると参加しやすい(理工学系)
- 時計台でやるのは結局卒業生との内輪イベントといった色彩が強くなってしまいます。こちらは、本当の一般人が多数来るので、大学でやっていることを広く一般に理解してもらおうということではこちらが本筋かと思います。(理工学系)
- 何らかのインセンティブ、もしくは評価されるような仕組みが必要だと感じる。(理工学系)
- 業績に直接結びつかず、評価されにくい現状では継続的な実施は困難に思える。積極的にやっていきたいが、ボランティアに頼りきりでは限界があるように思う。(理工学系)
- 自分も含めて「常連」の参加が多いようにも思ったので、中から大型の科研費が採択されてもこういうことをする必要はないと思っている一般の教員をどう取り込んでいけるかが今後の課題かと思いました。(理工学系)

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。本賞は、研究成果の発信にとどまらず、来場者との対話を通じて学問と社会をつなごうとする取り組みを評価するためのものです。広く多くの方との対話に向き合う研究者の姿勢や工夫の効果を顕在化することで、「国民との科学・技術対話」活動の意義を共有し、研究者が工夫しながら対話に取り組み続ける土壌を育てます。

本賞の選考は、来場者アンケートを通じて行われました。来場者の方々が実際に研究者と対話した体験をもとに、「よかった」と感じた出展や、その出展に贈りたい賞の名称を自由記述で回答する形式とすることで、いわゆる「研究内容の評価」とは異なる観点から、対話の質や伝わり方が評価される仕組みとしています。

全出展の中で最も多くの賞を集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除き、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」および「研究者と立ち話」の各企画において最も多くの賞を集めた出展研究者に、それぞれ「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

■ 3-3-1. 2025 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：マイクロチップで臓器を作ろう！

出展代表者：横川隆司（大学院工学研究科）

あきらめない医療賞、一番可能性を感じたで賞、マウスが救われるで賞、さらなる進歩を期待するで賞、学生に勢いがあった楽しかったで賞、発想が豊かであった賞、わくわくを楽しく伝えてくれたで賞など



● 京都大学アカデミックデイ賞:「研究者と立ち話」部門

出展名: 目指せ“未病”！ ～認知症にならない、なっても困らない社会へ～

出展代表者: 高橋良輔(総合研究推進本部)

熱意が熱い賞、研究の“つづきが気になる”賞、社会課題解決に役立ててほしいで賞、など



● 京都大学アカデミックデイ賞:「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名: サルの心・遊び・笑いの世界

出展代表者: 壹岐朔巳(白眉センター(京都大学ヒト行動進化研究センター))

ワクワク！サルとニンゲン似てるで賞、さるはよくわらうで賞、質問いっぱい答えてくれたで賞、など



■ 3-3-2. アンケートの上位の出展

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かったポスター上位 10 件は、以下の出展でした。
 ※ ちゃぶ台囲んで膝詰め対話は出展数が 5 件のため省略します。

● 研究者と立ち話

「宇宙線で開拓する科学：シチズンサイエンスから月の水資源探査へ」出展代表者：榎戸輝揚(大学院理学研究科)	
・調査結果が楽しみで賞	・市民と共にガンバルで賞
「幸せな「人生のしまい方」って？」出展代表者：児玉聡(大学院文学研究科)	
・真剣に考えるきっかけになったで賞	・みんなが取り組むべき課題で賞
「ホネの世界と生き物の世界」出展代表者：富谷進(ヒト行動進化研究センター)	
・骨って面白いで賞	・今まで知らなかった新しい適応を教えてくださいで賞
「有用だけどりサイクルが難しいテフロンに学術で挑む」出展代表者：長谷川健(化学研究所)	
・新しい発見があったで賞	・地球のためにがんばってるで賞
「ヒトの脳、サル脳 どこが似てる？ どこが違う？」出展代表者：中村克樹(ヒト行動進化研究センター)	
・脳の可能性に気づけたで賞	・さるを研究するのは大変だと思った。努力賞
「太陽系のタイムカプセル：地球外物質」出展代表者：野口高明(大学院理学研究科)	
・もっと研究をすすめてほしい！で賞	・身の周りの人と協力していてすごかった賞
「顕微鏡で観てみよう！植物のカタチ」出展代表者：加藤優太(大学院農学研究科)	
・光合成ってすごいんで賞	・研究者、発明家すぎで賞
「神経発達症の“しくみ”を探る」出展代表者：六田泰央(大学院医学研究科)	
・ぜひときあかしてほしいで賞	・どんな人も安心して生きていける社会は科学が支えているで賞
「重力波を用いた新しい物理学の探求」出展代表者：田中貴浩(大学院理学研究科)	
・アインシュタインを越えま賞	・宇宙へはばたけたで賞
「小さな素粒子の世界」出展代表者：笠井優太郎(大学院理学研究科)	
・これからの可能性にワクワクしたで賞	・未来の楽しみが増えたで賞

4. 出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ 2025 の WEB サイトでもご覧になれます。

京都大学アカデミックデイ 2025 の WEB サイト
<https://ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2025/>



4-1. 研究者と立ち話

K

京都市の取組について

京都市 スタートアップ・産学連携推進室



スタートアップ支援に力を入れているで賞

アカデミックデイ×京都市(共催企画)。京都市では、将来の起業家を育成するアントレプレナー教育や、大学の研究成果の社会実装に向け、民間企業との連携・研究者自身の起業等を支援する取組を実施しています。今回は、京都市の取組と、京都大学の研究成果をもとに起業して事業を行っている企業の紹介を行います。



C1

世界市民教育に対する様々なアプローチ

BROTHERHOOD Thomas(大学院教育学研究科)



教育の根本を下支えしてくださっているで賞

現代においては、地球環境問題や戦争・テロや社会格差など、国境を超えた事象が、人類社会を脅かしています。そのような中、特定の場所、特定の文化的存在としての人間を前提条件にすることのない教育としての世界市民教育が注目を集めています。本プロジェクトでは、このようなことから、世界市民の内実や意味、そして世界市民教育・人間形成の展開過程を考えることをめざしています。



C2

女性医学研究者のキャリア開拓プロジェクト

金玟秀(大学院医学研究科)



社会の仕組みを考えているで賞

昨今、日本における女性研究者の少なさが課題となっています。また、ジェンダー観による生き方や選択肢の制限が存在しています。本プロジェクトではこれらの現状を打開するため、国内外の研究者にインタビューを行い分析することで、日本で女性医学研究者が少ない原因を考察し、制度・文化・社会面から改善案を提示しました。



T1

幸せな「人生のしまい方」って？

児玉聡(大学院文学研究科)



自分の人生を見つめ直すきっかけになったで賞

あなたは自分の人生のしまい方について、どのような思いを持っていますか。高齢期には、老いによる身体の変化に対応を迫られたり、死後を見据えて遺物の整理が必要であったり、たくさんの意思決定が待っています。こうした面倒だけ大切なことに、どのように向き合えばよいのか、ぜひ皆さんのお考えをお聞かせください。



T2

あなたはどのタイプ？医療AIで重視すること

小泉志保(大学院医学研究科)



モラルと、医療AIたいせつで賞

医療分野でも対話型AIが活用され始め、日本でも徐々に導入が進んでいます。対話型AIは、病状や治療法の説明などを行い、医師と患者のコミュニケーションを補助します。ただし、情報の正確性やプライバシー保護などの課題もあります。実際に使うとしたら、どのような点が重要だと思いますか？4つのフレームとカードを用いてあなたの考えを視覚化してみましょう。参加型の展示を行います。



T3

ことばにならない気持ち、どうやって見つける？ — 心情認知学の創成 —

上田祥行(人と社会の未来研究院)



社会を明るくしてくれるで賞

こころを豊かにする技術の創生には、私たちが抱く多様なこころの状態を理解し、概念化できる理論が必要です。これまで、表情や心拍などの生体情報から、こころを推定する試みがされてきましたが、この方法では私たちの繊細な想いを理解するには十分ではありません。私たちは、感情の複合がこころの状態の本質であると考え、この問題に挑みます。



T4

孤独感スクリーニング技術の開発と居場所づくり

西村勉(医学部附属病院)



これからも居場所づくりつけてくださいで賞

本研究は、テキスト解析により孤独感を推定する技術を開発し、その結果に基づく受け皿として居場所を提供することで、孤独感の軽減を目指す。さらに、ボランティア活動や自然体験が孤独感、幸福感や自尊心の改善に与える効果を検証する。農作業や動物とのふれあい、古民家リフォームなどの実践活動を通じ、孤独を抱える人々の心理的変化を調査し、地域社会との関わりが心の健康に及ぼす影響を科学的に明らかにする。



T5

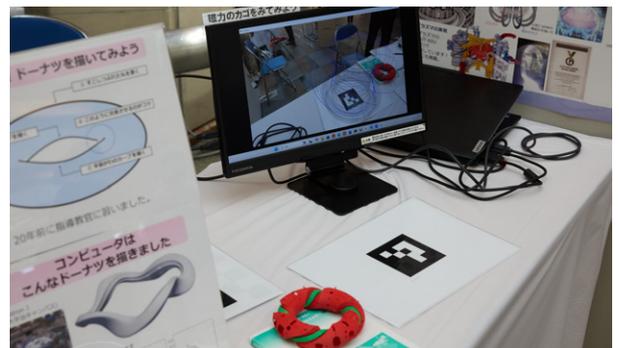
宇宙の「はじまり」を次世代のエネルギーに — 物理と計算で描く未来 —

松山顕之(大学院エネルギー科学研究科)



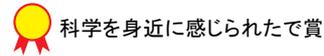
未来の事を考えているで賞

私たちの身の回りの元素は、宇宙誕生からおよそ3分後、核融合反応で生まれました。核融合は、分裂でなく融合からエネルギーを生む反応で、太陽もこの力で輝いています。この「宇宙のエネルギー」を地上で活用するため、物理と計算のチカラで挑む研究を紹介します。どんな仕組み？ 何が難しい？ 安全なの？ どう実現？ みなさんと共に考えます。



T6

宇宙線で開拓する科学：
シチズンサイエンスから月の水資源探査へ
榎戸輝揚(大学院理学研究科)



科学を身近に感じられたで賞

宇宙の彼方からやってくる宇宙線は、宇宙と地球の境界(はざま)の地球大気や、月表面にぶつかって目に見えない面白い現象をおこします！宇宙線が雷雲にぶつかって発生するガンマ線を測定するシチズンサイエンス「雷雲プロジェクト」や、宇宙線が月に衝突して生じる中性子を測定して月の水資源を探す「モモタロウ(MoMoTarO)プロジェクト」を紹介します。



T7

マイクロチップで臓器を作ろう！
横川隆司(大学院工学研究科)



物理の生命へのアプローチが興味深いで賞

私たちの体を構成する細胞の機能を理解するためには、それぞれに適した環境を再現することが非常に重要です。私たちは、半導体技術により作製したマイクロ流体デバイスを用いて、血管、腎臓、肺、肝臓などの機能を模倣する生体模倣システムを開発し、臓器発生過程の理解から薬物動態や安全性の評価まで幅広く研究を行っています。



T8

ナノロープがナノチューブを選ぶ！
傳馨怡(大学院人間・環境学研究科)



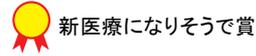
様々なことに活かそうでおどろいたで賞

カーボンナノチューブって知ってる？目では見えないけど、いろいろな太さがあるんだ。わたしたちは、特別な分子と金属でできた長いナノロープを作ったんだ。それはいろいろな太さのナノチューブを包み込むよ。ナノロープは、まるで脳から手に信号を送る神経みたいに、ナノチューブの太さを感じ取ることができるんだ。



T9

骨の主要な無機成分「アパタイト」が切り拓く先進医療 数塚武史(大学院エネルギー科学研究科)



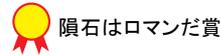
新医療になりそうで賞

超高齢社会の到来により、病気や事故で失われた骨を治す人工骨など、さまざまな治療を支援する医療用素材の需要が高まっています。私たちは、生命体のからだを支える鉱物「アパタイト」の性質に着目し、身体の中で自然に骨と一体化する人工骨や、薬の効果を高めるカプセルなど、人の身体を治す新素材の開発を進めています。



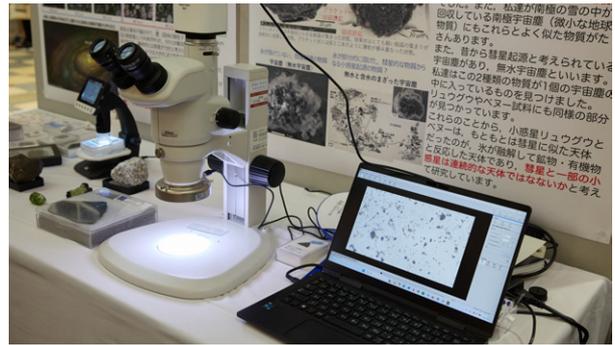
T10

太陽系のタイムカプセル: 地球外物質 野口高明(大学院理学研究科)



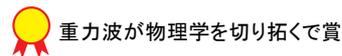
隕石はロマンだ賞

隕石に代表される地球外物質のほとんどは45億年以上前に作られました。地球最古の岩石が約40億年前に作られたものであることを考えると、地球外物質は太陽系のタイムカプセルということがお分かりになるかと思えます。この展示では実際に隕石等を見ていただきながら、地球外物質からどんなことが分かるのかお話ししたいと思います。



T11

重力波を用いた新しい物理学の探求 田中貴浩(大学院理学研究科)



重力波が物理学を切り拓くで賞

現代の基礎物理学における大問題と言われるインフレーション、暗黒物質やバリオン数の起源などの問題はすべて、標準宇宙論を超えた新たな基礎物理の展開の可能性を示しています。このような観点に立つとき、近年観測が可能となった重力波を用いることで開かれる新たな粒子や物理現象の探索は非常に魅力的で、多くの成果が期待されます。本研究は、重力波観測を用いて近い将来に実現可能な新粒子の発見と検証のための手段を理論的に探究することを中心課題とし、理論的研究の深まりを活用した重力波による新たな探索手法を確立することを目指しています。



T12

小さな素粒子の世界

笠井優太郎(大学院理学研究科)



極微と極大のハーモニー賞

身の回りの物質をバラバラに分解していくと、やがて分子、原子が現れ、最後には素粒子が現れます。この世のあらゆる物質は素粒子が集まってできていますが、素粒子が見える小さな世界と私たちが暮らす世界では全く異なる風景が広がっています。今回はそんな小さな素粒子の世界と、素粒子の謎に挑む私たちの取り組みを紹介します。



G1

有用だけどリサイクルが難しいテフロンに学術で挑む
長谷川健(化学研究所)

リサイクルの未来を感じた賞

テフロンとして社会の多くの場で便利に使われる PTFE は、汚れが付かないメリットが重宝される一方、物性発現メカニズムが長年不明でした。また、リサイクルも極度に難しく、燃やすすかかないと思われていました。私たちは、PTFE のような炭化フッ素化合物の物性発現のメカニズムを初めて解き、その結果、安価で安全なリサイクル方法にも初めて具体的な指針を得ることができました。



G2

顕微鏡で観てみよう！植物のカタチ
加藤優太(大学院農学研究科)

身近な美しさだったで賞

身近な植物も、顕微鏡で観察すると驚くほど精巧で美しい構造をもっています。光合成による物質生産・酸素供給だけでなく、私たちの生活を多方面から支える植物。その微細構造がどのような意義を持っているのかはまだ多くの謎が残されています。植物のカタチに込められた不思議を、あなたも一緒に考えてみませんか？



G3

京大で開発したプログラミング教材で遊んでみよう！

廣谷潤(大学院工学研究科)



車が走った！賞

京都大学の工学部と教育学部の学生と教員が一緒になって、小学生向けのプログラミング教材を開発しました！大学生のサポートの下、紙と筆記用具を使いながら実際のロボットを使って遊んでもらえるようにアレンジした教材で楽しんでもらえればと思っています。



G4

ホネの世界と生き物の世界

富谷進(ヒト行動進化研究センター)



ホネは生き物の本質で賞

骨の形態からは、その動物がどのような環境でどのように生きていたのかが見えてきます。本出展は、犬山キャンパスのヒト行動進化研究センターに所蔵される哺乳類の骨格標本(特に頭と足の骨)の観察を通して、来場者に生物への関心と理解を深めてもらう企画です。



G5

似たものどうしはひっつきやすい。

これ、人間だけじゃなくタンパク質でもそうなんです

村上一馬(大学院農学研究科)



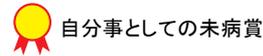
タンパク質も生きてるで賞

アミノ酸が並ぶ順番が決まると、タンパク質は構造を取ります。強い酸性溶液などの変性剤を加えると、この構造はいったん壊れますが、変性剤を取り除くと元に戻ります。しかし、卵を加熱すると、ゆで卵になって元に戻らないように、不可逆なタンパク質も存在します。このようなタンパク質の不可逆な反応は「凝集」と呼ばれ、“似たものどうしがひっついた”アミロイドタンパク質の凝集体はその代表例です。認知症などの神経変性疾患の多くはアミロイドが凝集することで引き起こされます。凝集したタンパク質はどのような構造を取るのか？この凝集をほどく特効薬は存在するのか？そして、そもそもどのようにして脳内で凝集は始まるのでしょうか？



G6

目指せ“未病”！
～認知症にならない、なっても困らない社会へ～
高橋良輔（総合研究推進本部）

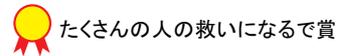


高齢化に伴い認知症関連疾患の患者数が増加し、社会課題となっています。これらの疾患では、症状が現れるずっと前から脳や全身に変化が始まり、真の早期診断や治療が困難です。私達は最先端の遺伝子・細胞解析に加え、数学や倫理学との協業体制を活かして、脳や各臓器のネットワーク異常を早期に捉え、発症前の“未病”段階で進行を止める未来を目指しています。

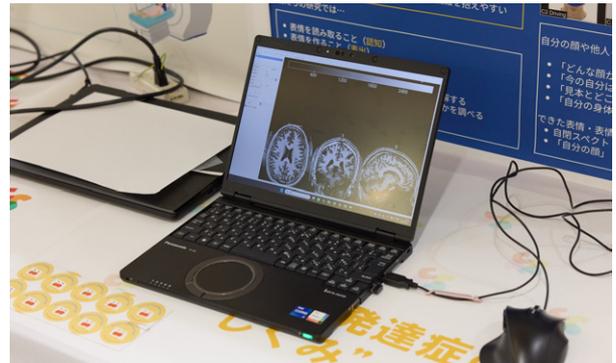


G7

神経発達症の“しくみ”を探る
六田泰央（大学院医学研究科）

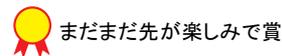


自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症などの神経発達症の背景に、どのような脳の特徴があるかは未だ十分に解明されていません。私たちは機械学習や超高磁場 MRI などの最新技術を使ってその特徴を調べ、仕組みのより深い理解や最適な診断・支援のあり方を探っています。研究の最前線、少しだけのぞいてみませんか？



G8

ヒトの脳、サルの脳 どこが似てる？ どこが違う？
中村克樹（ヒト行動進化研究センター）



ヒトの脳と色々なサルの脳を比べてみます。ヒトにしかできないことはなんでしょう。一緒に考えてみましょう。



G9

1 分子で診る生命のひみつ

金水縁(高等研究院)



目のつけどころが良いで賞

私たちは、「1つの分子」が出す小さな光をとらえる特別な顕微鏡を使って、病気の診断や薬の開発などに役立つ新しい分析技術を研究しています。この展示では、私たちが独自に開発した、三次元で個々の分子を観察できる顕微鏡のしくみや、それを使って1つの細胞の中にあるすべてのタンパク質を詳しく調べる方法など、最新の成果をご紹介します。



G10

負けるが勝ち？

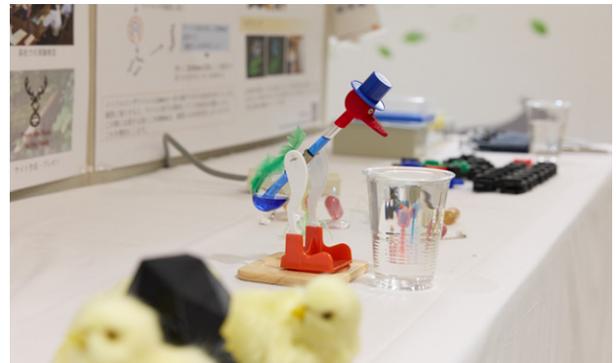
鳥インフルエンザに合成生物学で立ち向かう

北畠真(医生物学研究所)



大富豪になって支援したいで賞

世界中の食を支える「ニワトリ」。毎年、高病原性の鳥インフルエンザにより多くのニワトリが被害を受けています。京都大学の学部生による研究チーム iGEM Kyoto では、さまざまな遺伝子の部品を組み合わせる「合成生物学」の技術を使って、ニワトリを鳥インフルエンザから守る方法の開発を試みています。ニワトリの細胞をウイルスに負けないように「強く」するのではなく、反対に「弱く」することで結果としてニワトリを守る。「逆転の発想」から始まった研究がどのような成果に至ったか、これまでの過程を共有し、問題解決までの道りを議論します。

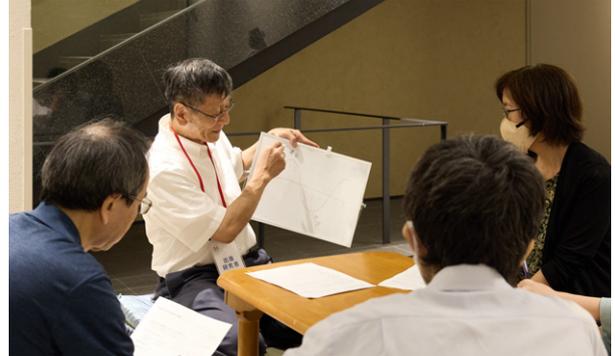


4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

ちゃぶ
a1 中国古代の死後世界の表象
宇佐美文理(総合生存学館)

 優しく教えてくれたで賞

古代中国において、死後の世界はどのように考えられていたのか。現存する文献は多くを語らないのですが、お墓の中に残された図像は、実際にそれがどのように考えられていたのかを教えてください。みなさんと図像を見ながら考えてみたいと思います。



ちゃぶ
a2 数式で眺める多細胞社会学
西川星也(大学院生命科学研究所)

 数理と生物のコラボおもしろかったで賞

私たちヒトをはじめとした多細胞生物の体は無数の細胞によってできています。これらの細胞たちは同じ種類の細胞たちが協力しているわけではなく、多くの種類の細胞が協力して、細胞の社会を形成しています。数学・物理学・情報科学を総動員することで、こうした多細胞社会のシステムについて眺めてみましょう！



ちゃぶ
a3 サルの心・遊び・笑いの世界
壹岐朝巳(白眉センター/ヒト行動進化研究センター)

 動物の笑い、遊びについてもっと知りたいで賞

動物たちはどのような「気持ち」を持っているのでしょうか？その「気持ち」をどのように伝えあっているのでしょうか？そして、私たち人間は、どうすれば動物の心の世界を覗き込むことができるのでしょうか？動物の遊びの観察や実験を通してわかってきたことをお話しします。



ちゃぶ
b1

Historicizing Anger (Early Modern France)

Justine Le Floc'h (大学院文学研究科)



これからもがんばって欲しい賞

Emotions are not merely individual, ephemeral, or natural impulses. They are embedded within a system of social norms—norms that discourses both reflect and shape by assigning roles, scenarios, and culturally specific modes of expression. As social constructions, emotions can be studied historically: this is the aim of the history of emotions. My research focuses on one emotion in particular: anger. How was anger understood in the early modern period? Could it be considered virtuous? Did psychological discourses on anger establish gender distinctions? What remedies did physicians recommend, and what penance did confessors prescribe? The study of French early modern treatises on the passions provides valuable insights into these questions. These texts shed light on the psychological categories of the past, and help trace a prehistory of psychology, prior to its institutionalization as a scientific discipline.



ちゃぶ
b2

道徳を問い直す: 倫理学の最前線

石原諒太 (大学院文学研究科)



答えがない問いに立ち向かっているで賞

倫理的問題は世の中に溢れかえっています。動物を食べてもいいの？ 100年後の世代に対する責任ってあるの？ 自動運転車と歩行者が衝突しそうとき誰を助けることを優先すべきなの？ 貧しい人を援助する義務ってあるの？ こうした問題に様々な道具立てを用いて答えようとするのが「倫理学」という研究領域です。ちょっと億劫だけど避けられない問題、私たちと一緒に考えてみませんか？



4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
K	○	京都市 スタートアップ・産学連携推進室 株式会社 OPTMASS 株式会社ナールスコーポレーション 株式会社マリ
C1	○	大学院教育学研究科 BROTHERHOOD Thomas 講師 奥村 好美 准教授 パク ジュナ 講師 田野 茜 博士課程 林 堯親 博士課程 郷田 寛二 修士課程
C2	○	大学院医学研究科 金 玟秀 准教授 医学部 吉良 花蓮 学部 5 年 小澤 翔馬 学部 5 年 白樫 聖夢 学部 5 年 速見 紗和子 学部 5 年 北畑 圭亮 学部 5 年
T1	○	大学院文学研究科 児玉 聡 教授 荻野 琴 特定研究員 Seungmin NAM 特定研究員 立場 貴文 研究員 鈴木 英仁 研究員
T2	○	大学院医学研究科 小泉 志保 特定助教 古結 敦士 講師 医学部附属病院 森 拓也 特定助教 多摩大学 情報社会学研究所 小松 正 客員教授 大阪大学 感染症総合教育研究拠点(CiDER)/ELSI センター 井出 和希 特任准教授
T3	○	人と社会の未来研究院 上田 祥行 准教授 情報学研究科 井上 昂治 助教 下西 慶 助教 人と社会の未来研究院 澤田 玲子 特定研究員 飯塚 喜久乃 オフィスアシスタント 藤井 椿 オフィスアシスタント
T4	○	医学部附属病院 西村 勉 特定准教授 森 拓也 特定助教
T5	○	大学院エネルギー科学研究科 松山 顕之 准教授 荒屋敷 大和 修士課程 1 年 丹治 史哉 修士課程 1 年

ブース 番号	代表者 ○	所属	
		氏名	職名又は学年等
		二村 草輔	修士課程 1 年
T6	○	大学院理学研究科 榎戸 輝揚 准教授 辻 直希 特定研究員 成田 拓仁 博士課程 3 年 鶴見 美和 博士課程 2 年 小俣 雄矢 修士課程 2 年 中山 和哉 修士課程 2 年 大谷 水都 修士課程 1 年 伊藤 駿治 修士課程 1 年 坂本 洸 修士課程 1 年 理化学研究所 井原 雅行 チームディレクター	
T7	○	大学院工学研究科 横川 隆司 教授 藤本 和也 准教授 松本 倫実 助教 馬 成 特定助教 北田 敦也 博士課程 2 年 許 偉倫 博士課程 2 年 孫 一心 博士課程 2 年 西村 太希 博士課程 1 年 楊 美萱 博士課程 1 年 小石 翔太 博士課程 1 年 洲河 青 修士課程 2 年 岡本 大地 修士課程 2 年 久保 了真 修士課程 1 年 宮田 竣丞 修士課程 1 年 田中 浩紀 修士課程 1 年 Lucas Breuil 研究生 Pradnya Pise 研究生	
T8	○	大学院人間・環境学研究科 傅 馨怡 博士課程 余 杰 博士課程 4 年 夏 濱 博士課程 1 年	
T9	○	大学院エネルギー科学研究科 藪塚 武史 講師 加藤 拓実 修士課程 2 年 諸井 由嵩 修士課程 1 年 吉永 くるみ 修士課程 1 年	
T10	○	大学院理学研究科 野口 高明 教授 総合博物館 竹之内 惇志 助教 大学院理学研究科 大野 遼 助教 北村 悠樹 修士課程 2 年 保住 悟 修士課程 1 年	
T11	○	大学院理学研究科 田中 貴浩 教授 大宮 英俊 特定助教	
T12		大学院理学研究科	

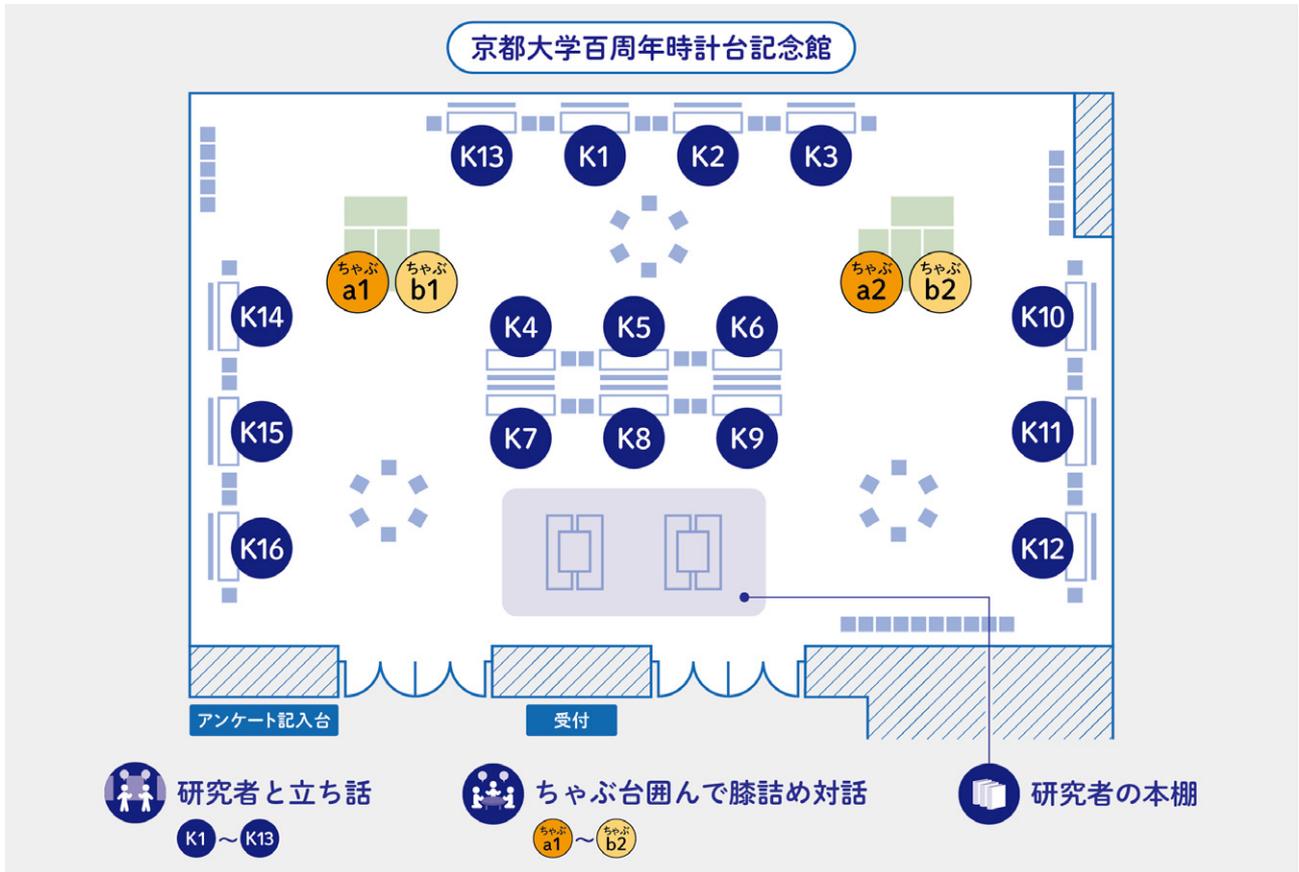
ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名 職名又は学年等
	○	笠井 優太郎 博士課程 1年 中家 剛 教授 大谷 尚輝 博士課程 1年 溝添 泰隆 修士課程 2年 林 洸樹 修士課程 2年 青柳 昂生 修士課程 1年 印藤 孝太郎 修士課程 1年 田中 智也 修士課程 1年 中村 公亮 修士課程 1年 長谷川 皓一 修士課程 1年 藤本 直樹 修士課程 1年
G1	○	化学研究所 長谷川 健 教授 荒木 泰介 博士課程 1年 大貫 友椰 修士課程 2年
G2	○	大学院農学研究科 加藤 優太 研究員 上妻 馨梨 助教 播本 慎太郎 修士課程 2年 田口 智也 修士課程 2年 吉村 恵慈 修士課程 1年 三浦 健太 修士課程 1年 農学部 北村 汐里 学部 4年
G3	○	大学院工学研究科 廣谷 潤 准教授 ほか、大学院工学研究科・工学部から学生 6名、教育学部から学生 3名
G4	○	ヒト行動進化研究センター 富谷 進 特定助教 大学院理学研究科 豊田 直人 博士課程 八神 未千弘 修士課程
G5	○	大学院農学研究科 村上一馬 准教授 Thi Hong Van Nguyen 博士研究員
G6	○	総合研究推進本部 高橋 良輔 特定教授 医学部附属病院 錦織 隆成 特定助教 田口 智之 特定助教 安田 謙 特定助教 月田 和人 特定助教 平藤 哲也 特定助教 大学院医学研究科 菊谷 明広 大学院 4年 三宅 智彬 大学院 4年 中村 大和 大学院 3年 櫻井 靖久 大学院 3年
G7	○	大学院医学研究科 六田 泰央 博士課程 庄司 りん 修士課程 医学部附属病院

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		佐々木 彩恵子 医員 上月 遥 助教 磯部 昌憲 助教 栗添 恵理 特定職員
G8	○	ヒト行動進化研究センター 中村 克樹 教授 足立 幾磨 准教授 山下 絵理子 会計掛長 松野 友紀 研究助成掛長 白眉センター(京都大学ヒト行動進化研究センター) 壹岐 朔巳 特定助教
G9	○	高等研究院 金 水縁 特定講師 谷口 雄一 教授 Latiefa Kamarulzaman 特定研究員 農学部 土田 美咲 学部 4 年 窪野 明日磨 学部 4 年
G10	○	医生物学研究所 北畠 真 助教 農学部 中村 陽斗 学部 2 年 新田 紗也 学部 1 年 薬学部 西坂 勇星 学部 1 年
ちゃぶ a1	○	総合生存学館 宇佐美 文理 特定教授
ちゃぶ a2	○	大学院生命科学研究所 西川 星也 特定講師
ちゃぶ a3	○	白眉センター(京都大学ヒト行動進化研究センター) 壹岐 朔巳 特定助教
ちゃぶ b1	○	大学院文学研究科 Justine Le Floc' h 特定准教授
ちゃぶ b2	○	大学院文学研究科 石原 諒太 博士課程 児玉 聡 教授 須田 彩佳 修士課程 1 年 植木 隆弘 修士課程 1 年 木村 航平 修士課程 1 年 宋 龍平 修士課程 1 年

第二部 京都大学アカデミックデイ × ホームカミングデイ 2025

1. 概要

1-1. 会場配置図



2. プログラム

2-1. 研究者と立ち話

■ 2-1-1. 概要

日時 11月1日(土曜日)11時～17時

会場 京都大学百周年時計台記念館 2階国際交流ホールⅡ・Ⅲ

大学研究者による研究紹介のコーナー。今年度は合計 16 のポスター展示がずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました(1件はポスター展示のみ)。中には、ポスターの前に模型や実験器具、モニターや資料等を並べ、それらを使って研究を紹介する研究者の姿も多く見られました。来場者からのアンケートには「研究発表だけでなく、対話の場になっていた」といった、このイベントの本質を表す感想が寄せられました。そのほか、「御池も行きましたがこちらの方が落ち着いたイメージでした」など、学内での開催ならではの感想も寄せられました。



■ 2-1-2. 「研究者と立ち話」出展一覧

出展代表者氏名(所属)	出展タイトル
篠原隆司(大学院医学研究科)	マウスを用いた生殖補助医療による経世代異常の研究
五十嵐太一(大学院生命科学研究所)	進め！止まれ！また進め！DNA複製のなぞ
永野誠治(医生物学研究所)	遺伝子改変 iPS/ES 細胞で拓く次世代 T 細胞療法
赤岡佑治(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)	ゲームの力で持続的な狩猟を実現！
中神由香子(学生総合支援機構)	意識が変わる！？脱出ゲーム式研修の効果検証
生野真嗣(大学院医学研究科)	未来の社会を担う医療人材の育て方
Huang Weian(大学院人間・環境学研究科)	Boron Neutron Capture Therapy with Size-controlled Nanoparticles
下林俊典(iPS 細胞研究所)	細胞の中身をしきりなしに分ける方法とは？ー相分離生物学から迫る細胞機能の解明ー
本間貴之(高等研究院)	京都大学の共用機器で拓く研究力
藤原耕二(高等研究院)	双曲幾何
堺稚菜(福井謙一記念研究センター)	フラスコを使わない環境に優しい化学反応
高井茂臣(大学院エネルギー科学研究科)	中性子イメージングによるリチウム固体電解質の科学
坂本雅行(大学院生命科学研究所)	「眠気」ってなんだろう？
大森崇(大学院医学研究科)	臨床統計学ー医療に貢献する科学ー
海老原志穂(白眉センター/大学院文学研究科)	チベットのもふもふ、「ヤク」
金子守恵(アフリカ地域研究資料センター/アジア・アフリカ地域研究研究科)	エチオピアの高齢職人と技能習熟ー多元的な「生涯観」の構築に向けてー

2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

2-2-1. 概要

日時 11月1日(土曜日)11時30分～13時30分／14時30分～16時30分

会場 京都大学百周年時計台記念館 2階国際交流ホールⅡ・Ⅲ

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には4帖の畳から成る2つのちゃぶ台ブースを設置。11時30分から13時30分の間に2つ、14時30分から16時30分の間に2つ、計4つの研究者／グループが対話に臨みました。各研究者／グループは「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。座ってゆっくり対話ができる形式では、立ち話とはまた違った雰囲気醸成され、来場者は研究者の話にじっくりと耳を傾けながら様々な質問を投げかけ、研究者と対話しました。



2-2-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名(所属)	出展タイトル
11月1日(土) 11:30～13:30	鳥嶋雅子(大学院医学研究科)	あなたの正しい「知識」があなたの「生き方」をつくる: ゲノムの扉を一緒に開けてみませんか?
	荒木慶一(大学院工学研究科)	形状記憶合金で耐震!?
11月1日(土) 14:30～16:30	進行(経営管理大学院)	「誰ひとり取り残さない」を、建前で終わらせないためには?
	齋藤敬(大学院総合生存学館)	化学の力で本当に「環境に良い」社会を形成する

2-3. 研究者の本棚

2-3-1. 概要

日時 11月1日(土曜日) 10時~17時

会場 京都大学百周年時計台記念館 2階国際交流ホールⅡ・Ⅲ、1階ショップ

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」を企画。会場では、多くの来場者が本を介して研究者と対話しました。本企画は、京都大学附属図書館協力のもと、会場内にて展示されました。また、京都大学生活協同組合協力のもと、1階のショップにて展示されている書籍の一部の販売も行われました。書籍のラインナップとして、本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。



■ 2-3-2. 研究者おすすめの書籍を紹介・展示

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は学術書だけでなく、小説や漫画など幅広いジャンルがずらりと並び、「説明と実物が手に取れて良かった」「研究者の方々がおすすめする本をたくさん知れた」といった好評の声をいただきました。



■ 2-3-3. 研究者おすすめの書籍を販売

今年度は京都大学生活協同組合の方々にご協力いただき、時計台1階のショップにて出展者がおすすめした書籍の販売もしました。電子版しかない書籍や品切れとなっている書籍は除きつつも豊富なラインナップに、多くの方が興味深そうに手にとって購入されていました。



3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場された方へアンケートにご協力いただきました。ゼスト御池での開催と同様、1) 来場された方の属性(イベントを知ったきっかけや年齢職業など)、2) 滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどを回答いただき、1) 2) どちらにも回答いただくことでおかえりの際に記念品と交換できるようにしました。なお、時計台では受付を一箇所に集約でき、アンケート記入場所も複数箇所に用意できたため、ウェブ上での回答は収集せず、紙のアンケートのみで受け付けました。



● 記念品と交換アンケート(A5 サイズ:210×148mm)



京都大学アカデミックデイ2025
記念品と交換アンケート

*品切れの場合はご容赦ください。

本日はご来場ありがとうございました。
今後の企画のためにご協力をお願いします。
ご記入の上、受付までお持ちいただくと、
京都大学アカデミックデイオリジナルグッズを差し上げます。

WEB版でも回答いただけます。
受付にて終了画面をご提示ください。



Q1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催をどこで知りましたか？(複数回答可)

ポスター・チラシを見て ① 京都大学 ② その他大学(大学名:)
③ 高校(高校名:) ④ 地下鉄東西線 ⑤ 同窓会
⑥ ホームカミングデイ ⑦ その他(見た場所)

ホームページを見て ⑧ 京都大学 ⑨ 京都大学総合研究推進本部
⑩ K.U.RESEARCH ⑪ サイエンス ポータル ⑫ ホームカミングデイ
⑬ 京都市など公共機関 ⑭ その他()

その他を見て ⑮ 京都市役所前デジタルサイネージ ⑯ X(旧Twitter) ⑰ Facebook
⑱ メール案内 ⑲ 同窓会メールKUON

その他 ⑳ 知人からの紹介 ㉑ 9/27のゼスト御池でのアカデミックデイに参加して
㉒ 会場に来て初めて知った ㉓ その他()

Q2. 京都のその他のイベントに参加されたことはありますか？(複数回答可)

① 春秋講義 ② 京大ウィークス ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ
⑤ 京都大学アカデミックデイ(過去 回参加) ⑥ その他()

Q3. 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない

Q4. 科学・技術に関心がありますか？

① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない
④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q5. 普段、研究者が発表する研究成果を信頼していますか？

① とても信頼している ② ある程度信頼している ③ どちらとも言えない
④ やや信頼していない ⑤ 全く信頼していない

Q6. 研究者はいつも自分の研究のよい面も悪い面も率直に伝えていると思いますか？

① とてもそう思う ② ややそう思う ③ どちらとも言えない
④ あまりそう思わない ⑤ 全くそう思わない

Q7. アカデミックデイを通じて、研究者に対する信頼度はどう変わりましたか？

① 大きく上がった ② やや上がった ③ 変わらない
④ やや下がった ⑤ 大きく下がった

Q8. ご自身について教えてください。(※年齢は年代をご記入ください)

① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校生 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生
⑦ 京大教員・研究者(年代) ⑧ 京大職員(年代) ⑨ その他(職業 年代)

Q9. お住まいはどちらですか。

① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他(都・道・府・県) ④ 海外(国名:)

**Q10. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか？
最も近いものを1つだけお答えください。**

① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間
④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q11. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

Q12. 本日の「ちゃぶ台回りで懇話め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするのなら、どんな名前の賞にしますか？

例:「ワクワクしたで賞」、「ぼくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからも研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号(例:G1, 5*2a1, など, 出展番号はパンフレットを参照) 賞の名前

	賞
	賞
	賞

Q13. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点 _____ 悪かった点 _____



ご協力、ありがとうございました。 Dialog with the Public

● 記念品(マスキングテープ)



■ 3-1-2. 学内開催と学外開催における参加者の違い

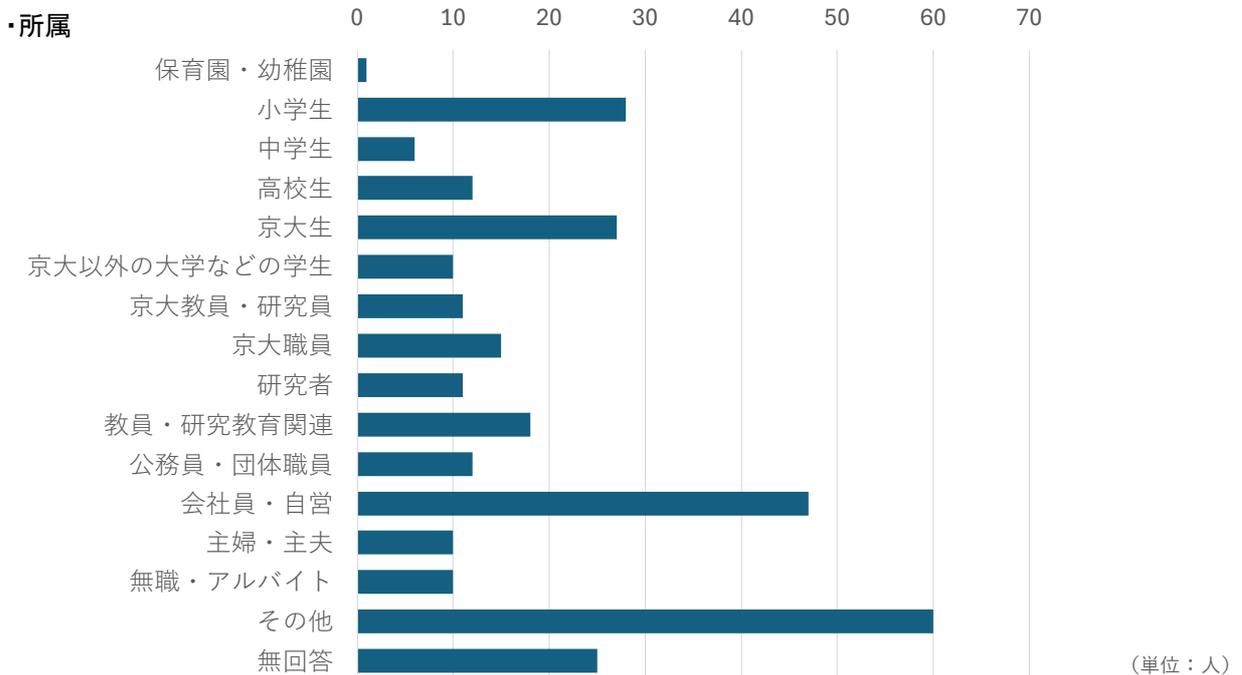
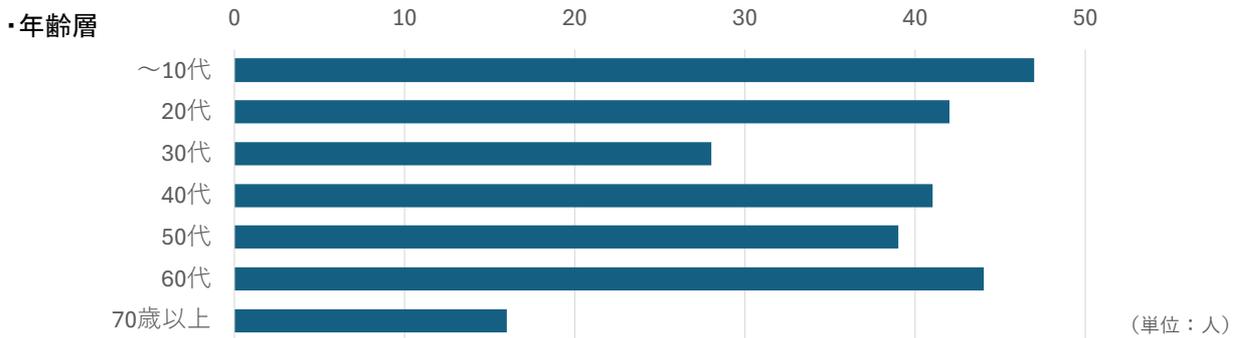
2回目となったホームカミングデイとの共催。時計台での単独開催や、ゼスト御池での開催と比べて、参加者にどのような違いがあり、アカデミックデイに対する受け止め方がどう違うかをアンケートから読み取ることを試みました。

● 参加者数／アンケート回答者数

・来場者 478 人 / 回答者数 303 人(回収率 63.4%)

ゼスト御池とは異なり出入り口が一箇所に集約されているので、アンケート回答を呼び掛けやすい状況にあります。今年度は昨年度より10%近く回収率が上がりました。会場内外にアンケートを書くスペースを複数設けて、アンケートへの協力を呼びかけたことが功を奏したようです。

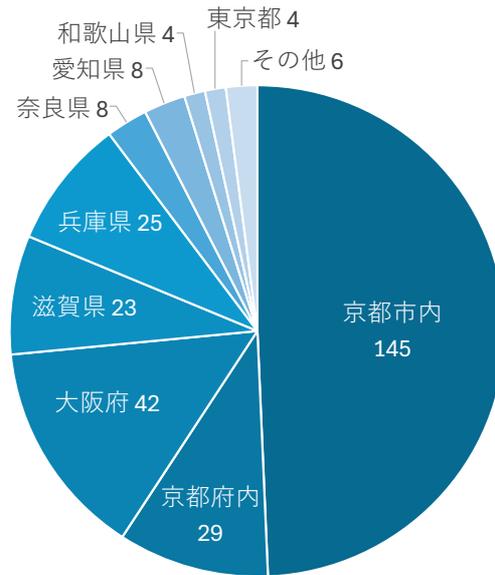
● 参加した人はどのような方だったのか？



ゼスト御池と比べると、年代ごとの参加者層の差が少なくなっています。ゼスト御池と比べると60代70代の割合が高く、ホームカミングデイの参加者層平均年齢が高めであることが伺えます。

・住まい

悪天候であった昨年度は京都市内からの参加者が4割程度でしたが、今回は京都市内からの参加者が約半数となりました。悪天候は、遠距離の方々だけでなく近隣の方々の参加をも妨げていたようです。

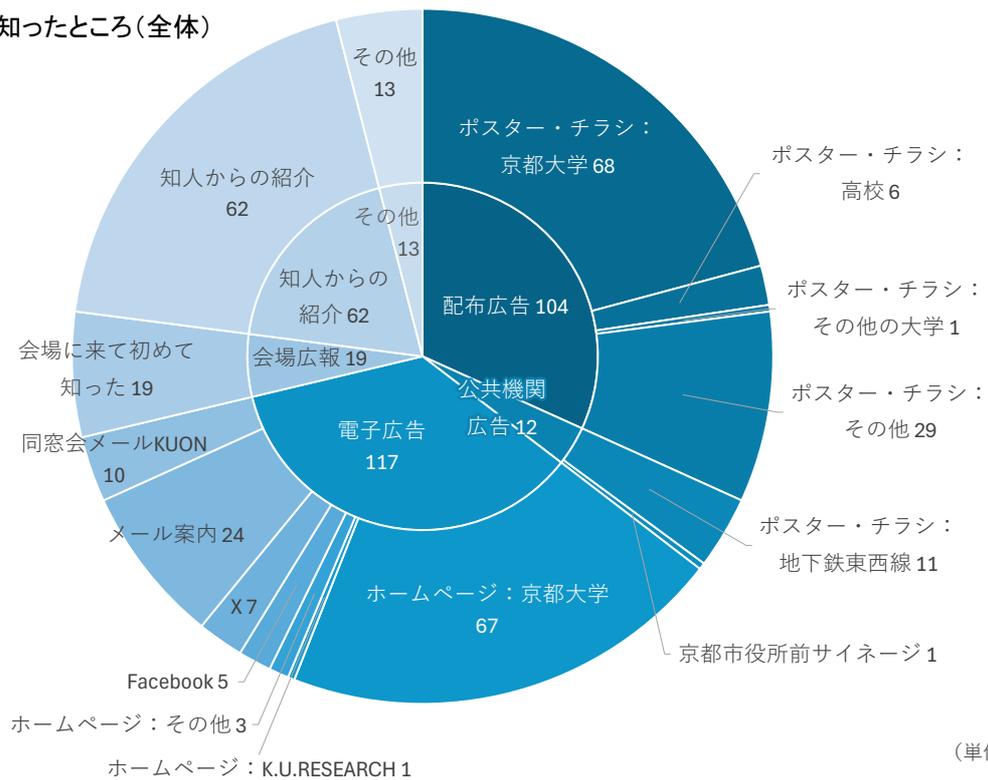


(単位：人)

※ その他：熊本県 3、高知県 1、沖縄県 1、北海道 1

● 参加者 / 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

・開催を初めて知ったところ(全体)

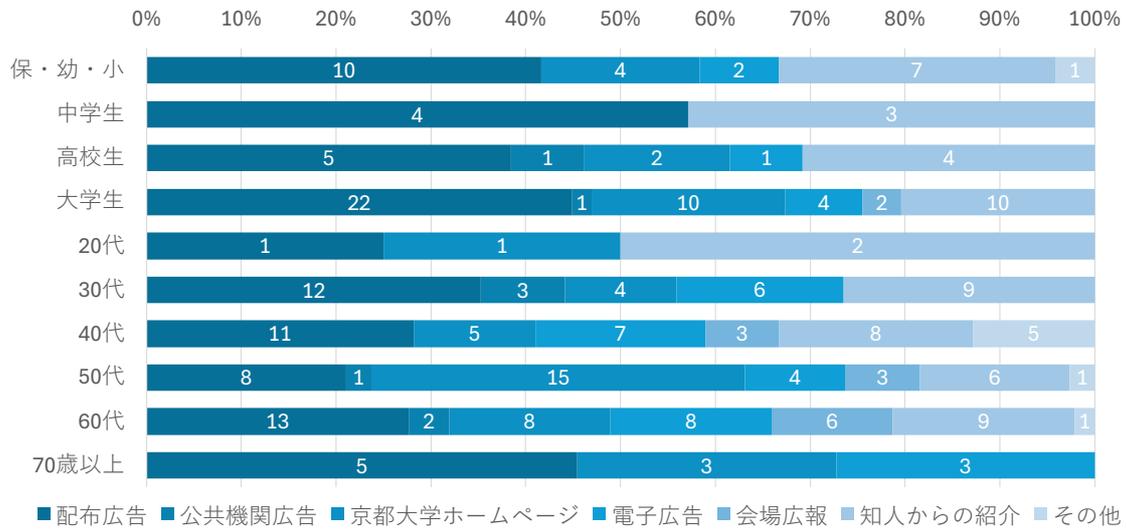


(単位：人)

今年度も京都大学ホームページで知ったと言う人が多く、ホームカミングデイのサイトを見て知った方であると考えられます。ポスターチラシについても、昨年度同様京都大学でポスターチラシを見て、という人が多くなっています。

年代別のデータでは、年代ごとのはっきりした傾向はあまり見られません。

・開催を初めて知ったところ(年代別 ※いずれも複数回答を含む)



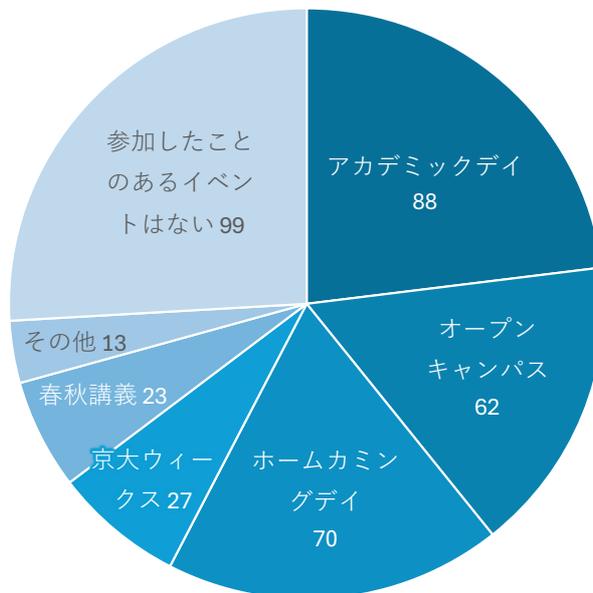
(単位：人 / 年齢不明の人は除く、保・幼・小：保育園・幼稚園・小学校の合計、以下同じ)

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

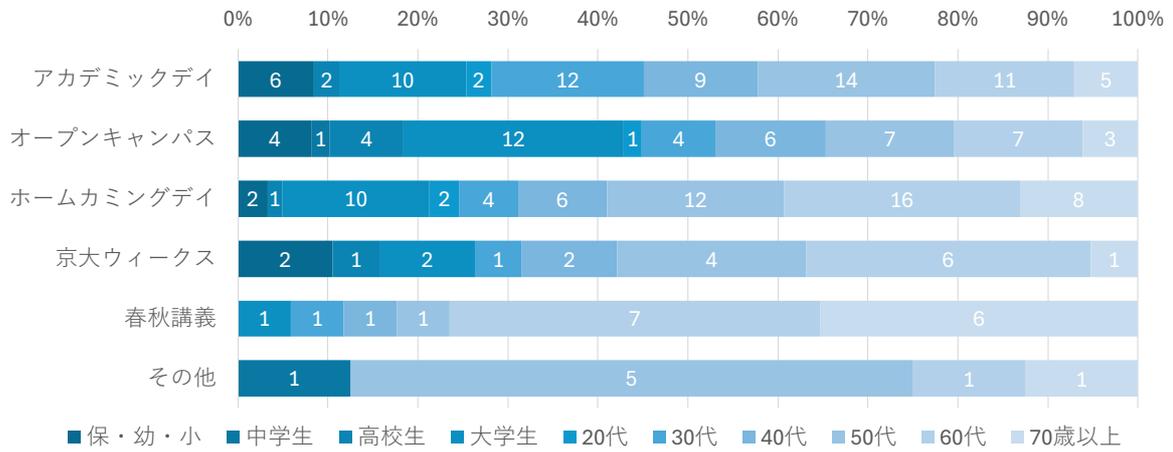
昨年度、京大時計台に参加者された方のほとんどは、何かしら本学のイベントに参加したことのある方でした。悪天候であったため、何度も本学のイベントに参加するような関心の高い方に参加者が絞られていたのかもしれませんが。今年の参加者は、ゼスト御池よりは本学のイベントに参加経験のある方が多いものの、1/4 以上の方は今回が初めての本学のイベントへの参加でした。

年代別に見ると、オープンキャンパスの参加経験者は 30 代以下が多く、春秋講義やホームカミングデイの参加経験者は 40 代以上が多くなっています。

・本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？(複数回答可)



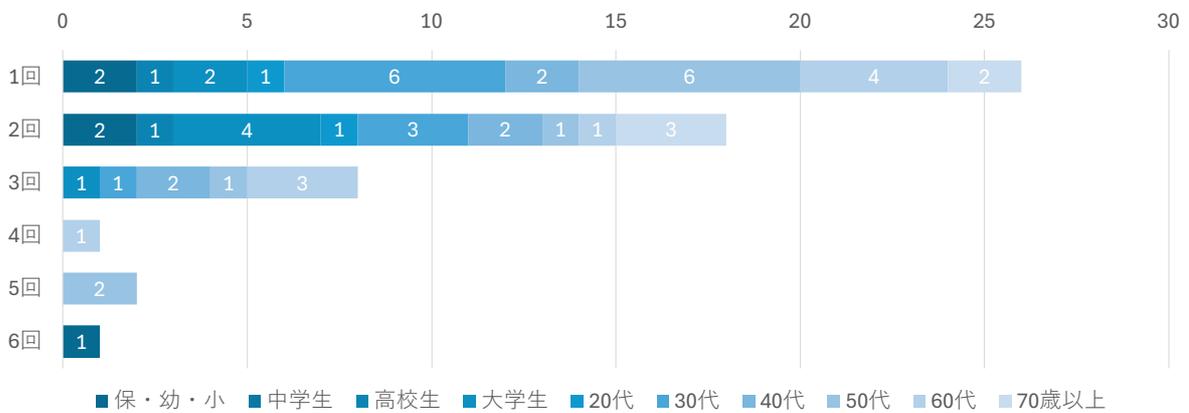
(単位：件)



(単位：人 / 年齢不明の人は除く)

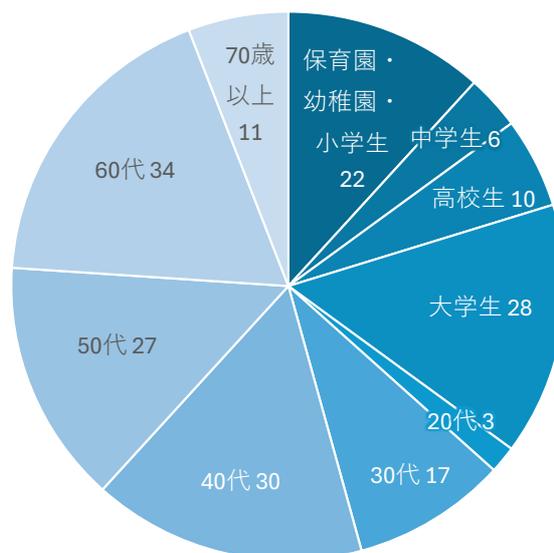
・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？

アンケートに回答された方のうち、複数回アカデミックデイに参加したことのある人の割合がゼスト御池よりも高くなっています。リピーターの割合はゼスト御池より京大時計台の参加者の方が多いようです。



(単位：人 / 年齢不明の人、今回が初参加でカウントを1とした人は除く)

・京都大学アカデミックデイに初めて参加した人の内訳

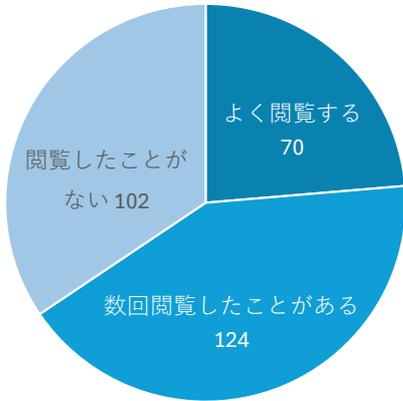


(単位：人)

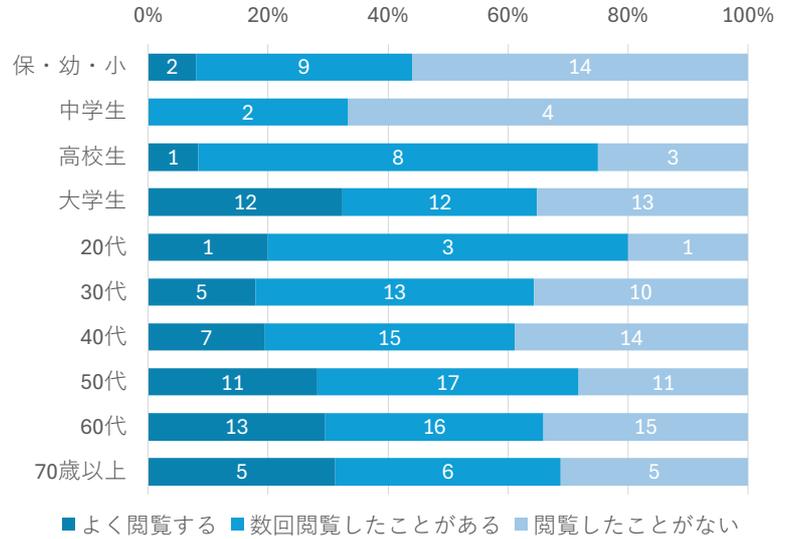
● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

ホームページなどを閲覧したことがない人の割合が、ゼスト御池の参加者より若干低くなっています。本学出身者が多数参加するホームカミングデイとの共催であり、本学出身者や本学の学生がアカデミックデイに多数参加した影響かもしれません。

・全体



・年代別



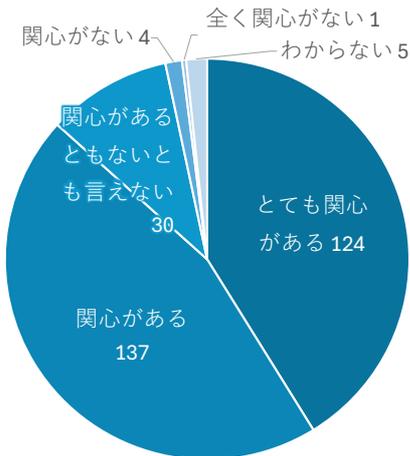
■ よく閲覧する ■ 数回閲覧したことがある ■ 閲覧したことがない

(単位：人)

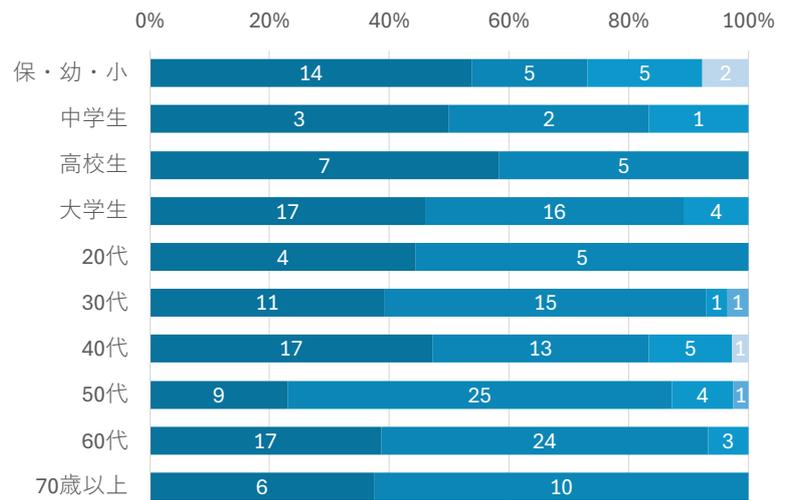
● 科学・技術に関心がありますか？

科学・技術への関心に対する回答の傾向は、ゼスト御池の参加者とほぼ同じです。年代別に見ると、30代から60代の参加者層において、昨年度はゼスト御池の参加者よりも京大時計台参加者の方が「とても関心がある」と答えた人の割合が少なかったのですが、今年度は開催地による傾向の違いは見られませんでした。

・全体



・年代別



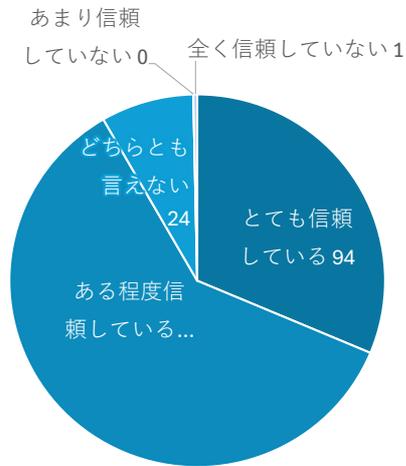
■ とても関心がある ■ 関心がある
 ■ 関心があるともないとも言えない ■ 関心がない
 ■ 全く関心がない ■ わからない

(単位：人)

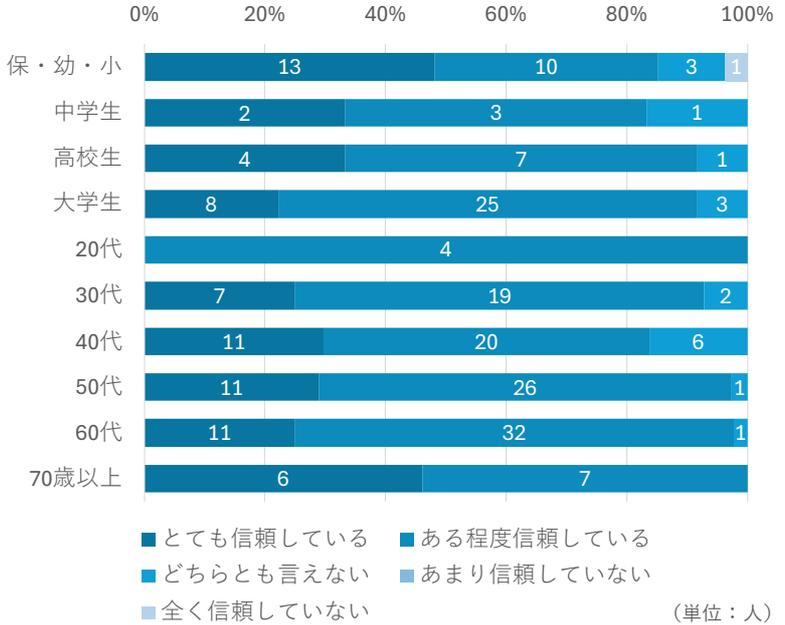
● 普段、研究者が発表する研究成果を信頼していますか？

これ以降3つの質問は今年度から新たに加えたものです。ゼスト御池の参加者と同じように、あまり信頼していないと答えた人はなく、全く信頼していないと答えた人は1名という結果となりました。

・全体



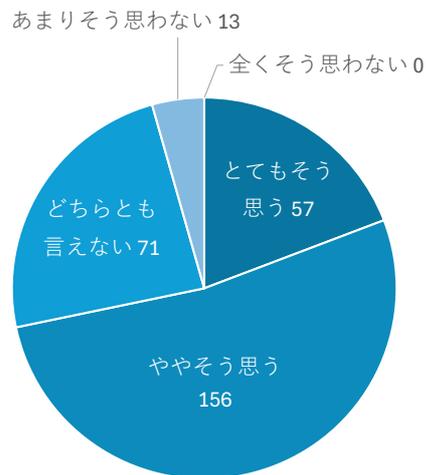
・年代別



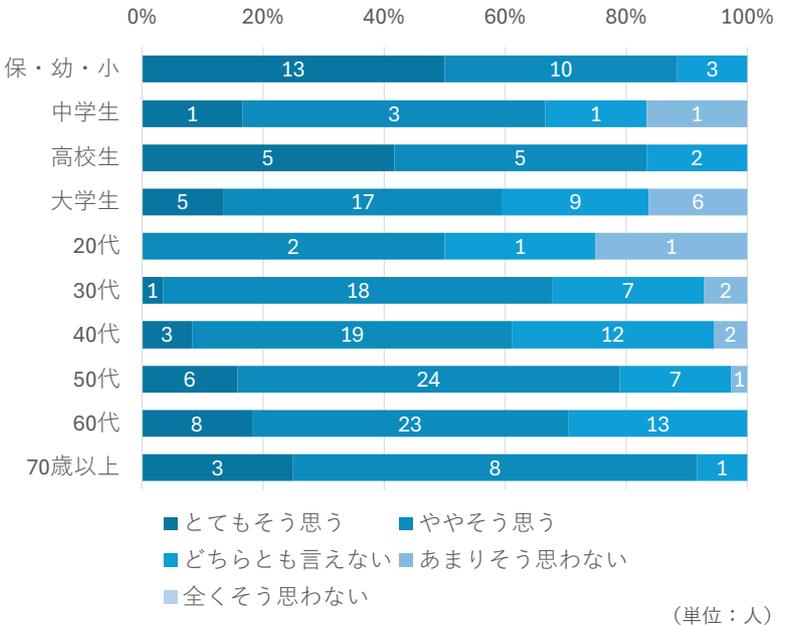
● 研究者はいつも自分の研究のよい面も悪い面も率直に伝えていると思いますか？

ゼスト御池の参加者とほぼ同じ傾向ですが、「どちらともいえない」「あまりそう思わない」という回答がゼスト御池よりも京大時計台参加者の方が若干増えています。

・全体



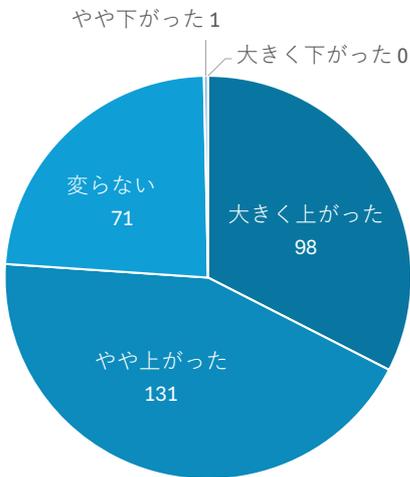
・年代別



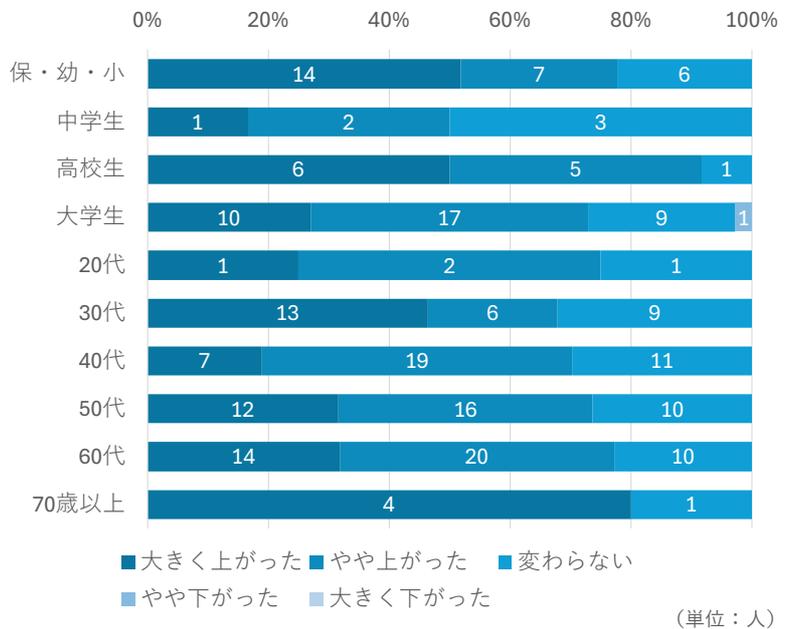
● アカデミックデイを通じて、研究者に対する信頼度はどう変わりましたか？

これもゼスト御池の参加者とほぼ同じ傾向です。今回新たに加えた3問とも、二つの会場の参加者の回答の比率がほぼ同じでした。これが偶然なのか、何か意味があるのか、他の母集団で同じ質問をするとどのような結果になるのか、興味深い現象です。いずれにせよ、研究者と触れ合うことで、市民の研究者への共感や信頼を増すことはアカデミックデイの目的の一つであり、その目的を達成していることを示すデータであると考えます。

・全体

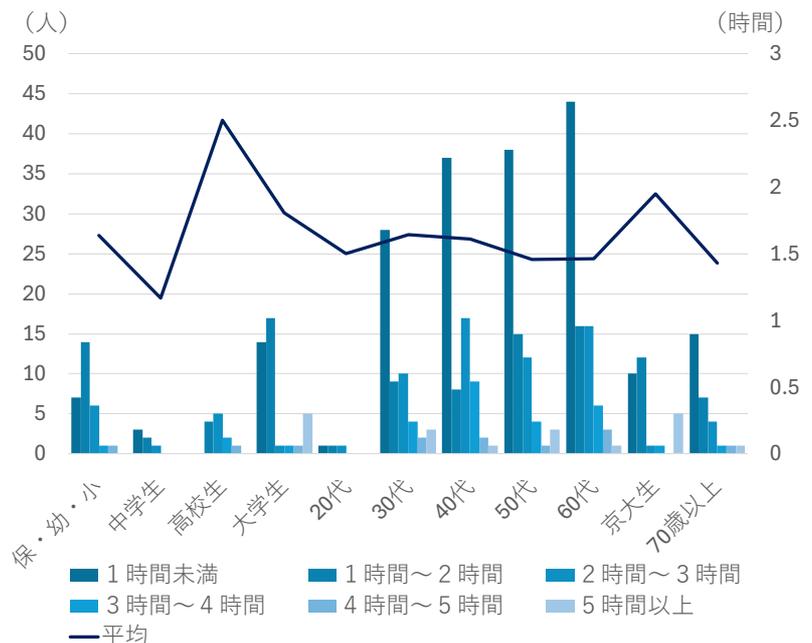
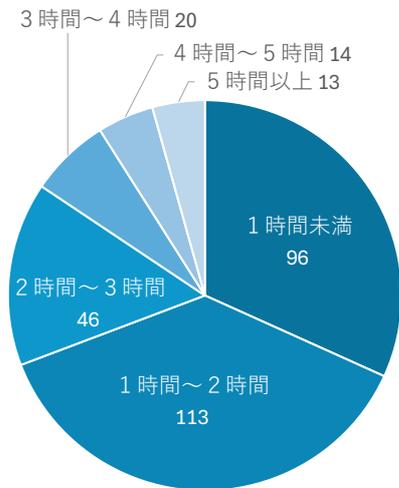


・年代別

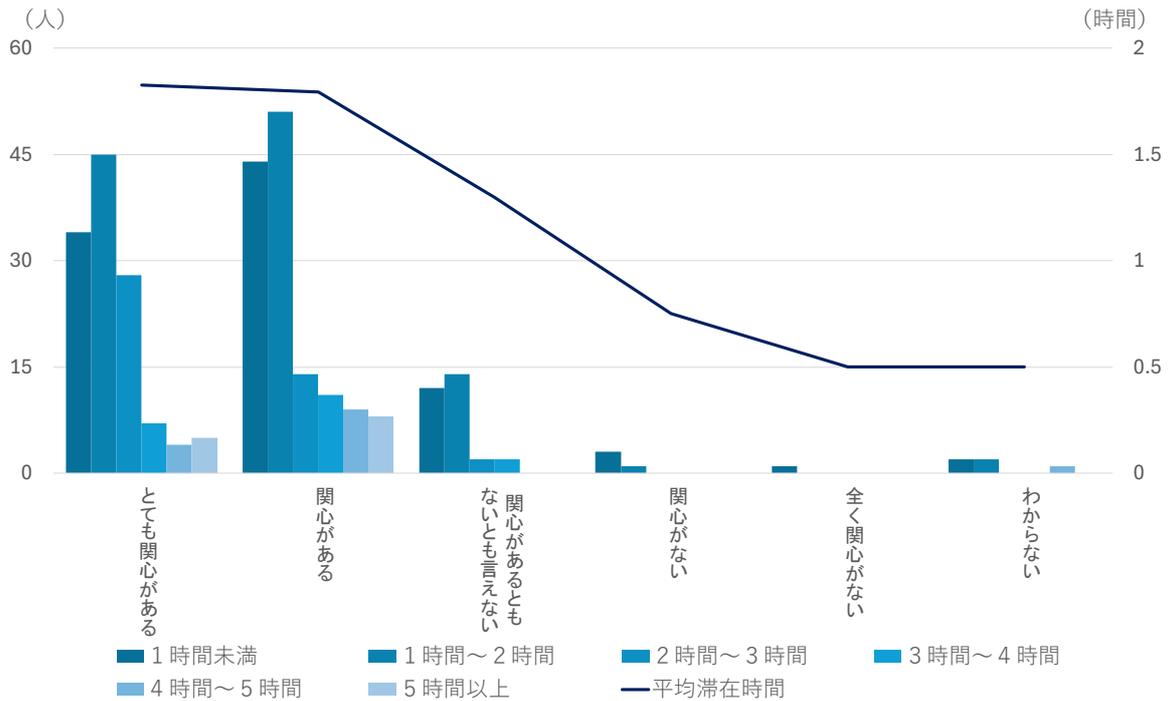


● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？

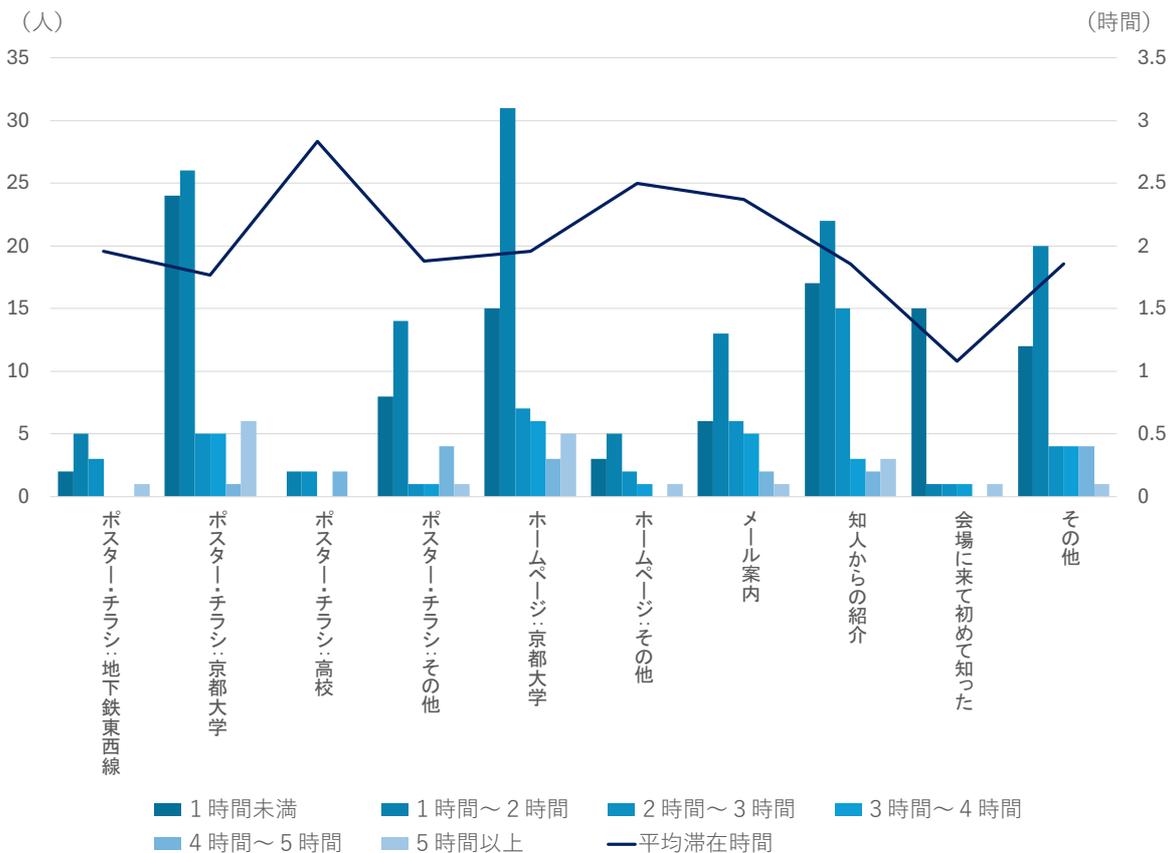
全体の平均滞在時間は 1.8 時間、1.7 時間だった昨年度とほぼ同じです。ゼスト御池と比べると短く、これは出展ブース数がゼスト御池よりも少ないことによるものと思われます。年齢別の滞在時間では、該当する人数は少ないですが高校生の滞在時間が平均よりも長くなっています。科学への関心度と滞在時間の関係には、ゼスト御池と同様関心度が高いほど滞在時間が長い傾向がありました。また、「どこで知ったか」と滞在時間数の関係を見ると、こちらもゼスト御池と同じく「会場に来てから初めて知った」と答えた人の滞在時間数が短くなっています。



・滞在時間と科学・技術への関心度合いの関係

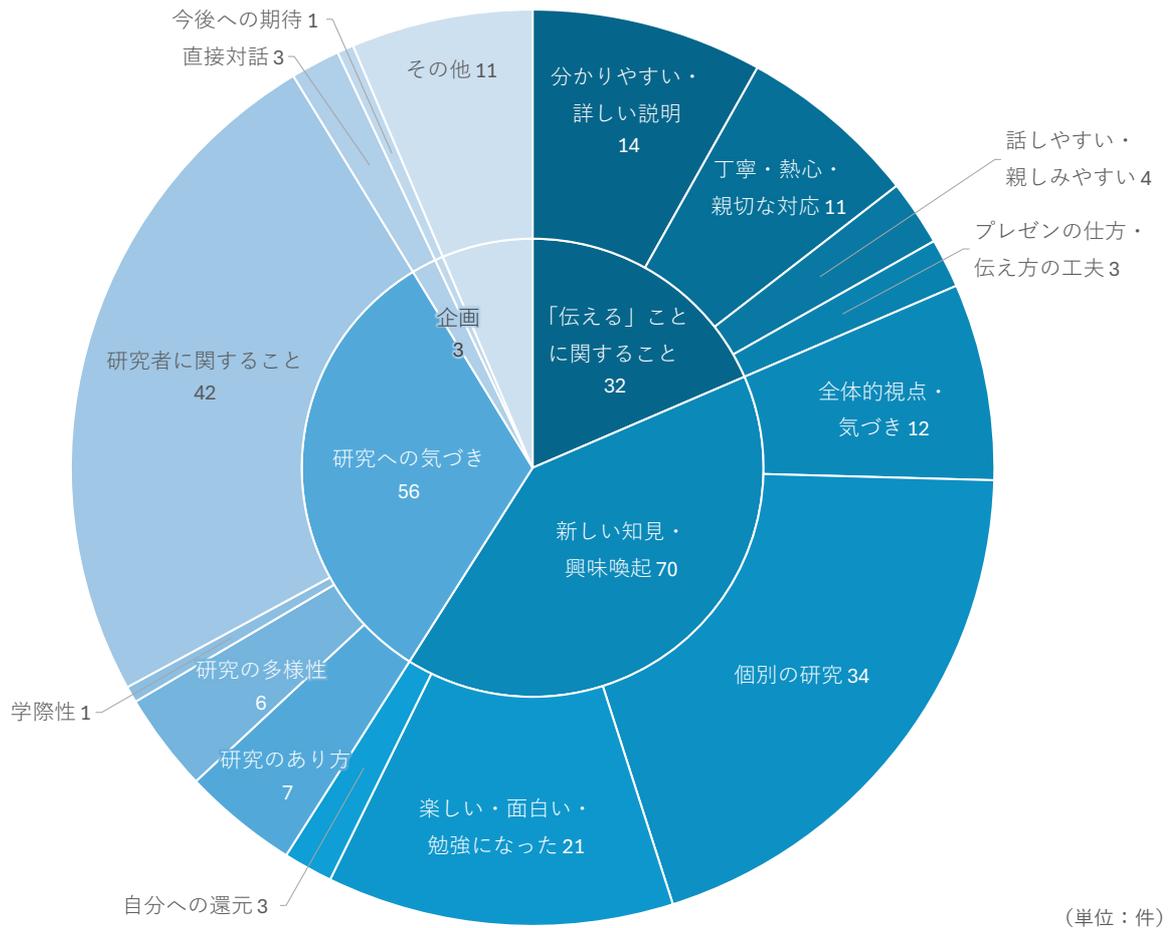


・滞在時間と開催を知ったところとの関係



※平均滞在時間は、「1時間未満」を30分、「1時間～2時間」を1.5時間、「5時間以上」を5.5時間などとして算出。全体の平均滞在時間は、1.8時間。無回答を除く。

● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？



・主な意見(抜粋)

〈「伝える」ことに関すること(32 件)〉

わかりやすい・詳しい説明(14 件)

- 知りたいことをきちんと説明していただきました。10 知りたいことに対して 10 以上答えていただくこともありました。大変有難く思いました。
- 気づいたことはみんなやさしくしてくれてヤクのことや、いりょうのことをたくさんしれて、メモをとることができたこと。(小学生)
- 話をすることでよくわかり実感がわいた。(50 代・主婦/主夫)
- とても分かりやすく説明して下さり 知らなかった研究を知ることができました。(70 歳以上)
- 前提知識がないので、説明がムズかしかった。(30 代・会社員)

丁寧・熱心・親切な対応(11 件)

- ていねいに話していただきました。いろいろな話題にふれることができました。(60 代)
- 質問するとたくさん答えて下さる。(高校生)

話しやすい・親しみやすい(4 件)

- 研究者皆さんご説明が上手く気さくで研究者のイメージが少し変わった。(京大生)

プレゼンの仕方・伝え方の工夫(3 件)

- ポスターが非常に見やすかった。(高校生)
- こんなやりかたや、工夫が学校とちがって、さんこうにしようと思いました。(小学生)

〈新しい知見・興味喚起(70件)〉

全体的視点・気づき(12件)

- 研究を通して自分の固定概念が浅はかだったと気づいた。世界には自分のあたり前だと思っていたことが間違いであることもあると分かった。(中学生)
- 「生活の役に立つ」ような技術は気の遠くなるような地道な実験や企業とのめぐり合わせといった運を経て実用化に至っている(ものもある)ということ。(30代・会社員)
- 社会とのつながりを常に意識する事がどの様な分野でも大切だと感じました。(40代・会社員)
- まだまだ未知の世界がある。(60代)
- 研究者の方でも本当にこれが良い!!ってことはないしあまたの可能性があってそのうちの1つをやってるんだな。(高校生)

楽しい・勉強になった・面白い(21件)

- 新しいことがみつかるワクワク感や学問・研究の発展への期待感が残った。(40代・教員/研究教育関連)
- 知らないことがたくさんあって関心をもてた。(30代・会社員)
- どれも専門的で興味深かったです。高校で習った事の深い所まで研究しておもしろかった。(高校生)
- 毎回発見があり、知識が広がった気がするのでこういう機会はうれしい。(50代・教員/研究教育関連)
- 最先端の研究はまだまだ知らないことがいっぱいあるなあと思いました。遅れないようにしたい。(京大生)
- 自分が知らないこと、知っていることもたくさんあり、とてもきょう味がわいてきました。最新の医療などのことも てんじされていて楽しかったです。(小学生)

自分への還元(3件)

- 皆さん頑張っていました。私もがんばります。(60代・会社員)

〈研究一般への気づき(56件)〉

研究のあり方(7件)

- 研究費を稼ぐのは大変そうだ。(60代・自営業)
- 若い研究者がいろいろな分野の人や、企業などと協力して研究しているところ。(60代)
- 大きくニュースになるような物事が成し遂げられるには、技術が進むための基礎研究、そしてその研究ができるための機器の開発が大切だと思った。(40代)
- 研究が思っていたよりも基礎的なことについて考えを深めていたこと。(高校生)
- 研究するための前提となる研究も大切であること。(京大以外の大学などの学生)

研究の多様性(6件)

- 様々な方がそれぞれオリジナリティのある面白いことをしているなど実感することができた。(中学生)
- こんな研究してもいいのか! ?と独想性にオドロイタ(良い意味で)(30代・会社員)
- 研究分野が非常に幅広くおどろきました。(30代)

研究の学際性(1件)

- 自身の専門とする領域以外の研究者と協同で研究活動を行うということは、今の社会に対して課題があると感じる事柄が共通しているということなのかなと思った。(30代・会社員)

研究者に関すること(42件)

[生き生き・楽しそう(6件)]

- 研究者のみなさんが、自身の研究について楽しそうに話されていたのが印象的でした。(京大以外の大学などの学生)

[真剣・夢中・熱意(13件)]

- みな様一生懸命に研究していらっしゃる様子が伝わってきました。(50代・主婦/主夫)

- 熱意をもって研究している。(70 歳以上・無職)
- 自信を持って、テーマに取り組んでいること。(50 代・会社員)

[考え方・思い・モチベーション(14 件)]

- 視点が面白い。自分の考えが硬いことを再認識した。
- とても前向き。(60 代)
- 自分なりに課題を見つけ頑張っているのがすばらしいと思いました。(中学生)
- どの研究者もより良い社会にするため研究してる。(小学生)

[キャリア(3 件)]

- 現役研究者の方の中にも様々なキャリアを持った方がいらっしやること。(京大生)

[その他の研究者の印象(6 件)]

- 同じ人なんだと感じた。「京大にいる研究者」に対する解像度が上がった。(京大生)
- 研究者は自分の専門以外のことをあまり知らないこと。(高校生)

<企画:直接対話(3 件)>

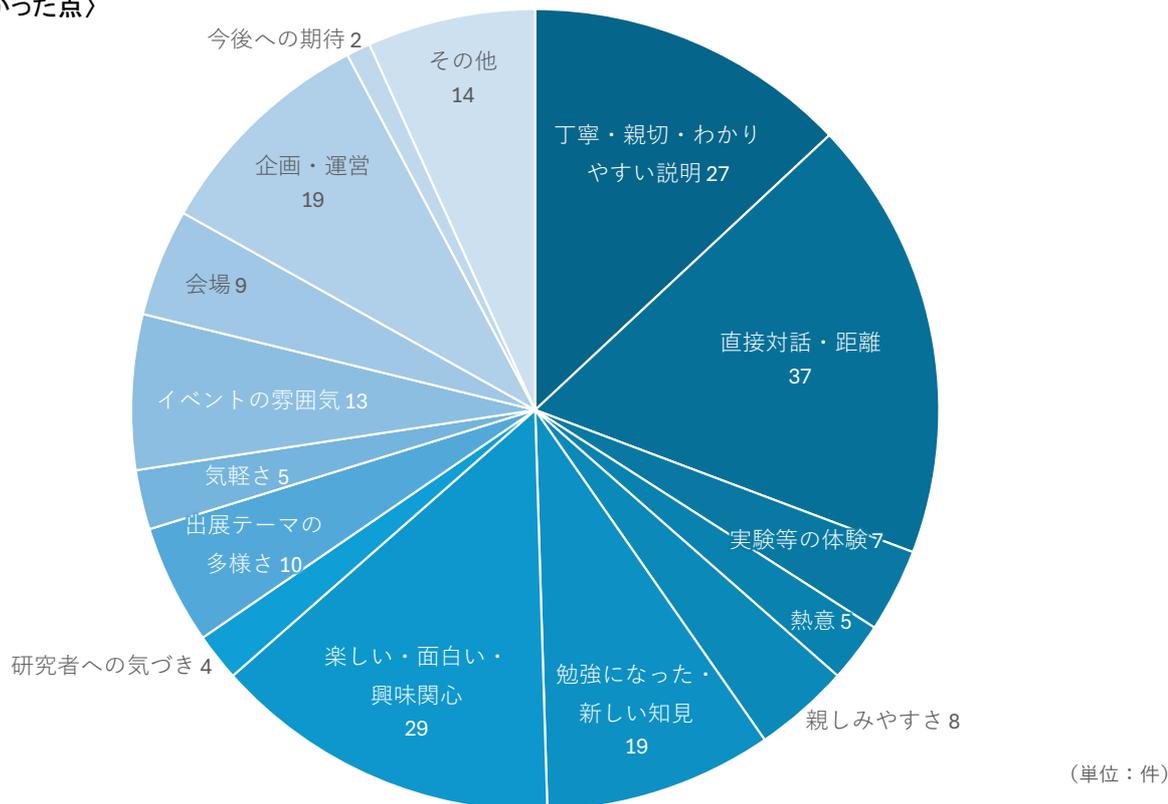
- 直接質問ができ楽しかったです。(30 代・会社員)

<今後への期待(1 件)>

- 医療の現場にすることが多いのですが細胞等の研究で予防ができるとわかり研究に期待したいと改めて思いました。

●「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉



・主な意見

〈丁寧・親切・わかりやすい(27件)〉

- ポスターがわかりやすかった。(小学生)
- 面白く説明して頂きました。また来年。(50代・会社員)
- みなさん真摯に説明していただき 素晴らしい研究をしていると感じました。(50代・教員/研究教育関連)
- 質問すればする程深く、またわかりやすく教えていただけるところ。(60代)
- ポスターが学会発表とは異なり、個性が光るデザイン・内容だったこと。(30代・教員/研究教育関連)

〈研究者との直接対話・距離(37件)〉

- 他の方の質問に対して研究者からの話をオープンにきけたこと。(60代)
- 通常は触れられないアカデミックの世界を感じる事が出来る。(40代・会社員)
- 身近に研究成果にふれられた事。(会社員)
- 研究者の方と直に話せた。(高校生)
- 距離が近く親身になってはなしてくれた。(京大生)
- 研究発表だけでなく、対話の場になっていたこと。(30代・教員/研究教育関連)

〈実験等の直接体験(7件)〉

- 体験型の発表もあって、より印象に残りました。(京大以外の大学などの学生)

〈熱意(5件)〉

- 研究者が熱く語ってくれる。(小学生)

〈親しみやすさ(8件)〉

- 研究者の方々、フランクにお話することができた点がとても良かったです。(京大生)
- いろんな人とコミュニケーションがとれるところ。(50代・会社員)

- とても身近に感じられた。(高校生)

〈勉強になった・新しい知見(19件)〉

- キャリアなどの参考になりました。(京大生)
- 研究室でどんなことをされているのかを知る良い機会になった。(京大以外の大学などの学生)
- 普段全く関心を持っていなかった/よく知らない分野について。研究当事者から解説いただくことで世界が広がっていったように感じる。子ども世代も沢山訪れていた。(30代・会社員)
- 大学内を知るきっかけになった。(40代・会社員)
- 京都大学が大体どんな所で何をやる所か大体分かる。いろんな研究者としゃべれてそれぞれ分野のいい所が知れる。(高校生)

〈楽しい・面白い・興味関心(29件)〉

- 皆さんとてもわかりやすく話されて興味がわきました。(40代・会社員)
- 特別な知識がなくても楽しめた。(高校生)
- ゼストとまた違う内容でよかった。
- 研究って楽しいということを教えていただきました。(40代)
- とにかくおもしろかったです。(20代)

〈研究者への気づき(4件)〉

- 説明もとてもわかりやすくてどの方の目がキラキラしてステキでした!!(40代・医療系)

〈出展テーマの多様さ(10件)〉

- いろいろなテーマがあり視点が広がる。(70歳以上)
- 思いもよらぬテーマを研究していると知れた。(30代・会社員)
- 発表内容が多岐に渡つておもしろかった。(60代・無職)

〈気軽さ(5件)〉

- 一般市民にも開かれていて気軽に科学に接することができるいい機会。来年も来たい。(60代・会社員)
- あまり関心ない分野でもフラッと話を聞ける。(50代・会社員)

〈イベントの雰囲気(13件)〉

- 活気があってよかった。(50代・公務員)
- 入りやすい雰囲気。(40代・会社員)
- 堅苦しさがなく、よい意味で気楽にまわれるところ。
- オープンで良いと思う。(20代)
- 発表者と来場者の会話が活発だった。(60代・無職)
- 御池も行きましたがこちらの方が落ち着いたイメージでした。(50代・会社員)

〈会場(9件)〉

- ポスター展示でスペースが十分あった。(京大生)
- 場所が良い(時計台)。(50代・会社員)
- 座って休憩するイスが多くて長居しやすかった。(高校生)
- 混雑してなくてゆっくり見学することができた。(40代・主婦/主夫)
- コンパクトにまとまっている点。(50代)
- 京大という凄いいところに入れて色々伺うことが出来たところ。(40代・パート/アルバイト)

〈企画・運営(19件)〉

- 広く一般に公開されている。(70歳以上)

- わかりやすいポスターセッションの形が楽しい。(70歳以上・教員/研究教育関連)
- ちゃぶ台は話しやすくなりますね!めっちゃくちゃ良かったです。先生と高校生と大人と小学生といろんな世代がいるのは意見がいろいろでいいですね。(京大生)
- 開かれた学術文化を醸成しようとした気魄を感じられたこと。(会社員)
- 特に若い人に科学への関心を持てるイベントと思う。(60代)
- 研究者の皆様の原点や動機となる図書の紹介があったこと。(40代・会社員)
- 17:00までひらいてくれたところ。広々としてみやすかったところ。
- 研究者の方々がおすすめする本をたくさん知れたこと。(京大生)
- 研究者の本棚は説明と実物が手に取れて良かった。(40代・京大職員)
- 出入り自由。(京大生)

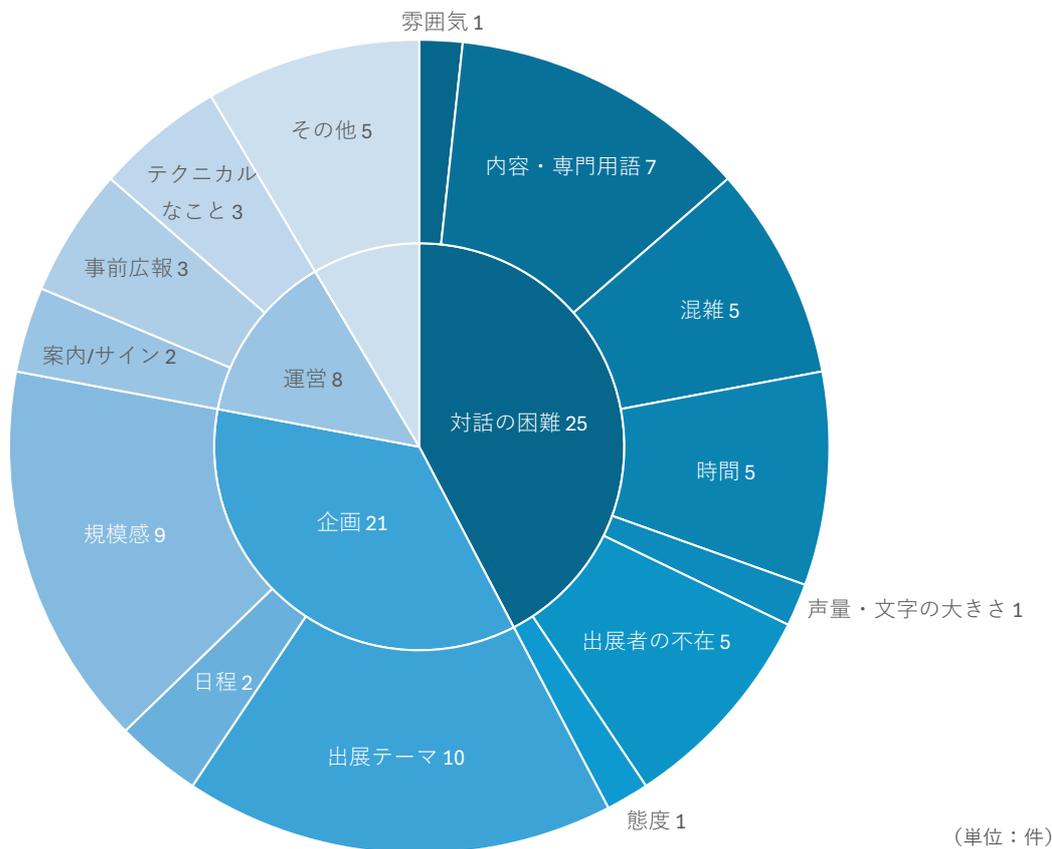
〈今後への期待(2件)〉

- このような企画は継続することが大切だと思います。大変と思いますが、よろしくお願いいたします。(60代・京大職員)

〈その他(14件)〉

- とてもよかったです。(60代・教員/研究教育関連)
- 色々な世代が集まる点。(20代・京大職員)
- 人数と発表者が良い割合。(高校生)

〈改善点〉



※ 特にないと回答した15名は除く。

・主な意見(抜粋)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと: 雰囲気(1件)〉

- 話しかけづらい。(中学生)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと: 内容・専門用語(7件)〉

- 子どもでもおもしろく見れるのがあればもっともったのしかたかもしれません。(40代・医療系)

- 少しむずかしいものがありました。(高校生)
- 研究発表がやや長いブースもあり、ある程度発表時間、そして、会話(発表)が終わったと表明するものがあるとよりスムーズにまわれる。(京大生)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと:混雑(5件)〉

- 人気の発表はなかなか研究者の方と話せるタイミングがめぐってこない。(30代・会社員)
- 先着がいるとなかなかわりこめない。一緒に話を聞けるといい。(60代・公務員)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと:時間(5件)〉

- もう少し長く開いてほしい。(京大生)
- 10:00 からにしてほしかった。
- 時間に限りがあること。(高校生)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと:声量や声の大きさ(1件)〉

- 一部のポスターの字が小さくて見にくかったこと。(70歳以上・無職)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと:出展者の不在(5件)〉

- 見たかった展示が不在だったこと。(60代・会社員)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと:態度(1件)〉

- 研究者の方からの声かけを積極的にしてほしいと思いました。(60代)

〈企画に関するもの:出展テーマ(10件)〉

- 文系の研究についてもっと知りたかった。(中学生)
- 工学分野が少ない印象でした。(30代・会社員)

〈企画に関するもの:日程(2件)〉

- 2日連続など参加できるチャンスをふやしてほしい。(40代・会社員)

〈企画に関するもの:規模感(9件)〉

- もっとたくさん(研究者と立ち話)出展してほしい。(京大以外の大学などの学生)

〈運営に関するもの:案内/サイン(2件)〉

- 現地内での場所案内がより分かりやすく表示されたらよかった。(60代)

〈運営に関すること:事前広報(3件)〉

- 学内での宣伝が少ないこと。(京大生)

〈運営に関すること:テクニカルなこと(3件)〉

- アンケートの字が小さい。(60代)
- 並ぶ列などあっても良かったかもしれません。(京大生)
- 本、その場で買いたい。

3-2. 出展者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答
- ・連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
- ・アンケート受付期間：13日間

〈設問〉

・問1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。

(回答必須)

[選択肢: 大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]

- (a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた
- (b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
- (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
- (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
- (e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
- (f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
- (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
- (h) 機会があったらまた参加したい
- (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
- (j) 他の研究者との交流の機会になった

・問2. 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った(or 必要だと感じた)工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

・問3. 来場者と対話をする際に、どのようなことが特に印象に残りましたか。差し支えなければ、その理由とともにお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・問4. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見(良かった点・改善点)や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

4-1【良かった点】

4-2【改善点/課題】

4-3【今後に向けた提案】

・問 5. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・問 7. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)

・役職(回答必須)

[選択肢: 教授、特定(特任)教授、准教授、特定(特任)准教授、講師、特定(特任)講師、助教/助手、特定(特任)助教/助手、研究員、博士課程(博士課程後期)大学院生、修士課程(博士課程前期)大学院生、その他]

・研究分野(回答必須)

[選択肢: 社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系]

・お名前(回答必須)

・ご所属(回答必須)

・ご連絡先(E-mail)(回答必須)

・出展代表者並びにメンバーの氏名、ご所属、職名(または学年)については、出展申込書の情報をもとに報告書に記載する予定です。出展申込書に記入いただいた時点からいずれかの情報に変更がある場合は、変更点をご記入ください。

※ 出展申込書に記載がないメンバーで、報告書に記載したい方がいらっしゃる場合、氏名/ご所属/職名または学年をご記入ください。

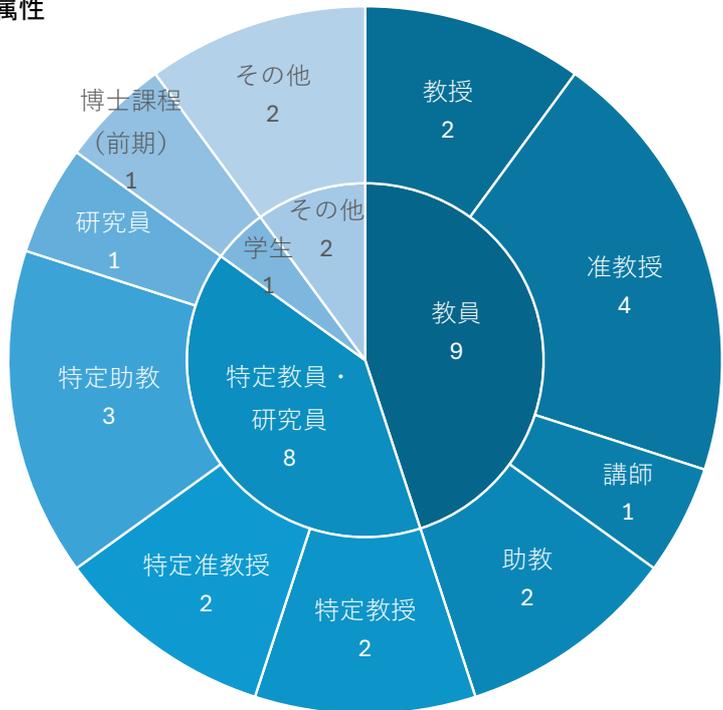
3-2-2. 「出展者アンケート」の結果

出展者数 45 人(のべ数)

回答者数 20 人(回収率 44.4%)

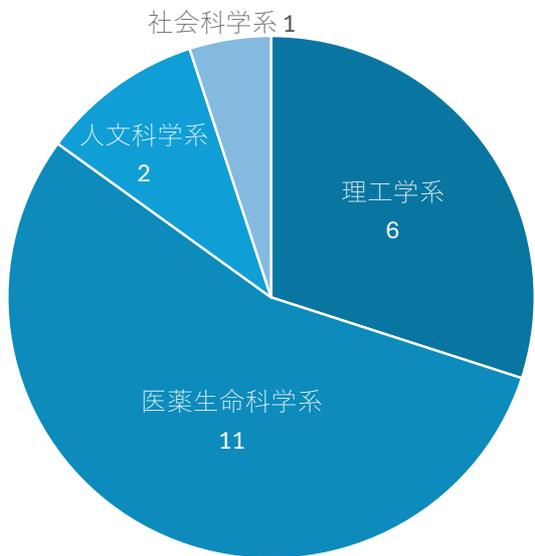
● 回答者の属性

・職業による回答者属性



(単位：人)

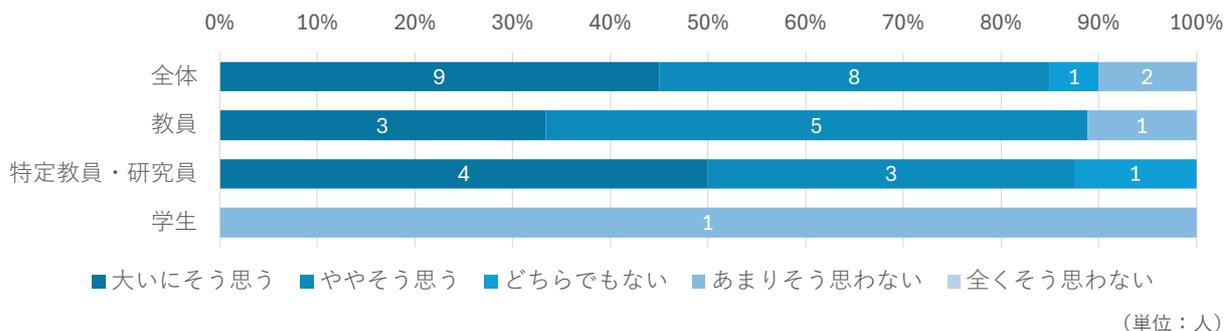
・専門分野による回答者属性



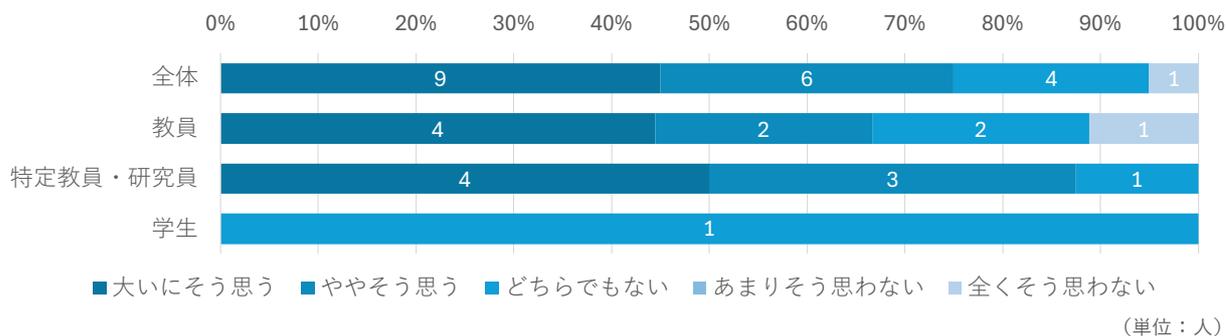
(単位：人)

●「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

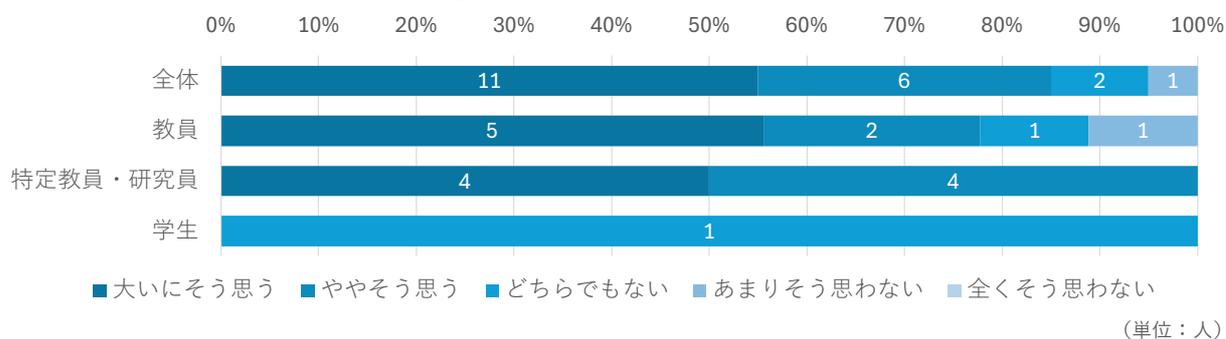
(a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた



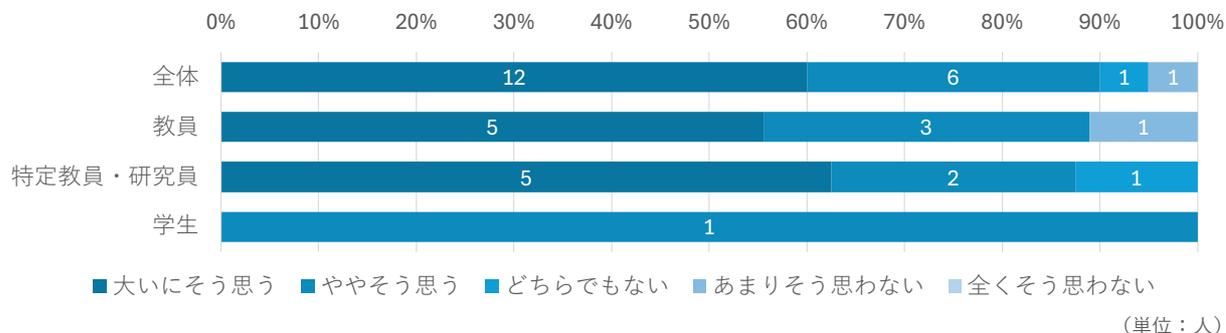
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



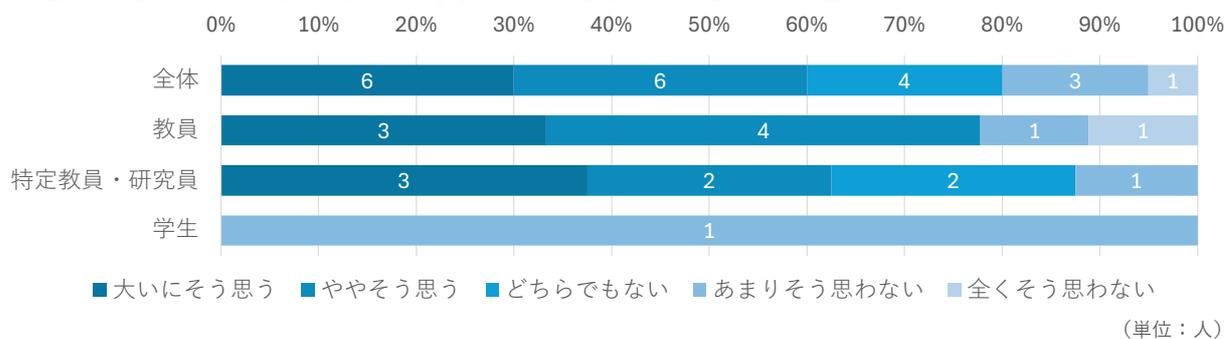
(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



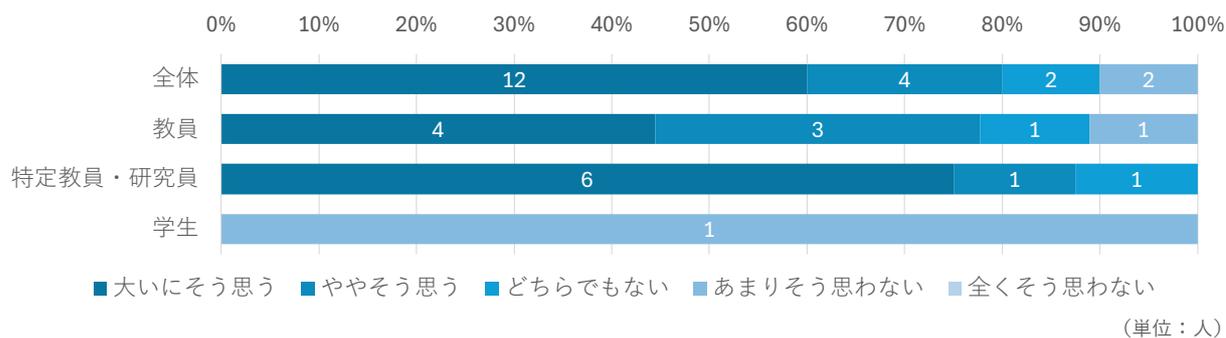
(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



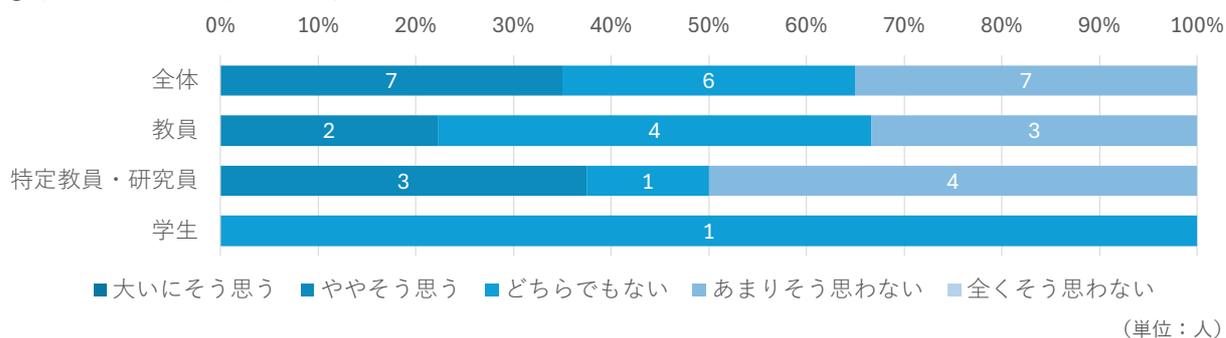
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



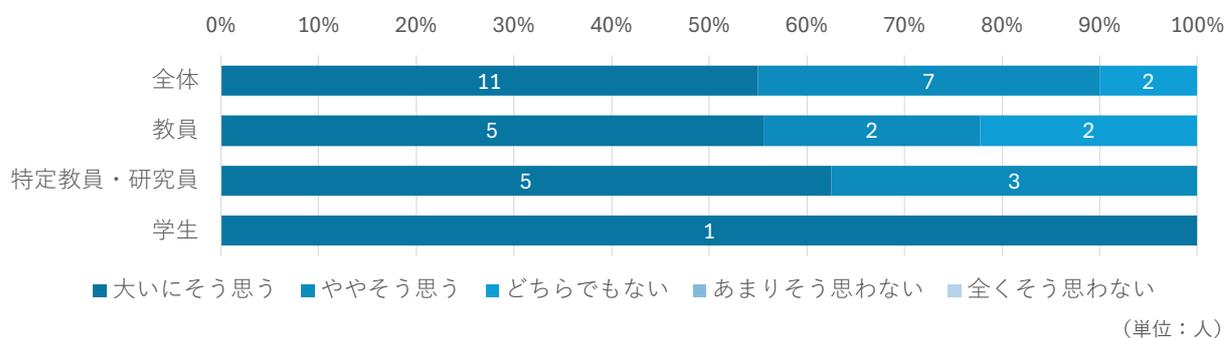
(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



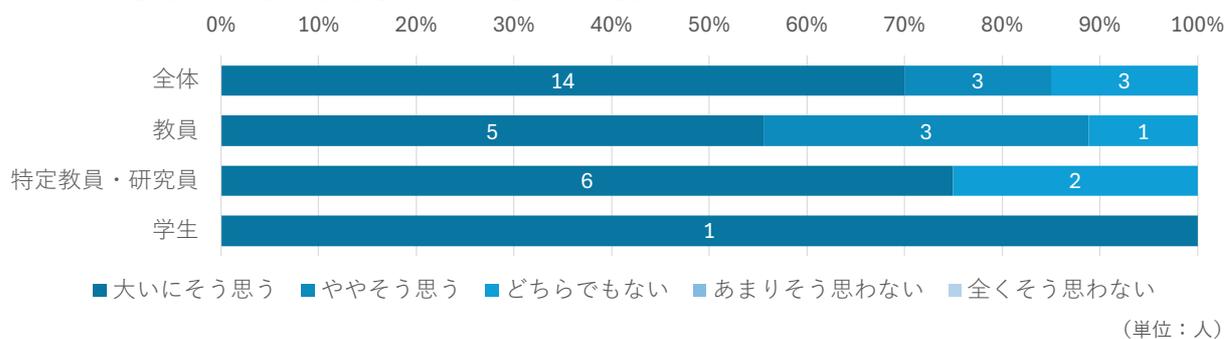
(g) 参加は日々の研究活動の負担となった



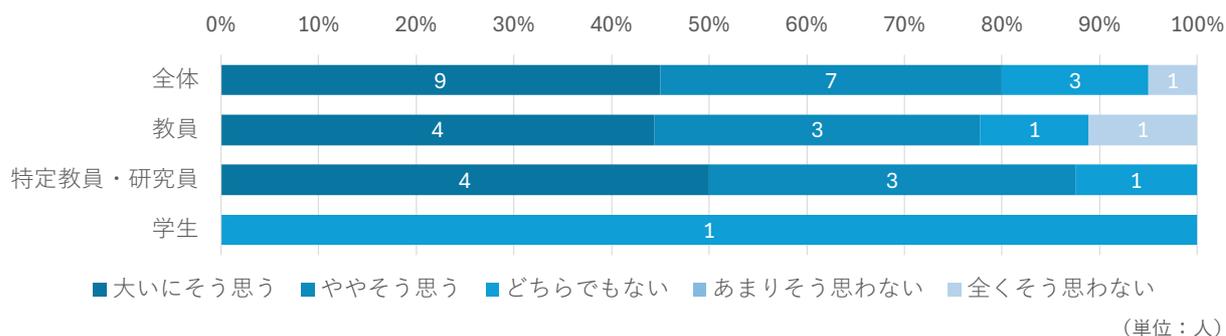
(h) 機会があったらまた参加したい



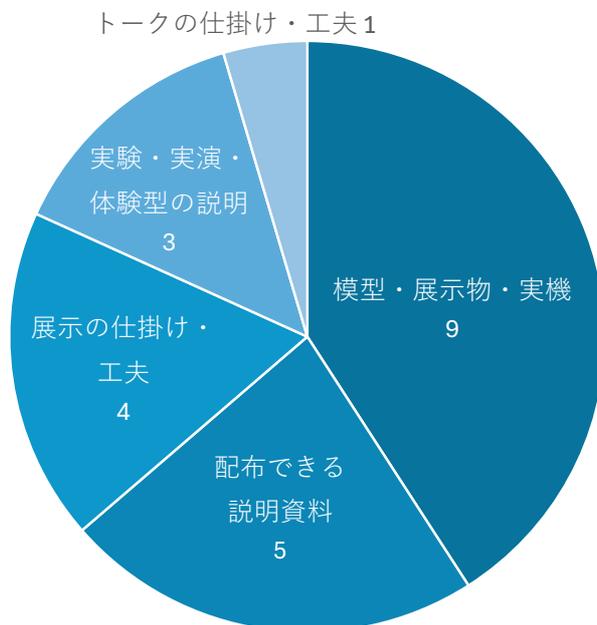
(i)このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



(j)他の研究者との交流の機会になった



- 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った(or 必要だと感じた)工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。



〈模型・展示物・実機(9件)〉

- もう少し説明文を増やしておけば良かったです。(医薬生命科学系)
- 付箋で感想をもらうのは大変良かったです。(医薬生命科学系)
- それぞれのコンテンツが何なのかの名札的なものを用意しておけばなお良かったかと思いました。(医薬生命科学系)
- ちゃぶ台に上がりやすいように複数のツールを持って行った(医薬生命科学系)

- 統計学の教室である私たちのところでは、統計学のイメージのつもりでたくさんのコインやサイコロをディスプレイしていました。来場された方が小さな子を連れてこられる方が多かったのですが、お子さんはコインやサイコロで遊んでいる間に、関心を持ってくださる親に説明ができたのが結果的にはよかったと思いました。(医薬生命科学系)
- 対話の途中では、実験で得られた動画もモニターで映すことで、話しやすくなったと思う。(理工学系)
- 研究について説明したポスターがあったらよかったと思う。(理工学系)
- 3次元的な展示物があったらよかったと思う。(理工学系)
- 来場者が興味を持ちやすい実験器具や、ポスターの縮小版コピーなどを用意しておいたのは、交流を円滑にする良いツールであったと思う。(理工学系)

〈配布できる説明資料(5件)〉

- ハンドアウトを用意すべきだったと思いました。(医薬生命科学系)
- 来場者の理解度に応じて説明しやすくする簡単な説明を載せたハンドアウトの用意(医薬生命科学系)
- 紙の資料と、スライド表示のパソコンを用意しましたが、紙の資料は来た人皆さんにお渡しできる数がなかったので、もっとたくさん用意すれば良かったです。(社会科学系)
- 何かしら話しかけるきっかけとなる配布物か、実際に得られた実験サンプルの実物。(理工学系)
- 写真パネル、著書、プリントアウトは役に立った。(理工学系)

〈展示の仕掛け・工夫(4件)〉

- 正確性を保ちながらも、適度に“デフォルメ”し、身近なものに例える工夫が必要だと感じた。(医薬生命科学系)
- プロジェクターを持参して動画をながしたことで、来場者によりわかりやすく内容を伝えることができた。(人文科学系)
- ポスターもなるべく文字情報を減らし、イラストや全体的なポスタービジュアルから、触れやすさを演出した。実際に、小中学生がかなりの頻度で寄ってくれたので、効果はあったと思う。(理工学系)
- 幼少年には展示位置がやや高く、彼らにはポスターが視線に入りづらいようであった。ポスター前には机を置かず空間を確保する、ミニツールを用意するなど、バリアフリーも意識したブース設営が必要かもしれない。(理工学系)

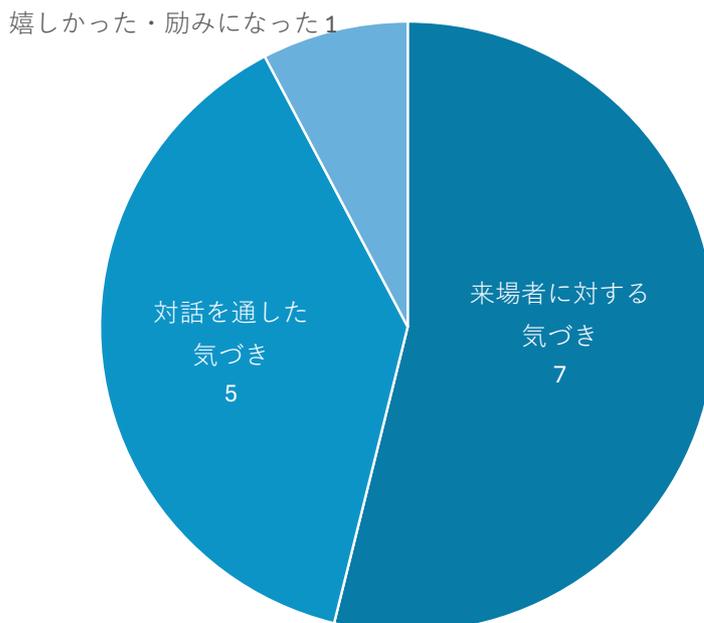
〈実験・実演・体験型の説明(3件)〉

- 来場者が体験できるコンテンツを用意しておいて良かったと感じました。(医薬生命科学系)
- 透過像の説明で影絵の模型を作ったが、イルカなども入れたため、小さい子が喜んだ。(理工学系)
- ブースではミニ実験も実施したが、「その場で実感できる」体験を提供できると、スムーズな対話の糸口になることを実感した。(理工学系)

〈コンテンツの準備(1件)〉

- 幅広い年齢層、一般から研究者の方まであらゆる層の方がおとずれるとのことで、どのようにコンテンツを準備したらよいか、開催まで非常に悩みました。(人文科学系)

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



(単位：件)

〈来場者に関して、気づいたこと(7件)〉

- 大学の研究者の調査研究について一定の理解がある方が来てくださったという印象をもった。(人文科学系)
- かなりの知識を持っている人や、ほとんど知識のない人もいて幅広い層の人がこられていると感じた。(生命医薬系)
- 当該分野の研究に興味がある人がいるとあまり思っていなかったのが、意外に思うと同時にとても嬉しかったので印象に残りました。(生命医薬系)
- 今回、研究というよりも活動内容を中心に発表したのですが、研究はどんなことをしているのかを聞いてくれた若い参加者がいました。実際に研究について説明するととても真剣に聞いてくれました。(生命医薬系)
- 思った以上に、子どもが興味を持って参加してくれたことが印象に残りました。大人がメインに来場するのかなと思っていましたので、驚きました。(生命医薬系)
- 来場してくれた方の基礎的な知識が大きく違うので、それに合わせての説明が必要十分であったかが心配。(理工学系)
- 数学に対して熱意のある人が一定いる事はわかっていたが、改めて世の中には数学ファンが多いなと思った。(理工学系)

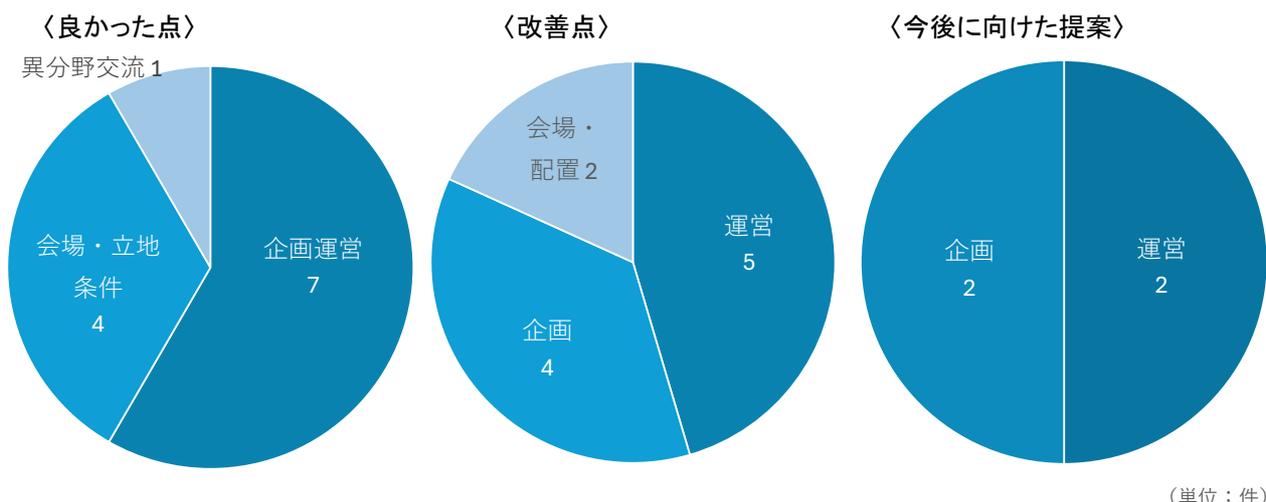
〈対話を通じた気づき(5件)〉

- 会場では、「ヤク」という動物を知っているかどうかというアンケートをとりましたが、意外と「知らなかった」という方がいておどろきました。また、ジブリ作品(ナウシカ原作、天空の城ラピュタ)などがヤクについてはじめて知った媒体であることに気付かされました。(人文科学系)
- 分野を知らない人にどこから話すか疑問形で聞き出すことが良かった(生命医薬系)
- 研究者同士の議論とは全く異なる視点からの質問や意見が多いように思いました。特に医学や臨床の観点からの意見が非常に多かったです。我々のおこなっている基礎研究が今後どのように皆さんに役立つかといった視点をもう少し深く考える必要があると感じました。(生命医薬系)
- DNAをテーマにしていたが、こちらの想定よりも、「DNAは生命の設計図」「ATGCという4つのパーツで構成されている」という知識が老若男女問わず幅広く共有されていた。そのためか、こちらの問題提起に対して、初手から挫折せず、真剣に考える姿勢を示してくれたことが印象深い。(サイエンスコミュニケーションにおいて、基礎教育と知識の共有は非常に重要、と言えるだろう。)(理工学系)
- さまざまな観点からのご質問やご意見を受け、いろいろな受け取り方があるのだと再認識しました。(人文科学系)

〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと(1件)〉

- 来場者同士で議論していただけたのが良かったです。(社会科学系)

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見



・主な意見(抜粋)

〈①良かった点〉

企画運営に関すること(7件)

- 賞を設けているのはよかったと思う。(医薬生命科学系)
- 電源コンセントの準備、水の準備があったこと。(医薬生命科学系)
- 室内が広く各所に椅子があり、ゆっくり見て回れる工夫があった。(医薬生命科学系)
- 顕微鏡を持参したのですが、当日机を貸していただけて大変助かりました。(医薬生命科学系)

一般の方との関わり(4件)

- 様々な人と交流できた点(医薬生命科学系)
- 一般の方向けに説明をおこなう良い機会になった。会場の出入り口にポスターを設置させていただいたので、多くの方に話を聞いてもらえたこと。(人文科学系)
- 普段、閉じこもって、少数の共同研究者と、抽象的な研究をしているだけなので、たまに一般の人と話すと言うのは新鮮だった。運営も支援も大変しっかりしていました。(理工学系)

異分野交流について(1件)

- 研究者とディープな対話ができる点。研究に対する敷居を下げた点。(特に進学を考えている高校生には、「大学」の具体的なイメージを提供できただろう。)(理工学系)

〈②改善点、今後に向けた提案〉

運営について(改善点:5件/提案:2件)

- もっとポスターがあっても良かった。(医薬生命科学系)
- 今回の公開時間は6時間くらいだったが、もう少し短くしても良いと思った。(人文科学系)
- 希望者はお弁当のような昼食を事前予約で注文し、当日受付で支払うように取り纏めて頂けると助かると思った。お弁当や持ち込みを前提に、部屋の一角だけでも食事ができる場所を確保していただけると、早くブースに戻れて、ありがたいです。座るところが少なく、数時間立ちっぱなしで足腰が辛かった(医薬生命科学系)
- 時間帯が、11時半～13時半だったのですが、お昼とかぶっているのです、参加しづらいように思いました。できれば昼食時をはずして、前後にずらしてもらいたいです。(医薬生命科学系)

企画について(改善点:4件/提案:2件)

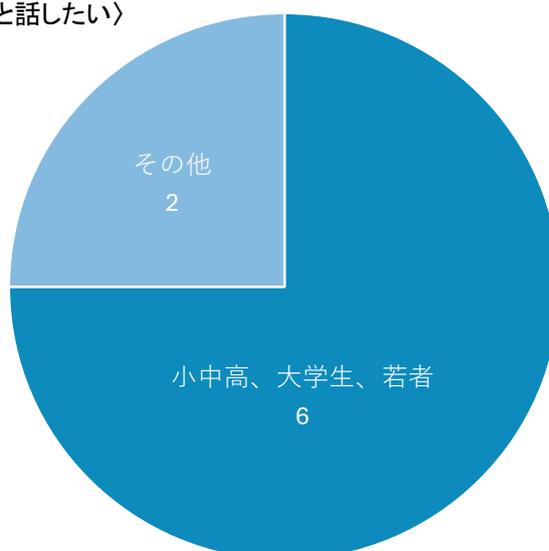
- 企業との共同研究を紹介するのも、もっとあっていいかもしれません。(社会科学系)

- 産学連携を促す上で、産&学に加えて一般の市民も突っ込んだ議論をする機会をセッティングする。(社会科学系)
- アンコール講演や対話講演など、継続的な関係構築イベントがあっても良いと思う。(理工学系)
- 来場者との関係性がその場限りで終わってしまう点。(理工学系)
- 高校生や大学生向けのイベントがあっても良い。(医薬生命科学系)
- 少しテーマを絞ってその分野の内容の密度を上げた形式で開催など。(医薬生命科学系)

会場・配置について(改善点:2件)

- 規模が小さい(医薬生命科学系)
- 参加者の方がご自身のことを紹介されようとしてHPをみせてくださろうとしたのですが、ネットワーク環境が悪く、HPが開けずに残念なようでした。(医薬生命科学系)

〈③このような来場者ともっと話したい〉



(単位：件)

小中高、大学生、若者(8件)

- 高校生や大学生などの層がもう少し来てくれると嬉しいです。(医薬生命科学系)
- 研究に興味を持っている高校生と、その親。自分 or 自分の子どもは大学でこんな研究をするのか、という具体的なイメージを抱いてくれるため、基礎研究の重要性を体感的に理解してくれる層である。込み入った話題を好むという点でも、非常にアプローチがしやすい。(理工学系)

その他(2件)

- リカレント講座に興味のある来場者(社会科学系)
- 異分野の研究者や中小企業の方、京大や大学院志望の学生、(特に大学を身近に感じていない地方在住の)科学に興味のある小中学生、寄付先を探していたり、スタートアップを抱えている個人や団体の関係者等。(理工学系)

- 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

・主な意見(抜粋)

新企画に関する意見(6件)

- 会場にイスが円のように配置されており、おもしろいスペースだなと思いました。何かの動作を複数の人に伝えたいというような方はそういう形式のブースがあってもよいのではないかなと思いました。(医薬生命科学系)
- サイエンスショーやクイズ大会など(医薬生命科学系)
- リカレント講座の体験イベント(社会科学系)

- 講演でもブースでもいいですが、出来ればブースで、今回のように参加者が直接話を聞いた研究者と対話できる機会をぜひセットにしてほしい。(理工学系)

現状改善案(2件)

- 参加させて頂けているので問題ないのですが、私の発表内容は「研究/研究成果」よりも「アカデミアでの活動/実践報告」なので少し心苦しく思っています。もし研究ではないアカデミア活動についての発表も明確に取り扱ってもらえればうれしいです。(医薬生命科学系)
- 来場者との関係性を一過的なものにならない取り組みが必要と思う。来場者の投票や希望をもとに、アンコール講演や、対話講演などのイベントがあっても良い。(理工学系)

その他(1件)

- 今回の機会を続けていただきたい(人文科学系)

- 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

・主な意見(抜粋)

URAへの意見(4件)

- 様々な外部予算で国民との対話の実績が必要となりますので、アカデミックデイという場があっても助かっています。より一般市民にリーチしたいときのゼスト御池、比較的興味がある層に対して共有したい時の時計台と2回に分かれているのもとても良いと感じています。(医薬生命科学系)
- このような機会を作っていただき大変嬉しく思っていますし、今後も続いて欲しいと思います。(医薬生命科学系)
- 研究者自身だと時間的な制約で出来ないことに取り組んで頂いていると思う。(理工学系)

アカデミックデイに関する意見(2件)

- この程度のもので十分かと思えます。(医薬生命科学系)
- こういうところに参加しなかったら、「国民との科学・技術対話」への意識は持たないまま日々を過ごしていたと思えます。毎年アカデミックデイでは、私たちが日常考えていることとは異なることは、来場者の方たちにとって日常であるかもしれないことを教えてもらえます。一方、参加する時期にはそのことを忘れてしまっていて、参加するべきかどうかというのを迷ってしまっている自分もいることも事実です。今(少なくとも今年)のやり方は、準備にも負担がなく、やりやすかったです。これ以上の負担となると参加しにくいかもしれません。(医薬生命科学系)

その他(2件)

- 文系の研究に、産業界から予算を引っ張ってくることに成功すると、また大きく展開が出てくると思います。(社会科学系)
- 京都大学として、若手研究者を介した教育現場へのより積極的な介入があっても良いのではないかと。中高生にとっての若手研究者は、想像しやすい10年後の姿でもある。研究者の具体的なイメージを提供できる交流の場は、我が国の研究者人口確保に利する面があるだろう。(理工学系)

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。本賞は、研究成果の発信にとどまらず、来場者との対話を通じて学問と社会をつなごうとする取り組みを評価するためのものです。広く多くの方との対話に向き合う研究者の姿勢や工夫の効果を顕在化することで、「国民との科学・技術対話」活動の意義を共有し、研究者が工夫しながら対話に取り組み続ける土壌を育てます。

本賞の選考は、来場者アンケートを通じて行われました。来場者の方々が実際に研究者と対話した体験をもとに、「よかった」と感じた出展や、その出展に贈りたい賞の名称を自由記述で回答する形式とすることで、いわゆる「研究内容の評価」とは異なる観点から、対話の質や伝わり方が評価される仕組みとしています。

全出展の中で最も多くの賞を集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除き、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」および「研究者と立ち話」の各企画において最も多くの賞を集めた出展研究者に、それぞれ「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

■ 3-3-1. 2025 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名:チベットのもふもふ、「ヤク」

出展代表者:海老原志穂(白眉センター(大学院文学研究科))

ワークショップ楽しいで賞、高山病に負けずに研究を続けてほしい賞、参加型賞、親しみやすいで賞、チベット語に興味をもたせたで賞、手ぬぐい楽しかったで賞、ヤクの言い方がたくさんあってびっくりしたで賞、など



● 京都大学アカデミックデイ賞:「研究者と立ち話」部門

出展名:細胞の中身をしきりなしに分ける方法とは? —相分離生物学から迫る細胞機能の解明—

出展代表者:下林俊典(iPS 細胞研究所)

おどろきをたくさん提供してくれた賞、圧倒的なプレゼン賞、細胞は微細化されてたで賞、医学への貢献賞、など



● 京都大学アカデミックデイ賞:「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名:あなたの正しい「知識」があなたの「生き方」をつくる:ゲノムの扉を一緒に開けてみませんか?

出展代表者:鳥嶋雅子(大学院医学研究科)

むずかしい事もとってわかりやすかった賞、遺伝を身近に感じたで賞、がんばってほしいで賞、など



■ 3-3-2. アンケートの上位の出展

来場者からのアンケートでコメント数の多かったポスター上位 6 件は、以下の出展でした。

(アカデミックデイ賞を受賞した出展を除く)

※ ちゃぶ台囲んで膝詰め対話は出展数が 4 件のため省略します。

● 研究者と立ち話

「臨床統計学 —医療に貢献する科学—」出展代表者: 大森崇 (大学院医学研究科)	
・研究内容が身近賞	・医療統計の楽しさをたっぷり伝えてくれたで賞
「「眠気」ってなんだろう？」出展代表者: 坂本雅行 (大学院生命科学研究科)	
・もっと研究が進むのを見てみたいで賞	・眠気ってやっぱり不思議だと思ったで賞
「遺伝子改変 iPS/ES 細胞で拓く次世代 T 細胞療法」出展代表者: 永野誠治 (医生物学研究所)	
・実際に見れておもしろかった賞	・一日も早い臨床での成果をまっていますで賞
「エチオピアの高齢職人と技能習熟 —多角的な「生涯観」の構築に向けて—」 出展代表者: 金子守恵 (アフリカ地域研究資料センター/アジア・アフリカ地域研究研究科)	
・よくそれを研究しようと思った賞	・アフリカについて考えさせられたで賞
「意識が変わる！？脱出ゲーム式研修の効果検証」出展代表者: 中神由香子 (学生総合支援機構)	
・これからの活躍に期待したいで賞	・自分の仕事に使いたい賞
「未来の社会を担う医療人材の育て方」出展代表者: 生野真嗣 (大学院医学研究科)	
・医療に関してたくさん知れたで賞	・子供が医療に興味もったで賞

4. 出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ 2025 の WEB サイトでもご覧になれます。

京都大学アカデミックデイ 2025 の WEB サイト

<https://ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2025/>



4-1. 研究者と立ち話

K1

マウスを用いた生殖補助医療による経世代異常の研究

篠原隆司(大学院医学研究科)

現在、生殖補助医療の中心となる技術として体外受精や顕微授精という方法が利用されています。最近、私たちはマウスを用いてこれらの技術により生まれた個体が不安様行動・社会的行動の異常・記憶力低下を示し、孫とひ孫の世代においては高頻度の着床不全が起こるのみならず、様々な奇形を引き起こすことを見出しました。この原因を解明するのが本研究の目的です。(※事情により当日はポスター展示のみ)



K2

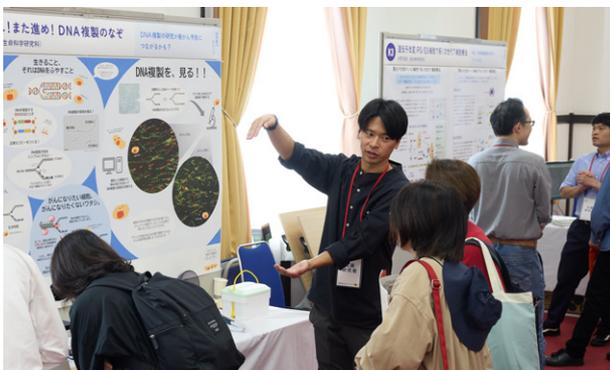
進め！止まれ！また進め！DNA複製のなぞ

五十嵐太一(大学院生命科学研究科)



説明・イラストが分かりやすかった賞

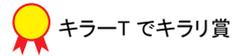
生命の設計図 DNA は、成長して細胞が分裂するのに伴って「複製」され、増えていきます。DNA 複製はどのように制御されているのでしょうか？本ブースでは細胞から DNA までを段階的に掘り下げ、それにまつわるお話を展開していきます。



K3

遺伝子改変 iPS/ES 細胞で拓く次世代 T 細胞療法

永野誠治 (医生物学研究所)



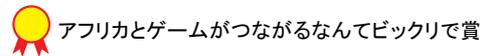
キラート細胞は標的細胞を直接排除する働きを持ちます。私たちは、iPS 細胞や ES 細胞から T 細胞を作り出し、がんや感染症治療への応用を目指しています。今回は、難治性白血病に対する T 細胞製剤の臨床試験に向けた開発、また、遺伝子改変によって機能を強化し、抗原特異性を切り替えられる「カセット型 iPS 細胞」や、拒絶されにくい「超汎用型 ES 細胞」などを紹介します。



K4

ゲームの力で持続的な狩猟を実現！

赤岡佑治 (大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)



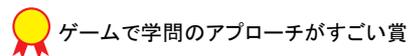
アフリカ熱帯林での持続的な狩猟について地域住民たちと一緒に考えるために、地域住民の狩猟活動を模したアナログゲームを開発しています。イベント当日は、実際にカメルーンのフィールドで実施したゲームを展示し、その仕組みや狙いを紹介します。新たな形の野生動物保全の可能性を、ゲームを通じてぜひ感じ取ってみてください！



K5

意識が変わる！？脱出ゲーム式研修の効果検証

中神由香子 (学生総合支援機構)



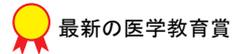
脱出ゲームを応用した参加型プログラムの効果検証試験を行っています。楽しみながら体験・参加するプログラムで、参加者の感情認知・心理的安全性の改善や、ワークエンゲージメントや生産性の向上が期待されています。企業や大学、医療機関などで働く方々を対象として協力者の募集も行っています。興味のある方、ぜひお声がけください。



K6

未来の社会を担う医療人材の育て方

生野真嗣(大学院医学研究科)



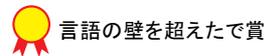
医学部や病院で行われる教育とはどういったものでしょうか。また、変わりゆく社会で活躍し続ける医療人材を養成するため、教育の場や内容はどのように変化してきたでしょうか。今回の出展では、医学部での6年間から卒業後を含む教育について、教育を提供する側、提供される側、そして教え方を教える「教員のための教員」の視点から考察し、紹介します。



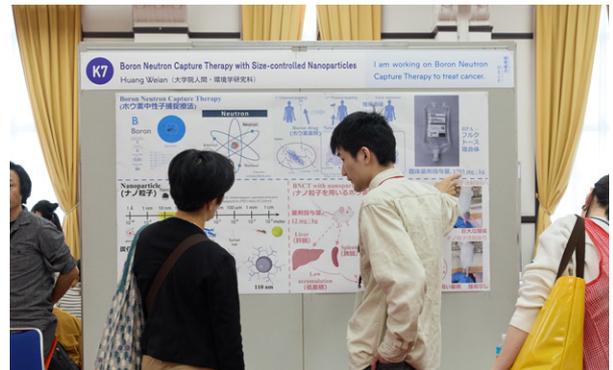
K7

Boron Neutron Capture Therapy with Size-controlled Nanoparticles

Huang Weian(大学院人間・環境学研究科)

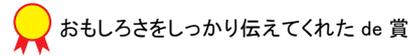


Boron neutron capture therapy (BNCT) is emerging cancer therapy requiring neutron radiation and ^{10}B drug. Although BNCT with boronophenylalanine (BPA) is approved clinically in Japan, low tumour selectivity and retentivity result in long-time infusion of high doses. Moreover, BNCT without immunomodulator often fails to elicit strong immunostimulatory effects, preclinically causing high drug dosage used, incomplete tumour regression and limited control of metastatic lesions. Based on our finding of size-controllable mechanochemical synthesis of boron-10 carbide nanoparticles ($^{10}\text{B}_4\text{C}$ NPs), the 50 nm size NPs grafted with poly(glycerol), $^{10}\text{B}_4\text{C}(50)\text{-PG}$, show superior tumour selectivity and retentivity to enhance eradication efficacy at much lower dosage. Antitumour immunity is boosted by $^{10}\text{B}_4\text{C}(50)\text{-PG}$ -BNCT without extrinsic immunomodulator to induce abscopal effect treating distant or metastatic tumours.



K8

細胞の中身をしきりなしに分ける方法とは？
一相分離生物学から迫る細胞機能の解明—
下林俊典 (IPS 細胞研究所)



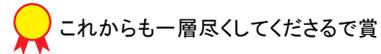
おもしろさをしっかり伝えてくれた de 賞

私たちの体を形作る細胞の中には、DNA、RNA、タンパク質といった生体分子がたくさん詰まっています。それぞれが適材適所に集まることで細胞のはたらきが成り立っています。これらの分子を整理する方法の一つとして、膜を使って場所を仕切る方法があることはよく知られています。ところが近年、膜を使わずとも生体分子を相分離によって区画化する現象が細胞内に存在していることが相次いで報告されています。この現象は細胞内にとどまらず、私たちの日常生活でもふと目にするような身近な現象とも深く関係しています。細胞の魅力的な世界について一緒に考えてみませんか？



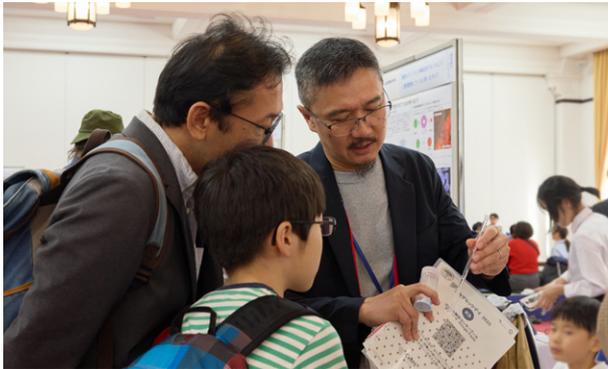
K9

京都大学の共用機器で拓く研究力
本間貴之 (高等研究院)



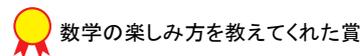
これからも一層尽くしてくださいで賞

iCeMS 解析センターは京都大学に5つある設備サポート拠点のうちの、本部構内設備サポート拠点 (MaCBES) を構成する機器共用組織です。登録により学内外の研究者が超解像顕微鏡、電子顕微鏡、NMR、電子回折装置等 30 台超の先端機器を、専門家の支援を受けながら利用できます。機器共用の現状も紹介します。



K10

双曲幾何
藤原耕二 (高等研究院)



数学の楽しみ方を教えてくれた賞

双曲幾何は非ユークリッド幾何の1つです。数学の研究では長い歴史があり、数学の中ではいろいろな応用があります。



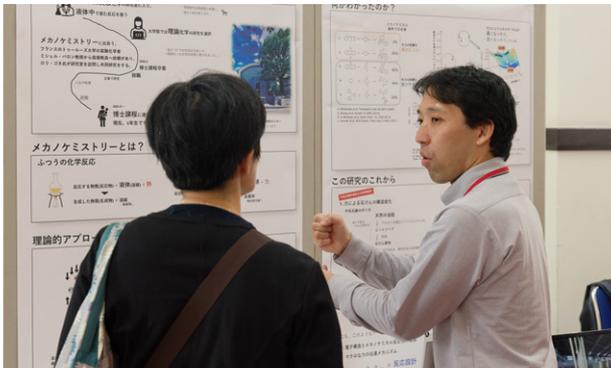
K11

フラスコを使わない環境に優しい化学反応 堺稚菜(福井謙一記念研究センター)



生活の中で京大を感じられたで賞

化学合成は、反応する物質を溶媒と呼ばれる何らかの液体に溶かし、加熱して行うことが普通です。しかし、合成を行った後に残る溶媒は廃棄物となってしまいます。私たちは、物質を溶媒に溶かさずに粉末のままに反応させるメカノケミストリーの理論の研究をしています。これは、溶媒や熱を用いる代わりに「力」を使う化学合成の手法です。



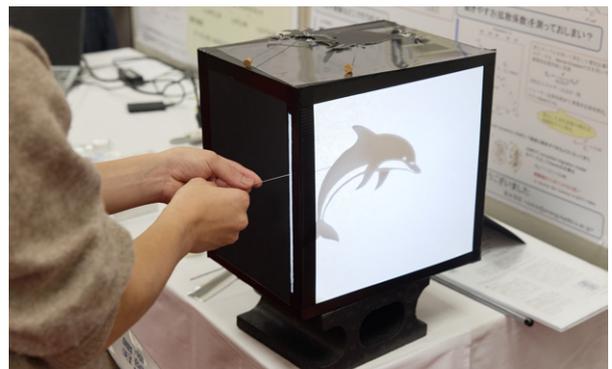
K12

中性子イメージングによるリチウム固体電解質の科学 高井茂臣(大学院エネルギー科学研究科)



電池の未来は明るいで賞

全固体電池の研究は引き続き行われているが、リチウムのマクロなトレーサー拡散を測定する手法は限られる。我々のグループは安定同位体の 6Li と 7Li をもちいて拡散係数を測定してきた。最近では室温まで測定範囲を拡張でき、導電率と合わせることで拡散機構まで議論できるようになった。中性子を用いたトレーサー拡散係数測定は世界的にもあまり行われていないので、紹介する。



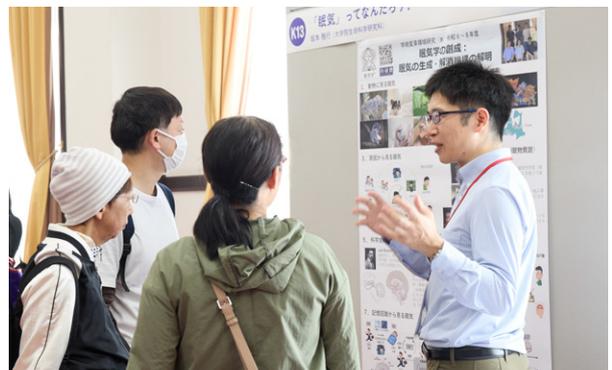
K13

「眠気」ってなんだろう？ 坂本雅行(大学院生命科学研究所)



身近な現象で面白かったで賞

皆さんも突然の眠気(睡魔)に襲われた経験があると思います。どうして眠くなるのか？これまでの睡眠医学研究では、その明確な答えを出すことができていません。私たちは、この眠気の謎を解き明かし、眠気を厄介者として扱わずにすむ社会の実現を目指して研究をおこなっています。



K14

臨床統計学—医療に貢献する科学— 大森崇(大学院医学研究科)



臨床統計家の認知度上げたで賞

新しい医薬品や治療法の開発では、最終段階で患者さんが参加する実験である「臨床試験」が行われます。臨床試験の実施には厳密な科学性と倫理性が求められ、専門的な知識を持つ統計家の参加が不可欠となっています。この研究領域が臨床統計学です。医療に貢献する科学、みなさんも体験してみてください。



K15

チベットのもふもふ、「ヤク」 海老原志穂(白眉センター/大学院文学研究科)



心もモフモフしたで賞

毛の長いウシ科の動物、ヤク。実は「ヤク」という単語はチベット語が語源です。しかし、チベット語で「ヤク」というと「雄のヤク」しか指しません。チベット語ではオス・メス、年齢、役割のほか、毛色や角などの特徴でヤクを呼び分けているのです。チベット語の民俗語彙のひとつでもある、ヤクのさまざまな呼称を紹介し、言語の多様性や固有性について理解を深めていただければと考えています。



K16

エチオピアの高齢職人と技能習熟— 多面的な「生涯観」の構築に向けて— 金子守恵(アフリカ地域研究資料センター/アジア・アフリカ地域研究研究科)



エチオピアの研究を通じて人生を考えることができたで賞

本展示は、「生涯学の創出: 超高齢社会における発達・加齢観の刷新(学術変革領域 A(領域代表: 月浦崇) 2020-2024)」の8つの研究計画班のうちの一つ(「技能・熟練・暗黙知の習得・発達過程に関する人類学的研究」)の成果で、エチオピアの職能集団を対象にして、技能の習熟と多様な生き方との関わりを手がかりに多面的な生涯観を成立させる背景を問題提起します。



4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

ちゃぶ
a1

あなたの正しい「知識」があなたの「生き方」をつくる：
ゲノムの扉を一緒に開けてみませんか？

鳥嶋雅子(大学院医学研究科)



今後の研究応用も楽しみに期待していますで賞

正しい知識にふれることで、皆さんの人生の選択肢や価値観が広がる可能性があります。ある場面での判断が、ゲノムについての新たな知識を得たことで変わる—ぜひそんな体験をしていただけたらと思います。ゲノム分野は急速に発展し、これまで知ることができなかったことが、今では次々と明らかになっています。そんな時代だからこそ、改めて「知る」とはどういうことか、一緒に考えてみませんか？



ちゃぶ
a2

形状記憶合金で耐震！？

荒木慶一(大学院工学研究科)



技術の素晴らしさを身近に感じた賞

近年、我が国では、新しい形状記憶合金の材料開発と応用展開の両面で、革新的な研究開発が進んでいます。ここでは、新しい形状記憶合金の材料開発や、耐震での応用により、どんな未来社会が切り拓けるかを紹介します。



ちゃぶ
b1 「誰ひとり取り残さない」を、建前で終わらせないためには？
運行（経営管理大学院）

 科学的見地に新発見の回で賞

京都大学コミュニケーションデザインと DE&I コンソーシアムでは、DE&I に加え Justice(正義)も含めた JDEI をテーマに、多様な立場の人々と実践と対話を重ね、知恵を持ち寄る集合知のプラットフォームを目指して活動しています。誰ひとり取り残さないを、建前で終わらせないためにはどのようなアクションが必要か、様々な社会集団に属する皆様と議論できればと思います。



ちゃぶ
b2 化学の力で本当に「環境に良い」社会を形成する
齋藤敬(大学院総合生存学館)

 研究をやりたくなるで賞

2050 年に目標とされている温室効果ガス排出量ゼロの達成には、廃棄物を出さない循環型経済(サーキュラーエコノミー)の形成が不可欠と言われています。自分はグリーンケミストリー「環境に優しい化学」や総合知の観点から、何が「環境に良い」ということなのかを、俯瞰的に産官学連携の下研究を進めています。その内容をお話します。



4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	所属	
		氏名	職名又は学年等
K1	○	大学院医学研究科 篠原 隆司 教授	
K2	○	大学院生命科学研究科 五十嵐 太一 特任助教 今村 力也 助教	
K3	○	医生物学研究所 永野 誠治 助教 河本 宏 教授 板原 多勇 特定研究員 周 浩洋 特定研究員 貝谷 亮太 博士課程 3年	
K4	○	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 赤岡 佑治 博士課程	
K5	○	学生総合支援機構 中神 由香子 助教 大学院医学研究科 島本 大也 特定講師 久留米大学医学部 森松 嘉孝 准教授	
K6	○	大学院医学研究科 生野 真嗣 講師	
K7	○	大学院人間・環境学研究科 Huang Weian 博士課程 2年	
K8	○	iPS細胞研究所 下林 俊典 准教授 吉田 知史 特定研究員 青沼 はる香 Technical Staff 医学研究科 工藤 和哉 修士課程 2年 工学部 小西 皓太 学部 4年 医学部 赤松 舞里乃 学部 4年 理学部 小玉 拓未 学部 4年	
K9	○	高等研究院物質－細胞統合システム拠点 本間 貴之 特定准教授 坂本 裕俊 特定講師	
K10	○	大学院理学研究科 藤原 耕二 教授	
K11	○	福井謙一記念研究センター 堺 稚菜 博士課程 1年 佐藤 徹 教授 春田 直毅 特定准教授	
K12	○	大学院エネルギー科学研究科 高井 茂臣 准教授 江坂 裕貴 修士課程 2年 茶納 大輝 修士課程 2年 土屋 風惟 修士課程 2年	

ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名 職名又は学年等
		廣田 智也 修士課程 2 年 松永 大翔 修士課程 1 年
K13	○	大学院生命科学研究科 坂本 雅行 准教授 弘前大学医学研究科 丹羽 康貴 准教授
K14	○	大学院医学研究科 大森 崇 特定教授 佐藤 俊哉 特命教授 高木 佑実 特定研究員
K15	○	白眉センター／大学院文学研究科 海老原 志穂 特定助教
K16	○	アフリカ地域研究資料センター／アジア・アフリカ地域研究研究科 金子 守恵 准教授 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 田中 綾華 大学院 5 年
ちゃぶ a1	○	大学院医学研究科 鳥嶋 雅子 特定助教 友石 安希子 修士課程 2 年 大友 さくら 修士課程 1 年
ちゃぶ a2	○	大学院工学研究科 荒木 慶一 教授
ちゃぶ b1	○	経営管理大学院 蓮行 特定准教授 中西 織音 オフィス・アシスタント 近藤 薫
ちゃぶ b2	○	大学院総合生存学館 齋藤 敬 教授

5. その他

5-1. 各種説明会

■ 5-1-1. 出展募集説明会

2025年6月11日、オンライン（Zoom ミーティング）上で、出展を検討している参加者向けにアカデミックデイの概要や出展のメリット、出展に向けての作業やサポート等について説明しました。

■ 5-1-2. 出展者向け説明会

2025年8月22日、学術研究支援棟地下会議室とオンライン（Zoom ミーティング）のハイブリッド形式で、ゼスト御池で開催される京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主な目的でした。

総合研究推進本部の藤田弥世 URA より、京都大学アカデミックデイ開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話をするようになるのかを事前に伝えることで、準備がしやすくなることを狙っています。会の後半では、アカデミックデイに来場する方々の傾向をもとに専門外の人に自分の研究をわかりやすく伝える方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてレクチャーしました。

その後、同じ形式・目的で2025年10月3日、京都大学百周年時計台記念館で開催される京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました。



お助けコンテンツ

- 実験機材や道具・生き物・標本など実物・模型
- 実験室/実験生物/実験機材の写真・動画

提示はiPadがおすすめ！

<出展者の声>
・直感的に分かりやすいもの、できれば**触れるもの**、**日常生活にあるもの**はとても役に立つ
・紙やスライドで説明するより、簡単なものでも**実物や模型などの物体**がある方が、説明しやすく、理解してもらいやすいように感じた。
・一般の方から見ても**目を引く展示物**
・物理的に持ち帰ることができる**お土産的なもの**（高価なものでもなくても、チラシや豆知識の書かれた紙など）があるブースは、全体的に好評だったように見えました。

自分にとっては何気ないものでも、知らない人からすると新鮮だったりするよ！



質問へのこたえかた

話している途中に予想外の質問があったら？
まず質問の意味を確認。その結果…

- ・結論まで話せば伝わりそうなパターン
：最後まで聞いてもらえると一緒に考えられそうであることを伝えて説明再開
- ・その場で答えられそうなパターン
：さっとこたえる
- ・その場では回答しづらいパターン
：ちょっとじっくり考えたいので、あとでお話とさせてもらえますか？

あまり話し込むと後ろの人が待ちぼうけになるから、周りにも気を配るといいね！

5-2. 会場間の移動誘導企画(ゼスト御池のみ)

5つの会場間の移動を誘導する企画として、3つの企画を実施しました。

■ 5-2-1. 対話シール企画

6種類の対話シールを用意し、広場ごとに割り当てました。来場者は出展研究者と話したり、話を聞いたりすると、パンフレットにシールを貼りつけることができます。このシールを3種類以上集めるとアカデミックデイオリジナルグッズをプレゼントするようにしたことで、積極的に様々なブースを巡っていただく仕掛けとなりました。



■ 5-2-2. トートバッグ配布企画

アカデミックデイ特製トートバッグを作成して会場に来られた方に配布、バッグを持って会場間を行き来してもらうことで、バッグそのものにアカデミックデイが複数広場で開催されていることを示す「動くサイン」の役割を付与しました。トートバッグは昨年度と同じくA4サイズ、カラーは今年の広報カラーのオレンジ色に統一しました。



5-2-3. 天井サイン企画

それぞれの広場につながる通路の天井 4 箇所にサインを吊り下げることで、ゼスト御池全体の広場がアカデミックデイの会場になっていることを視覚的に示しました。人通りの多い北側通路に 1) 市役所前広場そば、2) 市役所前広場・寺町広場の間、3) 寺町広場・御幸町広場の間の 3 箇所、南側通路では 4) 市役所前広場そばに 1 箇所設置しました。

1-1)



1-2)



2-1)



2-2)



3-1)



3-2)



4-1)



4-2)



■ 5-2-4. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」へ向かうための導線サイン

昨年度、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」がどこで開催されているか分かりづらいとの声を複数いただいたことを受け、今年度はスタッフによる手持ちサインと、京都市役所連絡通路壁面サインの2種類を用意。市役所前広場にて往來の妨げにならないように誘導しました。特に手持ちサインはスタッフ自ら来場者の方々に声掛けすることで、京都市役所本庁舎地下2階オープンスペースだけでなく河原町広場・寺町広場・御幸町広場への誘導も効果的に行うことができました。



5-3. 「京都大学」をアピールする仕掛け(ゼスト御池のみ)

一昨年度ゼスト御池で開催した際、「京都大学のイベントだということがわかりづらい」という学内からの声を受け、昨年度と同じく、京都市役所本庁舎地下2階オープンスペース最奥部と、河原町広場特設ステージの横面2箇所、本学のバックボードを設置しました。京都市役所本庁舎地下2階オープンスペース最奥部では、これも昨年度と同じく、バックボードを背景に写真撮影できるようにしました。



5-4. 広報物

京都大学アカデミックデイのポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関や公共機関等に配布しました。また、地下鉄や駅構内で広告を掲載しました。

■ 5-4-1. ポスター(A2 サイズ)

Kyoto University
Academic Day 2025

国民との科学・技術対話
Kyoto University

京都大学
アカデミックデイ
2025

語りたいたはここにあり

わたしたちと研究は
つながっている

We are connected to research.

Here, we can find what we want to talk about.

9月27日(土) 11:00-18:00
ゼスト御池
11am - 6pm, (Sat) 27 September
ZEST DIKE

参加費
無料 (申込不要)
No charge /
No registration required

11月1日(土) 11:00-17:00
京都大学百周年時計台記念館
11am - 6pm, (Sat) 1 November, 2025
Hall II and III, Clock Tower Centennial Hall,
Kyoto University

京都大学の研究者と一緒に語り合えよう! どんな研究者に会えるの?

ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2025/

主催：京都大学総合研究推進本部 | 共催：京都市（9月27日）、京都大学成長戦略本部（11月1日）

■ 5-4-2. チラシ(A4 サイズ)

● オモテ面

Kyoto University
Academic Day 2025

国民との科学-技術対話
Kyoto University

京都大学
アカデミックデイ
2025

わたしたちと 研究は
つながっている

語りた
いは
ここに
ある

We are connected to research.

Here, we can find what we want to talk about.

9月27日(土) 11:00-18:00
ゼスト御池

参加費
無料(申込不要)
No charge /
No registration required

11月1日(土) 11:00-17:00
京都大学百周年時計台記念館

京都大学の研究者と一緒に語り合しましょう! どんな研究者に会えるの?

ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2025/

主催: 京都大学総合研究推進本部 | 共催: 京都市(9月27日)、京都大学成長戦略本部(11月1日)

● ウラ面



「京都大学アカデミックデイ」は、誰もが学問の楽しさ・魅力に気づくことができる「対話」の場となることを目的として、2011年度から実施しているオープンなイベントです。京都大学の研究者とお話したり、研究に使う道具に触ってみたり、はたまた研究者おすすめの本を発見したり——複数企画をご用意してみなさまをお待ちしています。最先端の研究に触れられるまたない機会、詳細はwebページをご覧ください！

“Kyoto University Academic Day” is an open event that has been held since the academic year 2011, aiming to create a space for ‘dialogue’, inviting everyone to experience the joy and wonder of academic discovery. You’ll have the chance to talk with researchers from Kyoto University, try out real research tools, discover their recommended books, and more! Join us for a day full of engaging activities and a rare opportunity to experience cutting-edge research up close. For more details, visit our website!



イベントの詳細は
webページを
ご覧ください！
For more details,
visit our website!

今年も2回開催！



9月27日(土) ゼスト御池

11am - 6pm, (Sat) 27 September, 2025
ZEST OIKE



11月1日(土) 京都大学百周年時計台記念館

11am - 5pm, (Sat) 1 November, 2025
Hall II and III, Clock Tower Centennial Hall,
Kyoto University

お問い合わせ先 Contact Information :
京都大学アカデミックデイ事務局 Kyoto University Academic Day Secretariat Office
E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



■ 5-4-3. 中吊り広告(B3 サイズ)

語りたいたはここにあり

Kyoto University Academic Day 2025

京都大学 アカデミックデイ 2025

わたしたちとつながっている 研究は

9月27日(土) 11:00-18:00 参加費 無料(申込不要) No charge / No registration required ゼスト御池 11am - 6pm (Sat) 27 September ZEST OIKE

11月1日(土) 11:00-17:00 京都大学百周年時計台記念館 11am - 5pm (Sat) 1 November Clock Tower Centennial Hall, Kyoto University

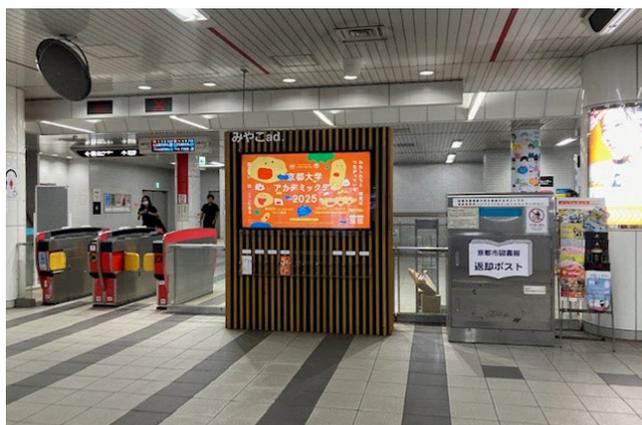
ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2025/

主催: 京都大学総合研究推進本部 共催: 京都府 (9月27日), 京都大学成長戦略本部 (11月1日)



■ 5-4-4. 電子サイネージ

● みやこ ad.京都市役所前駅(デジタルサイネージ)



■ 5-4-5. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)

本年度もウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用して「京都大学アカデミックデイ 2024」の出展募集および集客を行いました。

● Web サイト

総合研究推進本部 Web サイト

研究者出展募集を行いました。

出展研究者募集案内: <https://www.research.kyoto-u.ac.jp/academicday/> (学内限定ページ)

K.U.RESEARCH ウェブサイト

<https://ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

K.U.RESEARCH に設置された京都大学アカデミックデイ専用ページに 2025 年度のページを作成し、出展研究について個別ページを作成しました。

<https://ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2025/>

● SNS (X(旧 Twitter)、Facebook、Instagram)

京都大学アカデミックデイ公式 X (@KyodaiAcaDay)

<https://x.com/KyodaiAcaDay/>

ハッシュタグ「#京大アカデイ 2025」を活用し、「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手にトーク@トーク」、「研究者の本棚」の開催情報を、各出展ブースの詳細ページと一緒に紹介しました。そのほか運営の日常も適宜投稿することで継続的な発信を行い、それぞれのイベント終了後には、当日の様子などの情報を更新した詳細ページを紹介発信しています(2026年3月末終了予定)。

総合研究推進本部公式 X (@kura_office)

https://x.com/kura_office

京都大学アカデミックデイ公式 X でつぶやいた投稿を都度リポストしました。

総合研究推進本部公式 Instagram

https://www.instagram.com/kura_kyotouniversity/

一般の方向けに開催案内を行いました。

総合研究推進本部 Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

出展研究者募集の告知を行いました。

■ 5-4-6. その他の広報媒体等

本年度も様々なチャネルを利用して「京都大学アカデミックデイ 2025」の周知活動を行いました。

● 京都大学公式ホームページ

・公開日：8/8(金)

ゼスト御池での開催通知を掲載しました。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2025-08-08>

・公開日：10/2(木)

京大時計台での開催通知を掲載しました。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2025-10-02>

なお、京都大学ホームカミングデイとのコラボレーション企画として開催した11月のアカデミックデイについては、ホームカミングデイ主催の成長戦略本部が有するwebページでも広報されました(<https://hcd.alumni.kyoto-u.ac.jp/>)。

● 京都大学教職員ポータル

教職員が利用するポータルサイトの掲示板に、アカデミックデイ出展研究者募集の通知を掲載しました。

● KUON メールマガジン

成長戦略本部の協力により、京都大学同窓生向けサービス「KUON」のメールマガジンにてゼスト御池で開催するアカデミックデイの開催情報を配信しました(9/1(月))。また、11月に開催したアカデミックデイの宣伝を含むホームカミングデイの開催情報も2回配信され(9/1(月), 10/1(水))、開催終了後には開催報告が配信されました(12/1(月))。

● メール配信

アカデミックデイ 2020 並びに 2021 申込時に「今後のメール配信を希望する」を選択された方を対象に、開催案内のメール配信を行いました(8/1(金))。さらに、成長戦略本部が運営する公開講座お知らせメールにて、アカデミックデイの開催案内にかかるメール配信を行なっていただきました(8/8(金))。

● サイエンスポータル

JST が運営する科学技術の情報サイト「サイエンスポータル」に情報を掲載しました。

(9/27(土)) @ゼスト御池: <https://scienceportal.jst.go.jp/events/19022/>

(11/1(土)) @京大時計台: <https://scienceportal.jst.go.jp/events/19023/>

● あつまれ！京(みやこ)わくわくのトビラ

京都市子ども若者はぐくみ局が運営するwebページにて広報いただきました。

<https://wakutobi.city.kyoto.lg.jp/>

※該当ページはイベント終了後に掲載終了

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。昨年度から大きく変更のあった今年度の支援体制は以下の通りです。

京都大学アカデミックデイ事務局(企画・運営)

藤田弥世	総合研究推進本部	URA
福田将矢	総合研究推進本部	URA
渡辺真人	総合研究推進本部	URA
村角智恵	総合研究推進本部	事務担当職員
和田晋輔	総合研究推進本部	事務担当職員
谷藤真紀	総合研究推進本部	事務担当職員
鶴岡祐介	総合研究推進本部	事務担当職員
樫本万里野	総合研究推進本部	事務担当職員

ゼスト御池開催当日責任

永田幸司	総合研究推進本部	事務担当職員
------	----------	--------

事務サポート

加藤淳史	総合研究推進本部	事務担当職員
日下寛治	総合研究推進本部	事務担当職員
東郷綾	総合研究推進本部	事務担当職員
西川加奈	総合研究推進本部	事務担当職員
藤井佳子	総合研究推進本部	事務担当職員

当日運営を含む事務サポート

大川知子	総合研究推進本部	事務担当職員
藤原純子	総合研究推進本部	事務担当職員

6-2. スタッフリスト

企画	総合研究推進本部
デザイン(広報・サイン)	Studio Kentaro Nakamura
イベント当日サポーター	総合研究推進本部 URA 内野歩美 大川友之 大西絵奈 大原有理 岡崎麻紀子 勝島倫子 瓦井裕子 清田聡子 齊木あや 白井哲哉 菅井佳宣 寺川まゆ 中平博之 納谷憲幸 長谷川景子 前田博昭 水野良美 総合研究推進本部 事務担当職員 荒木智子 大石万寿美 可貴悠子 小西葵絵 松山祐輔
写真撮影・提供 撮影補助	岡崎累 永田奈緒美(情報環境機構コンテンツデザイン支援サービス)
ステージ音声	Flat Box
監修	総合研究推進本部

6-3. 準備～事後スケジュール

2025年	1月	2025年度の企画運営体制について検討
	2月～3月	デザイナーとの調整開始 京都市との共催企画調整開始(～9/27(土)イベント当日まで)
	4月～5月	ゼスト御池の会場予約 広報戦略検討(成長戦略本部・デザイナーとの打ち合わせ)、ホームカミングデイとのコラボレーション 企画調整開始、京都市教育委員会との連携 ゼスト御池企画検討、出展募集準備(チラシ・公募要領・WEB ページ)、ポスター・チラシ作成開始、 K.U.RESEARCH 更新、託児室検討・託児業者調整
	6月	6/3(火)出展募集開始(～7/9(水)正午締切) 附属図書館利用支援課、附属図書館研究支援課との連携開始 出展者募集説明会(6/11(水); オンライン開催)、ゼスト御池出展案内作成開始
	7月	チラシ・ポスター入稿・印刷・納品、ポスター・チラシ高校発送、K.U.RESEARCH 更新、研究者の本棚リスト作成、中吊りポスター・デジタルサイネージ作成、京大正門横広報センター連携、X(旧 Twitter)本 格投稿開始、Facebook 投稿、ゼスト御池会場使用にかかる資料提出(7/31(水))
	8月	サイエンスポータル ページ作成、中吊り・デジタルサイネージ納品、 会場サイン検討、京大公式 HP 掲載、パンフレット作成、ノベルティ・対話シール・トートバッグ検討開始 学問のやどりぎとのタイアップイベント開始、ゼスト御池出展者向け説明会(8/22(金)) ピッチプレゼン動画提出
	9月	みやこ ad.京都市役所前駅デジタルサイネージ(9/7(日)～9/27(土)) 来場者アンケート・出展研究者アンケートと名札作成、地下鉄中吊り広告(9/19(金)～25(木))、サイン 納品、ノベルティ納品(うちわ、トートバッグ、対話シール、しおり) スタッフ運営マニュアル作成 ピッチプレゼン動画編集、当日サポートスタッフ説明会(9/10(水)) 時計台用パンフレット作成開始、時計台出展案内作成開始
		前々日(9/25(木))から搬入物品整理～前日搬入(9/26(金))～当日(9/27(土)) 来場者・研究者アンケート集計開始 時計台開催用サイン検討・作成開始
	10月	時計台出展者向け説明会(10/3(金)) 来場者・研究者アンケート作成 時計台用 X(旧 Twitter) 広報開始 サイエンスポータル ページ作成、京大公式 HP 掲載
	11月	前日準備(10/31(土))～当日(11/1(土))
11月以降	来場者・研究者アンケート集計、報告書作成 アカデミックデイ賞確定 → 賞状郵送 当日使用ポスターKURENAI 登録 K.U.RESEARCH 更新	

7. 資料

7-1. ブックリスト

■ 7-1-1. 「京都大学アカデミックデイ 2025@ゼスト御池」のブックリスト

ブース	登壇者等	推薦図書 ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード
K	アカデミックデイ×京都市共催企画 研究者と立ち話（ポスター／展示） 京都市 『京都市の取組について』	若者にお勧めしたい本	『利己的な遺伝子』 リチャード・ドーキンス（日高敏隆、岸由二、羽田節子、垂水雄二訳）	強いものが生き残るのではなく、変化できるものが生き残る。生物や企業が生き残る為に磨いてきた生存戦略は、現代を生きる我々にとっても、重要な道しるべとなり得ます。
		若者にお勧めしたい本	『経営戦略全史』 三谷宏治 日経BP	強いものが生き残るのではなく、変化できるものが生き残る。生物や企業が生き残る為に磨いてきた生存戦略は、現代を生きる我々にとっても、重要な道しるべとなり得ます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『スパイス、爆薬、医薬品：世界史を変えた17の化学物質』 ジェイ・パレサン、ペニー・ルクター（著、編集）、小林力（訳） 中央公論新社	化学って何の役に立つの？。近代工業を起こし、戦争の引き金を引き、多くの人々を病から救い、環境問題の原因となっている化学物質を、歴史的なエピソードと絡めて紹介している良書です。
C1	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院教育学研究科・講師 BROTHERHOOD Thomas 『世界市民教育に対する様々なアプローチ』	自分の研究に関連して紹介したい本	『日本型多文化教育とは何か：「日本人性」を問直す学のデザイン』 松尾 知明 明石書店	2018年の入管法改定を契機に「移民時代」を迎えた日本では、多文化共生の課題は新たな段階を迎えている。本書は、それに対する考え方や進め方を具体的に構想し、「日本人性」の概念を問直すことで、日本型多文化教育のグランドデザインを提案する。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Conversations on Global Citizenship Education: Perspectives on Research, Teaching, and Learning in Higher Education』 Emiliano Bosio Routledge	この本には、世界市民教育という概念に関する、影響力のある欧米の学者たちの最近の視点が掲載されています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『国際理解教育を問直す：現代的課題への15のアプローチ』 日本国際理解教育学会 明石書店	日本国際理解教育学会30年の研究成果を踏まえつつ、理論と実践をメタ的に振り返る。原点への問いなおしからカリキュラムや授業デザインなどの実践的課題、そして多文化教育、シティズンシップ教育などの現代的課題まで、根源的な問いを立て、課題に応える。
T1	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院文学研究科・教授 児玉聡 『幸せな「人生のしまい方」って？』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ゴルギアス』 プラトン（三嶋輝夫訳） 講談社	漠然と「文学部的なもの」への興味関心から文学部を志した記憶があります。入学してからも何を専門にするのか決まっていなかったのですが、プラトンの対話篇を読む1年生向けのゼミナールで哲学に触れ、結局研究者の道へと進むことになりました。哲学は真摯に知を求める精緻かつダイナミックな営みです。そのスピリットを最もよく感じられるのはやはりプラトンの対話篇だと思います。その中でも『ゴルギアス』はおすすめです。「正しさ」「善さ」を追求するソクラテスの探求に是非とも触れてみてください。
		今ハマっている本	『教養としてのハイブランド ツウーの白シャツが10万円もする理由』とあるショップのてんちょう 彩図社	研究者のイメージに違わず、ファッションにあまり関心なかった（ちなみにオシャレな研究者もたくさんいます！）、いわゆるブランドの服や小物がアレほど高額な理由はさっぱりわかっていませんでした。本書は20世紀から現在に至るまでの服飾史の本で、様々なブランドやデザイナーが「身体を覆う単なる布」という枠を超えて服飾という文化を織りなしている事がわかります。今はオシャレな研究者になれるよう勉強中です笑。
		若者にお勧めしたい本	『法律婚って変じゃない？：結婚の法と哲学』 山田八千子 信山社	近年、選択的夫婦別姓制度や同性婚などといった制度の導入が話題になっています。婚姻の自由は日本国憲法に明記された権利であり、その範囲が拡張することは望ましいことのように思われます。しかし、そもそも私達が社会生活を営むうえで、法律により明記された婚姻制度は必須なのでしょうか。本書は法哲学や民法学、倫理学など様々な専門家が多様な視点から婚姻制度を考察しており、若い人にもぜひ一読いただきたいです。

ブース	登壇者等	推薦図書	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード
		ジャンル		
T1	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院文学研究科・教授 児玉聡 『幸せな「人生のしまい方」って？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『老後ひとり難民』 沢村香苗 幻冬舎	最近よく聞く「老後おひとり様問題」。背景には、2020年の時点で、高齢者世帯のうち「単独」または「夫婦のみ」で暮らしている世帯が7割にのぼるといふ実態があります。夫婦で暮らしている場合でも、パートナーに万が一のことがあれば「おひとり様」になってしまうかもしれません。本書では、老後頼れる人がいない場合に生じる様々な問題を具体的に紹介したうえで、安心して老後を過ごすために必要な備えについて解説しています。もちろん、紹介される情報はおひとり様でない方にも役に立ちます。誰もが迎える人生の終わりに向けた最初の準備として、ぜひ本書を手にとってみてください。
T2	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究科・特定助教 小泉 志保 『あなたはどのタイプ？医療AIで重視すること』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ELSI入門』 カテライ アメリア 編／鹿野 祐介 編 ／標葉 隆馬 編 丸善出版	AIや量子技術など最先端科学技術が社会にもたらす倫理的・法的・社会的課題（ELSI）を、初学者にもわかりやすく整理し、オープンな議論から実効的な社会制度づくりまでを考察した一冊です。科学と社会をつなぐ視点が広がり、多様なステークホルダーと共に未来像を描く基盤になります。
T5	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院エネルギー科学研究科・准教授 松山 顕之 『宇宙の「はじまり」を次世代のエネルギーにー物理と計算で描く未来』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ソフィーの世界：哲学者からの不思議な手紙』 ヨースタイン・ゴルデル著（池田香代子訳） 日本放送出版会	中学生の頃、英語の教科書の教材だったのを興味をもって読んだように思います。社会のあり方や物事の真理を追求して考えるようになったきっかけの本でした。何事も「自分で考えること」が楽しくなり、気がついたら研究者になっていたという感じです。
		若者にお勧めしたい本	『フラニーとゾーイー』 サリンジャー（野崎孝訳） 新潮社	人生にさまざまな失敗やトラブル、単になんとなく元気が出ないときもありますがそんなときはこの本を読むと頑張ろうと思えます。原書でも読み、村上訳も読みましたが、野崎訳を繰り返し読んだので他が受け入れづらくなってしまいました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『リーゼ・マイトナー：核分裂を発見した女性科学者』 マリッサ・モス（中井川玲子訳） 岩波書店	ウランの核分裂反応を解明した女性科学者リーゼ・マイトナーの本です。科学的な読み物としても、伝記としても丁寧にかつ読みやすく書かれています。物理学の歴史の1ページを知ることのできる本としてさまざまな方にお薦めします。
		今ハマっている本	『「なぜ「若手を育てる」のは今、こんなに難しいのか：“ゆるい職場”時代の人材育成の科学』』 古谷星斗 日経BP日本経済新聞出版	ハマっているというところとちょっと違いますが少子高齢化の今、大学教員として学生の置かれた状況を日々勉強中です。昔は昔、今は今でその時々の難しさがありますが、人を形作る思想や知識、経験の価値を大事にしてほしいと思っています。
T6	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院理学研究科・准教授 榎戸輝揚 『宇宙線で開拓する科学：シチズンサイエンスから月の水資源探査へ』	自分の研究に関連して紹介したい本	『今日からモノ知りシリーズ トコトンやさしい天文学の本』 山口弘悦、榎戸輝揚 日刊工業新聞社	京都大学アカデミックデイに登壇する榎戸が執筆した、最先端天文学を含む宇宙像をわかりやすく、トピック毎に紹介している本です。ぜひ、読んでみてください。
		若者にお勧めしたい本	『宇宙創成』（上巻・下巻） サイモン・シン（青木薫訳） 新潮社	私達が到達した宇宙像がどのように成立してきたのかを考えるうえで、とても読み応えのある本です。オススメです。
T7	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院工学研究科・教授 横川隆司 『マイクロチップで臓器を作ろう！』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	私が修士課程の時に留学したカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で教科書として使われており、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえることができるようになりました。京大の講義でも、この教科書をベースにマイクロ加工に関する講義をしています。Micro Electro Mechanical Systems (MEMS)の基盤技術を一通り学習するのに適した書籍です。

ブース	登壇者等	推薦図書	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード
		ジャンル		
T9	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院エネルギー科学研究科・講師 藪塚 武史	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『医学生』 南木佳士 文藝春秋	著者が秋田大学医学部で実際に医学生だったころをモチーフにして書いたとされる名作中の名作。今にして思えば、本書が医学のお手伝いをする「生体材料学」という分野を志すきっかけの一つだったように思います。エリート養成機関が舞台の話には実に泥臭く、切ないエピソードが満載です。人の命をあずかる仕事に就くことの大変さが、内臓をえぐられるかのようなリアルな筆致で描かれています。
	『骨の主要な無機成分「アパタイト」が切り拓く先進医療』	今ハマっている本	『三浦雄一郎の肉体と心 80歳でエベレストに登る7つの秘密』 大城和恵 講談社	著者の大城先生は日本人初の国際山岳医として、三浦雄一郎さんのエベレスト登頂や、イッテQ!のイモトアヤコさんのマナスル登頂などで、チームドクターとして活躍された山岳医療のプロです。今年、研究会で大城先生のご講演を拝聴する機会があり、その過酷かつ高度な仕事に心から感銘を受けました。
T9	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院エネルギー科学研究科・講師 藪塚 武史	若者にお勧めしたい本	『格闘するものに〇』 三浦しをん 新潮社	直木賞作家・三浦しをんの処女作。漫画好き文系女子大生の抱腹絶倒就職活動奮闘記です。著者の初期の作品に特有な、ライトなタッチの文章が読者をグイグイ引き込みます。男性の方にも、もちろんおすすめですよ。
	『骨の主要な無機成分「アパタイト」が切り拓く先進医療』	自分の研究に関連して紹介したい本	『別冊 完全図解 118元素と周期表』 ニュートンプレス	本書は、化学の基本からそれぞれの元素の特徴、化学物質と日常生活とのかかりについて、膨大な数のイラストを用いてわかりやすく答えてくれます。本書に限らず、写真入りの化学書は実に楽しく、社会人の方や受験生だけでなく、小中学生の皆さんにもおすすめです。
T11	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院理学研究科・教授 田中貴浩	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『時空のさざ波: 重力波を求めて』 坪野 公夫 丸善	大学の学部生の頃に読んで、重力波研究の当時の最前線を感じることができました。また、難しい課題があるのだということを知りました。
	『重力波を用いた新しい物理学の探求』	自分の研究に関連して紹介したい本	『深化する一般相対論 ブラックホール・重力波・宇宙論』 田中貴浩 丸善出版	自分の書いた本です。わかりやすいお話しだけの軽いノリの本とは言えませんが、少し素養のある方なら、わかった気になれるようにと書いた本です。一般相対論の不思議な世界をお伝えすることができればと思います。
G2	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院農学研究科・ポスドク 加藤優太	今ハマっている本	『街でよく見かける雑草や野草がよーくわかる本』 岩槻秀明 秀和システム	植物は身近なようで心理的には意外と遠いものです。この本を片手に今まで知らなかった植物の名前、その生態、特徴を知っていくと、植物との距離が縮まり、見えていたけど知らなかった世界が広がり、日々が楽しくなります。
	『顕微鏡で観てみよう！植物のカタチ』	自分の研究に関連して紹介したい本	『植物の形には意味がある』 園池 公毅 ペレ出版	植物のカタチについての思索を広げたくなった方にお勧めの本です。そして、まだまだわからないことがたくさんあることも実感されると思います。少しずつ、世界を広げていきましょう。
G3	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院工学研究科・准教授 廣谷 潤	若者にお勧めしたい本	ドラえもん	こんなものあったら良いな、できたら良いな、という純粋な想いが技術を進化させる原動力だと思っています。色々な漫画やアニメ、是非読んでみてください。
G4	研究者と立ち話（ポスター／展示） ヒト行動進化研究センター・特定助教 富谷 進	若者にお勧めしたい本	『どうぶつのわかっていること・わかっていないこと』 木下さとみ（作）、吉森太助（絵）、 京都大学野生動物研究センター 小学館集英社プロダクション	動物に関する書籍では、分かっていることが強調されがちですが、本書ではあえて、分かっていることにも光を当てています。最新の科学的知見が、絵本の形式で子どもにも分かりやすく伝えられているのと同時に、科学的教科書的な思考に縛られず、読者の豊かな発想を尊重する包容力にあふれています。世界をよりよく知るために「問う」ことの大切さと楽しさを思い出させてくれる、大人（そして少し疲れた研究者）にも推奨したい一冊です。

ブース	登壇者等	推薦図書	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード
		ジャンル		
G5	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院農学研究科・准教授 村上一馬 『似たものどうしはひっつきやすい。これ、人間だけでなくタンパク質でもそうなんです』	自分の研究に関連して紹介したい本	『実験医学増刊 Vol.41 No.12 いま新薬で加速する神経変性疾患研究』 小野賢二郎 編集 羊土社	メタアグリゲート（アミロイドと生体分子との共凝集体）など、神経変性疾患研究と新薬に関する最前線がわかりやすく解説されています。基本的に研究者向けですが、専門用語の解説文付きです。
G6	研究者と立ち話（ポスター／展示） 総合研究推進本部・特定教授 高橋 良輔	若者にお勧めしたい本	『時計遺伝子 からだの中の「時間」の正体』 岡村均 講談社	私たちの体内時計を制御する「時計遺伝子」により全身の生体リズムが形成される 巧妙で美しい機構が、この分野のトップレベルの研究者により分かりやすく書かれています。また、睡眠障害や生活習慣病が生体リズムの異常と関連することも、そのメカニズムとともに詳しく示されています。筆者が長きにわたって強い情熱をもって真摯に没頭されてきた研究の歴史に深い感銘をうけました。
	『目指せ“未病”！～認知症にならない、なっても困らない社会へ～』	若者にお勧めしたい本	『フェルマーの最終定理』 サイモン シン（著）、青木 薫（翻訳） 新潮社	数学界最大の超難問に挑戦した天才数学者ワイルズを中心としたノンフィクション。宇宙の真理にもつながる極めて美しい数学世界の偉業で、人類の英知の一つの到達点であるが、我々の目の前の難題も決して解決が不可能ではないと思わせ、勇気づけてくれるような内容の本です。ただし、それには現世的ないくつもの大きな犠牲が必要ですが。
G7	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究科・大学院生 六田 泰央 『神経発達症の“しくみ”を探る』	今ハマっている本	『もものかんづめ』 さくらももこ 集英社	「ちびまる子ちゃん」の作者さくらももこさんのエッセイ。日常の出来事や思い出が独特のユーモアと温かさで描かれています。日常って、実はおもしろくて愛おしいことであふれているのかもしれない。そんな気持ちになれる、お気に入りの一冊です。
		若者にお勧めしたい本	『新版 思考の整理学』 外山滋比古 筑摩書房	「考えること」を考えるヒントをくれる一冊です。この本に書いてあること全てが自分にとっての正解とは限らないけれど、思考との向き合い方を見つめ直す、大切な視点が詰まっています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『科学から理解する 自閉スペクトラム症の感覚世界』 井手 正和 金子書房	感覚過敏や感覚の鈍麻など、感覚に関する特性は、自閉スペクトラム症のよく知られる側面のひとつですが、その詳細、実際にどのような体験があるのか、とか、それが今の科学でどう理解されているのか、といったことは、あまり広く語られているとはいえません。様々な実験や研究、ときには個別のエピソードを交えて様々な角度からASDの感覚について述べる本書は、自閉スペクトラム症についてだけでなく、「感覚」というものについての不思議を教えてください。語り口は平易でわかりやすく、専門外の方にも面白く読みやすい、魅力いっぱいの本です。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『DSM-5-TR 精神疾患の分類と診断の手引』 American Psychiatric Association 医学書院	精神疾患に関する診断基準として広く使われている書籍です。精神科の疾病概念は、その曖昧性や恣意性がしばしば批判の対象になりますし、基準を機械的に援用して診断を行うようなものでもないことは勿論ですが、個人々や状況によって大きく異なる現れ方をし、生物学的な原因もわからないなかで、さまざまな精神症状の組をなんとか分類して次の理解の糧にしようという祈りのようなものを、個人的にはこうした診断基準からは感じています。
G8	研究者と立ち話（ポスター／展示） ヒト行動進化研究センター・教授 中村 克樹	自分の研究に関連して紹介したい本	『サルの子育てヒトの子育て』 中道 正之 KADOKAWA	サルはどんな子育てをしているのでしょうか
	『ヒトの脳、サルの脳 どこが似てる？ どこが違う？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ヒトの意識の進化をたどる』 中村 克樹 訳 丸善出版	ヒトの知性の特徴が分かる

ブース	登壇者等	推薦図書	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード
		ジャンル		
G9	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 高等研究院・特定講師 金水緑 『1分子で診る生命のひみつ』	自分の研究に関連して紹介したい本	『システム生物学入門』 畠山哲央、姫岡優介 講談社	生命のふるまいを、物理や数学の視点から読み解く“システム生物学”の入門書です。一見複雑に見える生物の仕組みが、実はシンプルな法則の下で生まれている、そんなことに気づかせてくれる一冊です。
		若者にお勧めしたい本	『学問の発見 数学者が語る「考えること・学ぶこと」』 広中平祐 講談社	幼い頃から世界的な数学者へと歩まれていく道のりが、どの世代の読者にとっても興味深く、わかりやすく綴られた一冊です。国内外の同僚たちと交流を重ねながら新しい理論を築き上げていく過程や、学ぶことの楽しさには、時代を超えた共感を覚えます。さらに、当時の日本や京都大学の学風を垣間見ることができる点も、本書の大きな魅力のひとつです。
G10	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医生物学研究所・助教 北畠真 『負けるが勝ち？鳥インフルエンザに合成生物学で立ち向かう』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『微生物の狩人』 ポール・ド・クライフ 岩波文庫	研究のモチベーションや楽しみ、苦勞。発見が世界を変える瞬間。読むだけで、研究者になったような興奮を感じました。
		若者にお勧めしたい本	『二重らせん』 ジェームス・D・ワトソン（江上不二夫、中村桂子訳） 講談社	DNAの二重らせん構造発見に関わる当事者のエピソード。著者は話を「盛る」性質があるらしく、登場人物の性格などはかなりデフォルメされていると言われます。しかしそれを差し引いても、大きな発見に少しずつ近づくスリルを当事者目線で味わえるこの本は面白い。
ちゃぶa1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 総合生存学館・特定教授 宇佐美文理 『中国古代の死後世界の表象』	自分の研究に関連して紹介したい本	『中国の詩学』 川合康三 研文出版（山本書店出版部）	中国文学が専門の人だけでなく、すべての文学を読み、あるいは研究する人におすすめしたいです。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『走れメロス』 太宰治 岩波書店	いま思うとなにに感動したのかがいまひとつよくわからないのですが、ともかく文学部進学への路を決定づけた作品です。
		今ハマっている本	『蘇東坡詩選』 蘇東坡 岩波書店	蘇東坡の詩を読んでいます。日本語で読めるものもいろいろありますが、手に入りやすいものを挙げました。
		若者にお勧めしたい本	『メノン』 プラトン 岩波文庫	およそ自分の頭で何かを考えようとするすべての人に。
ちゃぶa2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院生命科学研究所・特定講師 西川星也 『数式で眺める多細胞社会学』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ガイドツアー 複雑系の世界: サンタフェ研究所講義ノートから』 メラニー・ミッチェル（高橋洋訳） 紀伊国屋書店	この本を読んだことで、様々な生命現象についてシステムとして理解するという視点に興味を持ち、今の研究分野へ進みました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『システム生物学入門』 畠山哲央、姫岡優介 講談社	大学生以上向けにはなってしまうのですが、自分の分野で使う数式について非常に丁寧に書かれている良書です。

ブース	登壇者等	推薦図書	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード
		ジャンル		
ちゃぶ a3	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 ヒト行動進化研究センター・特定助教 壹岐胡巳 『サルの手・遊び・笑いの世界』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『未明の闘争』 保坂和志 講談社	一般的には文法的に正しくないと言われてしまうようなセンテンスが書かれていたり、どこまでも脱線を繰り返したり、とにかく破茶滅茶な小説ですが、このような作品を書き、読み、楽しんでしまう人間という動物って一体何者なんだと気になりだし、気づいたら動物の研究をはじめていました。
		今ハマっている本	『もいもい』 市原 淳 ディスカヴァー・トゥエンティワン	読み聞かせて使っていました。乳幼児という動物がどのようなイメージと音の組み合わせを興味深く、楽しく思うのか考えながら読むのが楽しかったです。
ちゃぶ b1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 Graduate School of Letters・Program-Specific Associate Professor Justine Le Floch 『Historicizing Anger (Early Modern France)』	若者にお勧めしたい本	『恋愛のディスクール・断章』 ロラン・バルト みすず書房	In my view, this is the best book ever written about love. Barthes identifies a set of cultural codes linked to romantic passion and reveals how what we often consider most intimate, most authentic, and most personal is in fact shaped by a collective experience of passion. He draws his examples from both lived experiences and literary narratives, demonstrating the continuity between the two.
		自分の研究に関連して紹介したい本	『感情史とは何か』 バーバラ・H.ローゼンワイン 岩波書店	This work offers an excellent introduction to the history of emotions. One of its key strengths lies in the fact that the field was early on equipped with a set of handbooks and methodological texts, which ensured its continuity and standardization.
ちゃぶ b2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院文学研究科・学生 石原諒太 『道徳を問い直す：倫理学の最前線』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ソフィーの世界：哲学者からの不思議な手紙』 ヨースタイン・ゴルデル著（池田香代子訳） 日本放送出版会	私が哲学の世界に入るきっかけとなった本です！

■ 7-1-2. 「京都大学アカデミックデイ × ホームカミングデイ 2025」のブックリスト

アカデミックデイ2025@時計台					
ブース	登壇者等	ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード	時計台1階で販売あり
K2	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院生命科学研究所・特任助教 五十嵐太一 『進め！止まれ！また進め！DNA複製のなぞ』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『海底二万海里』 ジュール・ベルヌ 福音館書店	中学生の時に何度も読み返しました。冒険譚としての楽しみはもちろんのこと、主人公の教授とその助手が、膨大な海洋生物を緻密に分類していく描写が妙に心地良く、「学者」という職業への憧れの原点となりました。彼らの語る系統図を自分でノートに描きだして、地球上の生物が皆同じ起源に由来することに気づいたときの衝撃は、DNA複製を研究したいという理由として、今も私の軸になっています。	○
K2	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院生命科学研究所・特任助教 五十嵐太一 『進め！止まれ！また進め！DNA複製のなぞ』	若者にお勧めしたい本	『系統樹思考の世界』 三中信宏 講談社	歴史学の研究者が自身の理論を検証するには、タイムマシンで過去を改変して反証を示すべきですが、無理です。同様に、生物を時空間的な観点から研究する方法にも限界があります。そうした背景から、歴史学や生物学は「厳密な科学ではない」と軽視される風潮がありました。帰納法や演繹法で導き出せない結論や推論は、どのように展開すべきか？生物学の質が問われる時代だからこそ、読むべき一冊です。	○
K2	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院生命科学研究所・特任助教 五十嵐太一 『進め！止まれ！また進め！DNA複製のなぞ』	自分の研究に関連して紹介したい本	『生物学』 石川統編 東京学友同人	分子生物学から生態学まで。生物学者を志す中学生・高校生にこそ読んでほしい王道の教科書。	○
K4	研究者と立ち話（ポスター／展示） アジア・アフリカ地域研究研究所・博士学生 赤岡佑治 『ゲームの力で持続的な狩猟を実現！』	自分の研究に関連して紹介したい本	『コモンズのカバンス：人びとの協働と制度の進化』 エリノア・オストロム 晃洋書房	地域の共有資源（コモンズ）をめぐる協働の仕組みと、それを支える制度がどのように形成・変化していくのかを丁寧に論じた一冊です。アフリカ熱帯林におけるブッシュミートの管理に関しても、本書の議論と深く通じるものがあります。制度を「外から与えられるもの」ではなく、「現場の実践の中で形づくられていくもの」とする視点に、強く共感を覚えました。	○
K4	研究者と立ち話（ポスター／展示） アジア・アフリカ地域研究研究所・博士学生 赤岡佑治 『ゲームの力で持続的な狩猟を実現！』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『森棲みの生態誌—アフリカ熱帯林の人・自然・歴史I（アフリカ熱帯林の人・自然・歴史1）』 木村 大治、北西 功一 京都大学学術出版会	アフリカ熱帯林に暮らす人々の生活と自然との関わりが、丁寧なフィールドワークを通じて描かれている一冊です。私自身も森に暮らす人々の生活に魅了され、この世界をもっと深く知りたいと思い、アフリカ熱帯林の狩猟活動を研究する道に進みました。人と自然の関係を生活実践の中から読み解く本書の視点は、現在の私の研究の基盤にもなっています。	○
K4	研究者と立ち話（ポスター／展示） アジア・アフリカ地域研究研究所・博士学生 赤岡佑治 『ゲームの力で持続的な狩猟を実現！』	今ハマっている本	『ゲームメカニクス大全 第2版 ボードゲームに学ぶ「おもしろさ」の仕掛け』 Geoffrey Engelstein, Isaac Shalev 翔泳社	ボードゲームのメカニクスを体系的に紹介し、ゲームの面白さがどのように構成されているかを解き明かす実践的な内容の書籍です。現在開発しているシリアスゲームにおいても、本書は大いに参考になりました。アイデアの種が随所に散りばめられており、単なる技術書にとどまらず、創造的なゲーム設計を支える理論的な基盤として活用できる一冊です。	○
K4	研究者と立ち話（ポスター／展示） アジア・アフリカ地域研究研究所・博士学生 赤岡佑治 『ゲームの力で持続的な狩猟を実現！』	若者にお勧めしたい本	『人間の土地』 サン・テグジュペリ 新潮社	サン＝テグジュペリが飛行士としての体験をもとに、人間の尊厳や自然との関係、他者へのまなざしを描いた作品です。過酷な環境のなかでの責任や思いやりに触れながら、生きる意味を問い続ける彼の姿勢に深く心を動かされました。サン＝テグジュペリの冒険精神と人間観は、私自身がアフリカの森でフィールドワークをする決意を固める大きな後押しとなりました。	○
K6	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究所・講師 生野真嗣 『未来の社会を担う医療人材の育て方』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『22世紀の医師のリアル』 西崎祐史、志水太郎、上原由紀編 メジカルビュー社	様々なキャリアで活躍する先輩医師へのインタビュー集です。直接的に自分の進路の参考になるだけでなく、「こんなに幅広い未来があるんだ！」と、医学生が自らの未来の可能性に気づききっかけにもなるのではないかと思います。	○
K6	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究所・講師 生野真嗣 『未来の社会を担う医療人材の育て方』	若者にお勧めしたい本	『医師・医学生のための人類学・社会学』 飯田淳子、錦織宏編 ナカニシヤ出版	現場で学ぶということは、教室での学びとは全く異なります。その違いや実りある学びのための方法を、文化人類学という医学生にとってなじみのない学問を用いて扱った一冊です。今までになかった学びの視点を提供してくれると思います。	○
K6	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究所・講師 生野真嗣 『未来の社会を担う医療人材の育て方』	自分の研究に関連して紹介したい本	『質的研究の考え方』 大谷尚 名古屋大学出版会	自然科学分野で一般的に量的研究と異なる、質的研究という視点を学ぶために最もふさわしいと考えている一冊です。私が質的研究を実施できるようになったのはこの本のおかげです。	○
K9	研究者と立ち話（ポスター／展示） 高等研究院物質—細胞統合システム拠点・特定准教授 本間 貴之 『京都大学の共用機器で拓く研究力』	若者にお勧めしたい本	『NEXUS 情報の人類史』 ユヴァル・ノア・ハラリ 河出書房新社	ヒトという生物に対して、新しい見方を提供してくれる、刺激ある本で、分厚いがぜひ、一読する価値があると思う。「サピエンス全史」や「ホモ・デウス」から順に読んでいくのもオススメ。	○
K9	研究者と立ち話（ポスター／展示） 高等研究院物質—細胞統合システム拠点・特定准教授 本間 貴之 『京都大学の共用機器で拓く研究力』	若者にお勧めしたい本	『知の体力』 永田和宏 新潮新書	本出版者が直接関わり尊敬する、京都大学の名誉教授による本。 平易な語り口で読みやすい内容となっており、京都大学の自由闊達な学風に触れられる。 学ぶことの本質を問いかけてくれる良書で、できれば大学入学前や学部1、2年生くらいまでに読むと、視野を広げ、日々の行動の指針となるように思う。 ぜひ手に取ってみてほしい、おススメの本。	○
K9	研究者と立ち話（ポスター／展示） 高等研究院物質—細胞統合システム拠点・特定准教授 本間 貴之 『京都大学の共用機器で拓く研究力』	若者にお勧めしたい本	『京都大学 アイデアが湧いてくる講義：サイエンスの発想法』 上杉志成 祥伝社黄金文庫	本出版者が直接関わり尊敬する、京都大学の現役教授による本。 平易な語り口で読みやすい内容となっており、京都大学の自由闊達な学風に触れられる。 学ぶことの本質を問いかけてくれる良書で、できれば大学入学前や学部1、2年生くらいまでに読むと、視野を広げ、日々の行動の指針となるように思う。 永田先生の著書と合わせぜひ手に取ってみてほしい、おススメの1冊。	○
K10	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院理学研究所・教授 藤原耕二 『双曲幾何』	自分の研究に関連して紹介したい本	『離散群の幾何学』 藤原耕二 朝倉書店	自分が書いた本です。幾何学的群論の入門書ですが、大学一年生の微積と線形代数を知っていれば読めます。	○

ブース	登壇者等	ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由・コメント・エピソード	時計台1階で販売あり
K14	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究科・特定教授 大森崇 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	今ハマっている本	『将棋指しの腹のうち』 先崎学 文藝春秋	藤井聡太7冠の影響で、将棋メシ、勝負メシが人気ですが、おもしろくもほろ苦い将棋メシの数々が画かれています。将棋界のことを書かせたら右に出る者はいない先崎九段による棋譜が一枚もない将棋の本、将棋はまったくわからないわたしですが読みましたらやめられないし、くり返し読んでいます。「うつ病九段」もお薦めですが、話が重いのでこちらを紹介しします。	○
K14	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究科・特定教授 大森崇 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	若者にお勧めしたい本	『ロウソクの科学』 マイケルファラデー著 三石巖訳 角川書店	燃えているロウソクを想像してほしい。なぜ本でも紙でもない物質が炎を灯すのだろうか。溶けたロウはどこに行くのか。光や熱に変わるのだろうか。燃焼が起きるためにはなにが必要なんだろう。科学とは、日常にある疑問の答えを探す旅である。物理や化学の教科書には旅の行先しか書いていない。科学の道程で発見されてきたわくわくするような風物や見聞が、1861年ロンドンの少年少女に語られた。本書はその講演録である。	○
K14	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究科・特定教授 大森崇 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	今ハマっている本	『赤いダイヤ』 梶山季之 集英社	赤いダイヤ＝小豆の相場を巡る壮絶な仕手合戦を描いた大衆小説。郷田九段が先崎九段に「赤いダイヤはいい小説じゃないか」といったというエピソードを知って本書を手にとった。確かに昭和の雰囲気をもった極上のエンターテインメントで、投機に翻弄される人間模様にのめりこんでしまい、1000ページにわたる長編にもかかわらず一気に読んでしまった。	○
K14	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究科・特定教授 大森崇 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	若者にお勧めしたい本	『遠山啓のコペルニクスからニュートンまで』 遠山啓 太郎次郎社	1985年に出版された本です。タイトルにあるようにとおりコペルニクスからニュートン時代までの物理学と数学の展開が書かれています。歴史的な背景あり、実験の紹介あり、さまざまな挿絵ありと非常にユニークな内容です。市民講演講座が基になっているのですが、私もこういう内容の授業をしてみたいと思いました。	○
K15	研究者と立ち話（ポスター／展示） 白眉センター/大学院文学研究科・特定助教 海老原志穂 『チベットのもふもふ、「ヤク」』	自分の研究に関連して紹介したい本	『チベット女性詩集：現代チベットを代表する7人・27選』 海老原志穂 段々社	20年以上、チベット語という言語に向き合ってきました。言語そのもの、そして、文化への理解をもとに翻訳を行い、解説をつけたものがこちらの詩集です。	○
K16	研究者と立ち話（ポスター／展示） アフリカ地域研究資料センター・准教授 金子守恵 『エチオピアの高齢職人と技能習熟－多角的な「生涯観」の構築に向けて－』	若者にお勧めしたい本	『みんなのための生涯学』 月浦崇、柴田悠、金子守恵 ナカニシヤ出版	新しく創出した「生涯学」という分野の入門書です。学際的な研究アプローチを、具体的な事例とともに初学者向けにわかりやすく解説しています。下記URLにて、書籍の序章（鼎談）の一部を紹介しています。 https://www.lifelong-sci.jinkan.kyoto-u.ac.jp/news20250317/index.html	○
K16	研究者と立ち話（ポスター／展示） アフリカ地域研究資料センター・准教授 金子守恵 『エチオピアの高齢職人と技能習熟－多角的な「生涯観」の構築に向けて－』	若者にお勧めしたい本	『アフリカを学ぶ人のために』 松田素二 世界思想社	フィールドワークによる成果を元に、アフリカの「現在（いま）」を知ることでできる入門書です。多様なアフリカの実情を知ることができるだけではなく、フィールドワークについて関心をもっている方にとっても参考になります。	○
K16	研究者と立ち話（ポスター／展示） アフリカ地域研究資料センター・准教授 金子守恵 『エチオピアの高齢職人と技能習熟－多角的な「生涯観」の構築に向けて－』	自分の研究に関連して紹介したい本	『土器づくりの民族誌』 金子守恵 昭和堂	エチオピアの土器づくり過程を、素材の入手から成形（露天での）焼成、販売・流通、利用までをとらえて、一連の過程で見出される特徴を、地縁技術として問題提起した民族誌です。60人の職人を対象に、土器の成形時に見出される手指の動かし方を比較分析し、その継承と技術革新の機序を考察しています。	○
ちゃぶ a1	ちゃぶ台囲んで談話め対話 大学院医学研究科・特定助教 鳥嶋 雅子 『あなたの正しい「知識」があなたの「生き方」をつくる：ゲノムの扉を一緒に開けてみませんか？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ヒト遺伝 白熱教室：学校ではきくと教えてくれない！』 和田敬仁（企画・監修）、松井仁美（作画）、京都精華大学（京都国際マンガミュージアム）事業推進室（編集） フジメディアカル出版	「遺伝」と聞くと、難しいものだと思われていませんか？この本は、そんなイメージをつくがえしてくれませんか。学校では学べないテーマがたくさん登場し、「ヒト遺伝」が私たちの生き方や社会とどう関わっているのかをわかりやすく教えてくれます。専門的な言葉ははじめてに説明されており、知識がなくとも安心して読める内容です。遺伝に興味がある人はもちろん、「遺伝って自分に関係あるの？」と思っている人にもぜひ手に取ってほしい一冊です！大友さんの方で記入いただけると嬉しいです。	電子書籍のみ
ちゃぶ a1	ちゃぶ台囲んで談話め対話 大学院医学研究科・特定助教 鳥嶋 雅子 『あなたの正しい「知識」があなたの「生き方」をつくる：ゲノムの扉を一緒に開けてみませんか？』	若者にお勧めしたい本	『CRISPR（クリスパー）ってなんだろう？』 Yolanda Ridge（著）、Alex Boersma（イラスト）、埤子理美（翻訳） 化学同人	「CRISPR-Cas9」は、DNA（遺伝子）を自由に書きかえられる技術のことです。この本は、そんな最先端の科学を、やさしい言葉とたくさんのイラストで教えてくれます。生き物の体のしくみや、病気の治し方、野菜や動物の育て方まで、いろんな場面で使われている「CRISPR-Cas9」ですが、なんでもできる技術だからこそ、仕組みや使い方についてはよく考える必要があります。この本を読めば「遺伝子って面白い！」「自分にも関係ある話なんだ」って思えるはず！科学にちょっとでも興味がある小学生・中学生・高校生のみなさんに、ぜひ読んでほしい一冊です！	○
ちゃぶ a1	ちゃぶ台囲んで談話め対話 大学院医学研究科・特定助教 鳥嶋 雅子 『あなたの正しい「知識」があなたの「生き方」をつくる：ゲノムの扉を一緒に開けてみませんか？』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『出生前診断の現場から 専門医が考える「命の選択」』 室月 淳 集英社	技術の進歩により、生まれる前の赤ちゃんの情報が分かるようになってきた一方で、「検査を受けるかどうか」「陽性だったかどうか」といった、とても大きな選択が必要になることもあります。この本では、実際の現場での悩みや、家族の気持ち、そして「命をどう受けとめるか」という問いに、正面から向き合う大切さが伝えられている一冊です。こう聞くと少し遠い話に思えるかもしれませんが、「命をどう受けとめるか」という問いは、誰にとっても身近なテーマです。「命」に、正解はあるのでしょうか——そんな問いを、自分自身のこととして考えるきっかけになる一冊です。	○
ちゃぶ b1	ちゃぶ台囲んで談話め対話 経営管理大学院アート寄付講座・特定准教授 運行 『「誰ひとり取り残さない」を、建前で終わらせないためには？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『演劇コミュニケーション学』 運行、平田オリザ（編著） 日本文教出版	元々演劇畑と保育畑を行ったり来たりしていた私が、保育現場に関わる人たちの人的環境由来のストレスを減らす仕組み作りがしたい、と思っていた時に出会ったのがこの本でした。あなたの働く現場・通う学校・暮らすまちでも、「演じ、対話すること」が何かを変えさせるきっかけになるかもしれません。（今井）	○

編集者 藤田弥世（総合研究推進本部）
福田将矢（総合研究推進本部）
渡辺真人（総合研究推進本部）
村角智恵（総合研究推進本部）
デザイン 永田奈緒美（情報環境機構 コンテンツデザイン支援サービス）
写真 岡崎累

発行日 2026年2月
発行 京都大学総合研究推進本部
問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合研究推進本部
Tel : 075-753-5119
E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp